宮崎市文化財調査報告書第 123 集

下北方下郷第６遺跡
（しもきたかたしもごうだいろくいせき）

平成 26 年度国宝重要文化財等保存整備費補助金対象事業発掘調査報告書

２０１９

宮崎市教育委員会

宮崎市文化財調査報告書第 123 集

下北方下郷第６遺跡
（しもきたかたしもごうだいろくいせき）

平成 26 年度国宝重要文化財等保存整備費補助金対象事業発掘調査報告書

２０１９

宮崎市教育委員会

序　文

本書は平成 26 年度に実施された、下北方下郷第 6 遺跡の発掘調査報告書です。

遺跡が所在する下北方地区は、旧石器時代から近世にかけての遺跡が密集していることから、周知の埋蔵文化財包蔵地「下北方遺跡群」として登録されております。また、こうした歴史的遺産を後世に伝えるため、本市では開発事業に伴う発掘調査・保存活動に取り組んでいるところです。

今回の発掘調査では、旧石器時代から近世にかけての遺構や遺物が多数確認され、下北方地区における歴史の重層性を再確認する成果となりました。本書の成果が広く市民のみなさまに活用され、地域の歴史や文化に親しむ上での一助となれば幸いです。

最後になりましたが、発掘調査にご協力頂いた皆様に感謝申し上げると共に、今後とも本市の文化財保護行政にご理解・ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

平成 31 年 3 月

宮崎市教育委員会

教育長　西田　幸一郎

例　言

1．本書は平成26年度に実施した、個人住宅建築に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書である。

2．本発掘調査は、宮崎市教育委員会文化財課が個人から依頼を受け、国宝重要文化財等保存整備費補助金対象事業（宮崎市市内遺跡）として実施した。

3．本調査に伴う文化財保護法の手続きは以下の通りである。

工 事 届（同法第 93 条第１項）	平成 26 年２月 17 日付
着手報告（同法第 99 条第１項）	平成 26 年５月７日付　宮教文第 45 号１
完了報告	平成 26 年７月 30 日付　宮教文第 45 号４
発見通知（同法第 100 条第１項）	平成 26 年７月 30 日付　宮教文第 45 号５
保 管 証	平成 26 年８月６日付　宮教文第 45 号６

4．現地における発掘調査、室内整理作業は以下の期間実施した。

発掘調査：平成 26 年４月 30 日～平成 26 年７月 25 日

整理作業：平成 27 年６月１日～平成 27 年 10 月 30 日

平成 28 年５月９日～平成 28 年７月８日

平成 28 年 11 月７日～平成 29 年２月 10 日

平成 30 年７月９日～平成 30 年 10 月 26 日

5．調査組織

調査主体　宮崎市教育委員会　文化財課

（平成 26 年度）

調査総括	課　　長	橋口　一也
	課長補佐	日高　貞幸
	副主幹兼埋蔵文化財係長	島田　正浩
調整事務	主　　査	鳥枝　　誠
庶務担当	主任主事	谷口　広清
調査担当	技　　師	河野　裕次
	嘱 託 員	川野　誠也

（平成 27 年度）

調査総括	課　　長	日高　貞幸
	課長補佐	小窪　裕俊
	埋蔵文化財係長	井田　　篤
調整事務	主　　査	鳥枝　　誠
庶務担当	主任主事	谷口　広清
整理担当	主任技師	河野　裕次
	嘱 託 員	徳丸　理奈

（平成 28 年度）

調査総括	課　　長	日高　貞幸
	課長補佐	小窪　裕俊
	埋蔵文化財係長	井田　　篤
調整事務	主　　査	金丸　武司
庶務担当	主任主事	武富　知子
整理担当	主任技師	河野　裕次
	嘱 託 員	徳丸　理奈

（平成 29 年度）

調査総括	課　　長	羽木本　光男
	課長補佐	小窪　裕俊
	副主幹兼埋蔵文化財係長	井田　　篤
調整事務	主　　査	金丸　武司
庶務担当	主　　事	杉尾　　悠
整理担当	主任技師	河野　裕次
	嘱 託 員	徳丸　理奈

（平成30年度）

調査総括	課　　長	富永　英典
	課長補佐	甲斐　史哲
	主幹兼埋蔵文化財係長	井田　　篤
調整事務	主　　査	稲岡　洋道
庶務担当	主　　事	杉尾　　悠
整理担当	主任技師	河野　裕次
	嘱 託 員	徳丸　理奈

6．現地における測量はトータルステーションを用いて行ない、個別の遺構実測図は1/20、1/10で作成した。また、個別遺構の写真撮影については6×7判モノクロ・リバーサルフィルムと35mmモノクロ・リバーサルフィルムを併用した。

7．現地における実測は河野、川野、渕内美智子が行なった。

8．現地における空中写真撮影は(有)スカイサーベイ九州に委託した。

9．本書に掲載した遺物の実測及びトレースは河野、徳丸、整理作業員が分担して行ない、石器実測の一部と遺物分布図作成を(有)ジパング・サーベイ、(株)イビソク宮崎営業所に委託した。

10. 本書における遺構略号は以下の通りである。
SA：竪穴建物　SB：掘立柱建物　SC：土坑　SE：溝状遺構　SH：柱穴

11. 本書に掲載した遺物実測図の縮尺は、土器・須恵器1/3、剥片石器2/3、礫石器1/2、鉄器1/2であり、その他のものについては図中に示している。

12. 本書に掲載した遺物実測図の表現については、以下の通りである。
強い稜線：実線　弱い稜線：破線　被熱の範囲：網掛け　磨面の範囲：矢印
調整の表現：以下の通り

13. 本書における土色の表記は『新版　標準土色帳』に依拠した。

14. 本書で示す方位は全て真北を示す。

15. 発掘調査により出土した遺物、及び調査の図面、写真、記録等は宮崎市教育委員会で保管している。

16. 本書の編集は河野が行なった。

本　文　目　次

第Ⅰ章　遺跡の位置と環境

第１節　地理的環境 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・1

第２節　歴史的環境 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・1

第Ⅱ章　調査に至る経緯と調査の経過

第１節　調査に至る経緯 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 5

第２節　確認調査の概要 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 5

第３節　調査の経過 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 5

第Ⅲ章　調査の成果

第１節　調査成果の概要 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 7

第２節　基本層序 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 7

第３節　旧石器時代の調査成果 ・・・・・・・・・・・・・・・・・ 7

第４節　古墳時代前期の調査成果 ・・・・・・・・・・・・・・ 41

第５節　古墳時代後期以降の調査成果 ・・・・・・・・・・ 70

第Ⅳ章　調査成果のまとめ ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 81

挿　図　目　次

第 1 図　周辺遺跡 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 3

第 2 図　下北方遺跡群 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 4

第 3 図　調査区位置図 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 6

第 4 図　遺構配置図 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 6

第 5 図　基本層序 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 8

第 6 図　Ⅴ～Ⅶ層礫分布図 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 10

第 7 図　Ⅴ～Ⅶ層石材別石器分布図 ・・・・・・・・・・・・・・ 11

第 8 図　トレンチ１石材別石器分布図 ・・・・・・・・・・・・ 12

第 9 図　トレンチ１器種別石器分布図 ・・・・・・・・・・・・ 13

第 10 図　旧石器時代遺物包含層出土石器実測図①・・ 14

第 11 図　旧石器時代遺物包含層出土石器実測図②・・ 15

第 12 図　旧石器時代遺物包含層出土石器実測図③・・ 16

第 13 図　旧石器時代遺物包含層出土石器実測図④・・ 17

第 14 図　旧石器時代遺物包含層出土石器実測図⑤・・ 18

第 15 図　旧石器時代遺物包含層出土石器実測図⑥・・ 19

第 16 図　旧石器時代遺物包含層出土石器実測図⑦・・ 20

第 17 図　旧石器時代遺物包含層出土石器実測図⑧・・ 21

第 18 図　旧石器時代遺物包含層出土石器実測図⑨・・ 22

第 19 図　旧石器時代遺物包含層出土石器実測図⑩・・ 23

第 20 図　旧石器時代遺物包含層出土石器実測図⑪・・ 24

第 21 図　旧石器時代遺物包含層出土石器実測図⑫・・ 25

第 22 図　旧石器時代遺物包含層出土石器実測図⑬・・ 26

第 23 図　旧石器時代遺物包含層出土石器実測図⑭・・ 27

第 24 図　旧石器時代遺物包含層出土石器実測図⑮・・ 29

第 25 図　旧石器時代遺物包含層出土石器実測図⑯・・ 30

第 26 図　旧石器時代遺物包含層出土石器実測図⑰・・ 31

第 27 図　旧石器時代遺物包含層出土石器実測図⑱・・ 32

第 28 図　旧石器時代遺物包含層出土石器実測図⑲・・ 33

第 29 図　旧石器時代遺物包含層出土石器実測図⑳・・ 34

第 30 図　旧石器時代遺物包含層出土石器実測図㉑・・・ 35

第 31 図　旧石器時代遺物包含層出土石器実測図㉒・・・ 36

第 32 図　古墳時代前期の主要遺構配置図 ・・・・・・・・・ 41

第 33 図　竪穴建物１実測図、出土遺物実測図① ・・・・ 42

第 34 図　竪穴建物１出土遺物実測図② ・・・・・・・・・・・ 43

第 35 図　溝状遺構 14 実測図、土層断面図 ・・・・・・・・ 44

第 36 図　溝状遺構 14（中層）遺物出土状況実測図
・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 45

第 37 図　溝状遺構 14 出土遺物実測図① ・・・・・・・・・・ 46

第 38 図　溝状遺構 14 出土遺物実測図② ・・・・・・・・・・ 47

第 39 図　溝状遺構 14 出土遺物実測図③ ・・・・・・・・・・ 48

第 40 図　溝状遺構 14 出土遺物実測図④ ・・・・・・・・・・ 49

第 41 図　溝状遺構 14 出土遺物実測図⑤ ・・・・・・・・・・ 50

第 42 図　溝状遺構 14 出土遺物実測図⑥ ・・・・・・・・・・ 51

第 43 図　溝状遺構 14 出土遺物実測図⑦ ・・・・・・・・・・ 52

第 44 図　溝状遺構 14 出土遺物実測図⑧ ・・・・・・・・・・ 53

第 45 図　溝状遺構 14 出土遺物実測図⑨ ・・・・・・・・・・ 54

第 46 図　溝状遺構 14 出土遺物実測図⑩ ・・・・・・・・・・ 55

第 47 図　溝状遺構 14 出土遺物実測図⑪ ・・・・・・・・・・ 56

第 48 図　溝状遺構 14 出土遺物実測図⑫ ・・・・・・・・・・ 57

第 49 図　溝状遺構 14 出土遺物実測図⑬ ・・・・・・・・・・ 58

第 50 図　溝状遺構 14 出土遺物実測図⑭ ・・・・・・・・・・ 59

第 51 図　溝状遺構 14 出土遺物実測図⑮ ・・・・・・・・・・ 60

第 52 図　溝状遺構 14 出土遺物実測図⑯ ・・・・・・・・・・ 61

第 53 図　溝状遺構 14 出土遺物実測図⑰ ・・・・・・・・・・ 62

第 54 図　溝状遺構 14 出土遺物実測図⑱ ・・・・・・・・・・ 63
第 55 図　溝状遺構 14 出土遺物実測図⑲ ・・・・・・・・・・ 64
第 56 図　溝状遺構 14 出土遺物実測図⑳ ・・・・・・・・・・ 65
第 57 図　溝状遺構 14 出土遺物実測図㉑ ・・・・・・・・・・ 66
第 58 図　溝状遺構 14 出土遺物実測図㉒ ・・・・・・・・・・ 67
第 59 図　土坑 20 実測図・土層断面図 ・・・・・・・・・・・・ 68
第 60 図　柱穴、溝状遺構出土遺物実測図 ・・・・・・・・・ 68
第 61 図　古墳時代包含層出土遺物実測図 ・・・・・・・・・ 69
第 62 図　古墳時代後期以降の主要遺構配置図 ・・・・・・ 70
第 63 図　掘立柱建物 15 実測図、土坑 3・13 実測図
・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 71
第 64 図　古墳時代後期以降の遺構出土遺物、
その他遺物実測図 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 72
第 65 図　溝状遺構 14 の推定模式図 ・・・・・・・・・・・・・ 82

表　目　次

第 1 表　旧石器時代出土石器計測分類表① ・・・・・・・・ 38
第 2 表　旧石器時代出土石器計測分類表② ・・・・・・・・ 39
第 3 表　旧石器時代出土石器計測分類表③ ・・・・・・・・ 40
第 4 表　出土土器観察表① ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 74
第 5 表　出土土器観察表② ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 75
第 6 表　出土土器観察表③ ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 76
第 7 表　出土土器観察表④ ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 77
第 8 表　出土土器観察表⑤ ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 78
第 9 表　出土土器観察表⑥ ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 79
第 10 表　出土土器観察表⑦ ・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 80
第 11 表　古墳時代以降出土石器計測分類表 ・・・・・・・・ 80

図　版　目　次

図版 1　調査区空中写真 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 83
図版 2　基本層序、旧石器遺物包含層出土石器① ・・・・ 84
図版 3　旧石器遺物包含層出土石器②③ ・・・・・・・・・・・ 85
図版 4　旧石器遺物包含層出土石器④⑤ ・・・・・・・・・・・ 86
図版 5　旧石器遺物包含層出土石器⑥⑦ ・・・・・・・・・・・ 87
図版 6　旧石器遺物包含層出土石器⑧⑨ ・・・・・・・・・・・ 88
図版 7　旧石器遺物包含層出土石器⑩⑪ ・・・・・・・・・・・ 89
図版 8　古墳時代前期の遺構と遺物① ・・・・・・・・・・・・ 90
図版 9　古墳時代前期の遺構と遺物② ・・・・・・・・・・・・ 91
図版 10　古墳時代前期の遺構と遺物③ ・・・・・・・・・・・ 92
図版 11　古墳時代前期の遺構と遺物④ ・・・・・・・・・・・ 93
図版 12　古墳時代後期以降の遺構と遺物 ・・・・・・・・・・ 94

第Ⅰ章　遺跡の位置と環境

第1節　地理的環境

本書で報告する下北方下郷第6遺跡は、周知の埋蔵文化財包蔵地「下北方遺跡群」に含まれている。下北方遺跡群は宮崎市街地の北西部、大淀川左岸に立地する深年Ⅰ段丘上に位置する。この段丘面は、宮崎市北西部の垂水台地から南に向かって派生する、宮崎層群を基盤とした丘陵の南端に立地する。丘陵の西側には大淀川が流れており、かつては丘陵の南側を東流する大淀川の旧河道が存在したとされている。また、丘陵各地には大小の開析谷が形成されており、その開析谷を利用した溜池が各地に点在する。南端の深年Ⅰ段丘面には現在閑静な住宅街が広がっており、本遺跡はこの平坦面の東側に所在する緩やかなマウンド状地形の南向き緩斜面に立地する。

第2節　歴史的環境

下北方丘陵南端部は、周知の埋蔵文化財包蔵地「下北方遺跡群」の範囲となっている。この地区は宮崎市の中でも遺跡の密度が高い地区として知られており、宅地開発や個人住宅建設等の開発事業に伴う確認調査、記録保存発掘調査が頻繁に実施されている。また、下北方遺跡群の範囲内には県指定史跡「下北方古墳」が所在する。

下北方遺跡群は旧石器時代～近世にかけての複合遺跡である。旧石器時代では、花切第2遺跡で旧石器時代のナイフ形石器期の石器集中部が検出された他、下郷遺跡で剥片尖頭器や角錐状石器を主体とした石器群が検出されている。縄文時代の遺構、遺物は少ないが、下郷遺跡で押型文土器、塞ノ神式土器、縄文時代中期の阿高式系土器等が出土した他、塚原第3遺跡でも塞ノ神式土器や剥片の出土がみられる。下北方遺跡群では鬼界アカホヤ火山灰下位の調査事例自体が少ないものの、地点によっては遺構、遺物が良好に残存していることが明らかになりつつある。また、下北方丘陵の北部に位置する垂水台地上では、垂水第1・第2遺跡や金剛寺原第1・第2遺跡等の旧石器時代から縄文時代の遺跡が多数所在している。地形的に連続性を持つことから、下北方遺跡群との関連性が注目される。

弥生時代には、環濠集落である下郷遺跡が営まれ、弥生時代前期末～終末期にかけて断続的に集落が形成されたことが明らかとなっている。下郷遺跡は、深年Ⅰ段丘の東端に隣接する独立丘陵上に位置し、その丘陵を囲むように前期末（内環濠）と後期前葉（外環濠）の二回にかけて環濠を掘削している。環濠内側は削平のため遺構がほとんど残存していないが、環濠内や貯蔵穴内からは多数の遺物が検出されている。遺物は弥生前期末から古墳前期にかけて出土しているが、前期末と後期のものが多い。遺物の中で注目されるのは本市指定有形文化財である、貯蔵穴から出土した完形の絵画土器であり、壺の胴側面全体に具象的な線刻が施された特徴的なものである。また、同時期の遺跡として、下郷遺跡の東側谷部に中期中葉の土器が出土した宮崎大学茶園遺跡が、さらにその東側沖積地には、貯蔵穴や溝状遺構、旧河道と共に木製農耕具や筌が出土した垣下遺跡が所在する。これらは弥生時代の集落と生産域の様相を考える上で貴重な事例といえる。

古墳時代には、下北方遺跡群の南西部、塚原地区を中心に下北方古墳が形成される。下北方古墳は中期中葉から築造が開始された古墳群で、大淀川下流域の有力な首長系譜墓の一つとされている。現宮崎神宮境内に所在する船塚古墳を含めた前方後円墳5基、円墳12基が指定を受けている他、地下式横穴墓も25基確認されている。高塚墳については調査事例が少ないが、地下式横穴墓からは宮崎平野部における地下式横穴墓の様相を考える上で貴重な遺物が多数検出されている。特に下北方9号墳に造られた5号地下式横穴墓からは、金製垂飾付耳飾、鉄製甲冑、馬具、石製・ガラス製玉類といった豊富な副葬品が出土しており、地下式横穴墓の被葬者像を考える上で貴重な資料といえる。下北方古墳では古墳時代後期の13号墳と船塚古墳を最後に古墳の築造を停止するが、その後は瓜生野村古墳や池内横穴墓といった横穴墓が丘陵斜面に形成されている。集落の調査では、下郷第4遺跡や塚原第2遺跡で古墳時代後期の竪穴建物が確認されているが、面的な広がりについては不明瞭な部分が多い。

古代に入ると、花切第2遺跡で8世紀後半～9世紀初頭の竪穴住居群が多数検出されている。また、塚原第2遺跡では9世紀後半代の寺院と考えられる建物が検出されるとともに、素弁八葉蓮華文軒丸瓦や灯明皿といった多数の遺物が検出されている他、下郷第4遺跡で竪穴建物や掘立柱建物と共にコップ形の須恵器が出土している。10世紀代の資料は少ないが、花切第2遺跡で10世紀後半の黒色土器碗を副葬した周溝墓が1基検出されている。このように、下北方遺跡群では古代の遺構、遺物が多く検出されており、それらの中には寺院（あるいは役所）のような建物も含まれていることから、この地区が古代宮崎郡の政治的、生産的な拠点であった可能性が高いといえる。

下北方遺跡群における中世の様相は不明瞭であるが、丘陵北側には伊東氏と島津氏の抗争の舞台となった宮崎城が所在する。宮崎城は南部九州に特徴的な館屋敷式山城と呼ばれる構造をもつ。『日向記』や『土持文書』にみられる建武3年(1336)の記載が文献上の初見で、伊東氏と島津氏の抗争の舞台となった後は江戸時代の一国一城令で廃城となっている。また、島津氏時代に城主を務めていた上井覚兼が残した『上井覚兼日記』は、詳細な記述内容から史料的価値の高い文献となっている。

近世の下北方地区は延岡藩の飛び地となっており、代官所が現在の大宮中学校付近に所在したといわれている。下北方遺跡群では、塚原第3遺跡で近世の土坑墓が検出されている等、近世の遺構、遺物の検出事例は少なくない。また、下北方遺跡群の各所で近世段階の土地改変と考えられる削平や埋め立てが確認されている。これらのことから、この地区には代官所を中心とした屋敷地が広がっていた可能性が考えられる。

このように、下北方地区で確認されている各時代の遺構、遺物の様相から、この地区が古くから宮崎平野部の中心的な場所の一つであったことがうかがえる。今後の調査の進展によって、下北方地区の歴史的重要性がさらに明らかになっていくことが期待される。

【引用文献】

町田洋ほか編　2001『日本の地形7　九州・南西諸島』 東京大学出版会

宮崎市教育委員会　2016『下北方下郷第5遺跡』宮崎市文化財調査報告書第112集

竹篠遺跡
竹篠城跡
野首遺跡
上北方横穴群
宮崎城跡
池内町
南方町
宮崎市
笠置遺跡
柏田貝塚
上北方横穴群
池内横穴群
黒太郎遺跡
大屋敷遺跡
八畝田遺跡
堂原遺跡
城平遺跡
下北方下郷第6遺跡
宮大茶園遺跡
下北方遺跡群
垣下遺跡
間越遺跡
船塚古墳
宮大農園遺跡
船塚遺跡
竹之下遺跡
多宝寺遺跡
権現昔遺跡
宮大教育学部跡地遺跡
大淀川
平和台大橋
自転車専用道路
北権現町
柳丸町
大塚町

第１図　周辺遺跡

番号	本調査地点名	所在地	主な時代	番号	古墳名	所在地	主な時代
1	下郷遺跡	下北方町下郷	弥生	①	下北方1号墳	下北方町塚原	古墳
2	下北方5号墳周辺遺跡	下北方町塚原	古墳・古代	②	下北方2号墳	下北方町塚原	古墳
3	下郷第4遺跡	下北方町下郷	古墳・古代	③	下北方3号墳	下北方町塚原	古墳
4	下北方1号墳周辺遺跡	下北方町塚原	古墳・古代	④	下北方4号墳	下北方町塚原	古墳
5	塚原第1遺跡	下北方町塚原	古墳・古代	⑤	下北方5号墳	下北方町塚原	古墳
6	塚原第2遺跡	下北方町塚原	古墳・古代	⑥	下北方6号墳	下北方町塚原	古墳
7	花切第1遺跡	下北方町花切	古墳・古代	⑦	下北方7号墳	下北方町塚原	古墳
8	戸林第1遺跡	下北方町戸林	古墳・古代	⑧	下北方8号墳	下北方町塚原	古墳
9	塚原第3遺跡	下北方町塚原	古墳・近世	⑨	下北方9号墳	下北方町塚原	古墳
10	花切第2遺跡	下北方町花切	旧石器・古墳・古代	⑩	下北方10号墳	下北方町塚原	古墳
11	下郷第5遺跡	下北方町下郷	古墳・古代	⑪	下北方11号墳	下北方町塚原	古墳
12	**下郷第6遺跡**	**下北方町下郷**	**旧石器・古墳・近世**	⑫	下北方12号墳	下北方町塚原	古墳
13	下郷第7遺跡	下北方町下郷	古代	⑬	下北方13号墳	下北方町越ヶ迫	古墳
14	下郷第8遺跡	下北方町下郷	旧石器・古代・近世	⑭	下北方14号墳	下北方町越ヶ迫	古墳
15	下郷第9遺跡	下北方町下郷	古代	⑮	下北方15号墳	下北方町花切	古墳
				⑯	下北方16号墳	下北方町高下	古墳
				※図中の点線が下北方遺跡群の範囲を示す。			

第２図　下北方遺跡群（S=1/10000）

第Ⅱ章　調査に至る経緯と調査の経過

第1節　調査に至る経緯

平成25年11月21日、住宅建築に伴い個人より下北方町下郷6087－2外における埋蔵文化財の有無について、本市教育委員会文化財課宛てに照会がなされた。事業地は周知の埋蔵文化財包蔵地「下北方遺跡群」に含まれることから、平成25年12月5日～6日に事前の確認調査を実施した。調査の結果、事業地内には鬼界アカホヤ火山灰層上面で遺構、遺物が残存していることが明らかとなった。この結果を受けて、文化財課と個人との間で埋蔵文化財の取り扱いに関する協議を重ねた結果、RC造建物建築工事による削平を免れない297.5㎡について、記録保存を目的とした発掘調査を実施するに至った。

第2節　確認調査結果の概要

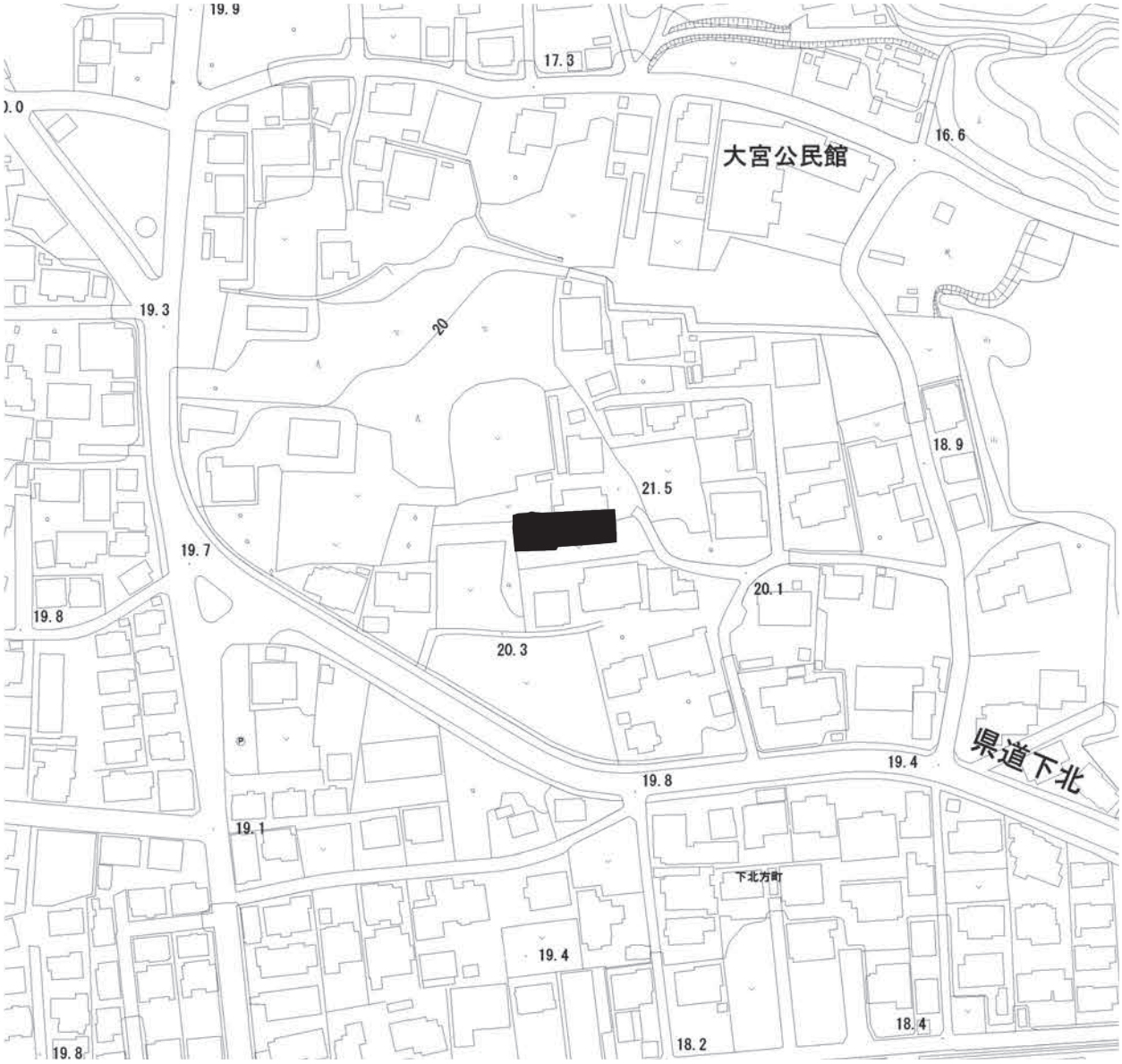
個人住宅建築（2棟）予定地に4箇所のトレンチを設定した。南側の建築予定地（本調査地点）に設定した1、2トレンチでは鬼界アカホヤ火山灰または褐色ローム層上面で幅2.5m以上の大溝他多数の遺構を確認した。一方で北側の建築予定地に設定した3トレンチからは時期不明の柱穴が1基検出されたものの、遺構、遺物は確認されなかった。また、同4トレンチでは霧島小林降下軽石を含む褐色ローム下位の掘削を行なったが、遺構や遺物は確認されなかった。これらの結果から、北側は後世に大きく削平を受けていることが確認された。

確認調査の結果、調査地周辺は北から南に緩やかに下る傾斜地であり、北側は削平で鬼界アカホヤ火山灰より上位の土層が消失しているものの、南側では黒ボク土以下の土層と多数の遺構、遺物が残存していることが確認された。

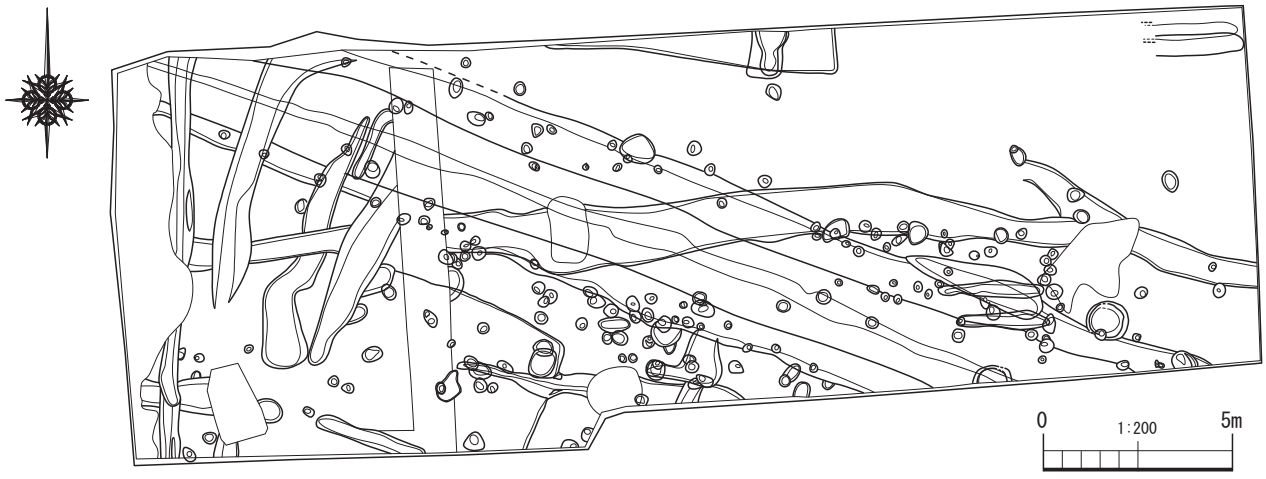
第3節　発掘調査の経過

発掘調査は平成26年4月30日～平成26年7月25日に実施した。調査はまず重機により表土（Ⅰ層）を除去し、地山層（ⅢからⅥ層）上面で遺構検出を試み、その後人力による遺構掘削を記録作業と併行して行なった。空中写真撮影は平成26年7月12日に実施し、その後調査機材の撤収作業を行ない、調査を終了した。本発掘調査の総面積は308㎡となった。発掘調査の延べ日数は42日である。

整理作業は宮崎市清武埋蔵文化財センターと、宮崎市生目の杜遊古館埋蔵文化財センターで行ない、水洗い、注記、接合作業を平成27年6月1日から平成27年10月30日に、旧石器時代遺物の接合作業を平成28年5月9日から平成28年7月8日に、実測、トレース作業を平成28年11月7日から平成29年2月10日と平成30年7月9日から平成30年10月26日の期間で実施した。また、旧石器時代遺物の実測とトレース、及び遺物分布図作成を平成28年度から平成30年度にかけて外部委託した。その他、調査員による遺物写真撮影と編集作業を平成30年度下半期に実施した。



第３図　調査区位置図(S=1/2000)



第４図　遺構配置図(S=1/200)

第Ⅲ章　調査の成果

第１節　調査成果の概要

主要な遺構として、旧石器時代の礫群、古墳時代前期の竪穴建物、土坑、溝状遺構、古墳時代後期から中世の掘立柱建物、土坑、溝状遺構、近世の土坑、溝状以降が確認された。旧石器時代の調査は、表土直下に霧島小林降下軽石が露出していた調査区北西角部と、古墳時代前期のSE14の北側テラス床面に焼礫が露出していた部分の計２箇所で実施した。出土遺物はコンテナ45箱分である。

第２節　基本層序（第５図）

計画地の現況は平坦だが、概ね調査区北側（SE14より北側）では表土直下にⅤ層及びⅥ層が露出し、南側ではⅡ層以下の土層が残存することから、本来の地形は北から南に向けて下る緩斜面であったことが確認された。詳細な時期は不明だが中世以降に削平を受けているようであり、霧島高原スコリア（13世紀）降灰以後の堆積層は確認できなかった。鍵層となる火山噴出物は鬼界アカホヤ火山灰（7300年前、Ⅲ層）と霧島小林降下軽石（16700年前、Ⅵ層中に含まれる）、姶良・丹沢火山灰（28000年前、Ⅷ層）が確認された。また、Ｘ層は霧島アワオコシスコリアの可能性がある。遺物包含層はⅡ層、及びⅤ層からⅦ層であり、その内のⅡ層は通称黒ボク土と呼ばれる層である。

第３節　旧石器時代の調査成果

Ⅴ層下位からⅦ層にかけて、礫群と多数の石器群が検出された。トレンチ１では、石器集中部が２箇所隣接して検出されており、石器の特徴と接合関係から極めて近接した時期に営まれた石器製作址と考えられる。石器の総数は約1200点であり、そのうち60組208点が接合した。

第１項　礫群

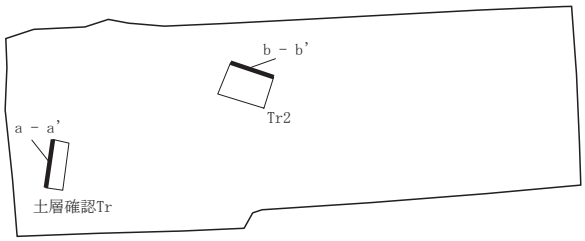
礫群24　　トレンチ１では礫が散在して検出されたが、北端部でまとまりがみられたためこれを礫群24とした。構成礫の範囲は東西3m×南北0.8mを測り、総数は14点を数える。全て砂岩で構成されており、被熱したものが多い。掘り込みは検出されなかった。

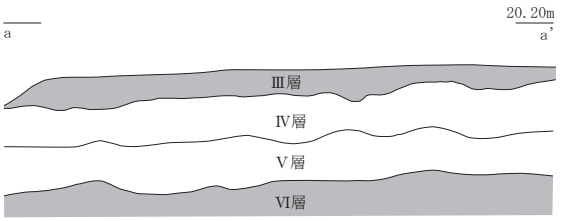
礫群26　　トレンチ２で検出された。構成礫の範囲は東西1.4m×南北1.4mを測り、総数は13点を数える。全て砂岩で構成されており、被熱したものが多い。掘り込みは検出されなかった。

第２項　包含層出土石器

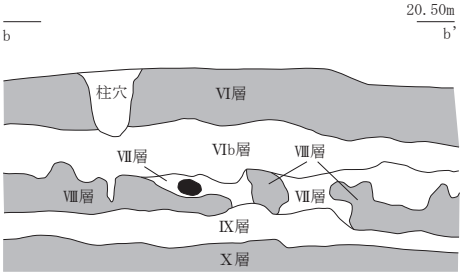
Ⅴ層下位からⅦ層にかけて約1200点の剥片石器と３点の敲石が出土した。石器は角錐状石器、国府型ナイフ形石器、小型ナイフ形石器、スクレイパー、二次加工剥片、剥片、石核で構成される。石材は頁岩と緑色堆積岩であり、前者が主体を占める。頁岩は色調や質感等の観察により頁岩Ａから頁岩Ｅに分類した（分類基準については後述）。

トレンチ１では、角錐状石器や国府型ナイフ形石器の未製品を含む石器集中部が検出された。





基本層序a-a’



基本層序b-b’

基本層序
Ⅰ層　表土
Ⅱ層　黒褐(10YR1.7/1)。粘性、しまりあり。シルト。微細なアカホヤ粒子を含む。
Ⅲ層　アカホヤ火山灰（K-Ah)。
Ⅳ層　黒褐(10YR2/2)。粘性、しまり強い。ローム。
Ⅴ層　暗褐(10YR3/3)。粘性、しまり強い。ローム。微細な軽石粒を含む。
Ⅵ層　暗褐(10YR3/4)。粘性、しまりあり。ローム。霧島小林降下軽石(Kr-Kb)を多く含む。
Ⅵb層　暗褐(10YR3/4)。粘性、しまりあり。ローム。θ5cmの暗褐色硬質ロームブロック、Ⅷ層ブロックを含む。
Ⅶ層　Ⅵb層と同様だが、Ⅷ層ブロックを多く含む。
Ⅷ層　姶良・丹沢火山灰(AT)
Ⅸ層　褐(10YR4/6)。粘性あり、しまり弱い。ローム。Ⅹ層ブロックを微量含む。
Ⅹ層　褐(10YR4/4)。霧島アワオコシスコリア(Kr-Aw)か。

第5図　基本層序(S=1/40)

石器は東西7m×南北5.8mの範囲内において、2箇所の明瞭な集中部をもって分布しており、東側はさらに調査区外に広がるとみられる。石器の密度は南側よりも北側が高い。石材毎の分布をみると、東側ブロックと西側ブロックで明瞭に異なっており、東側は頁岩A、頁岩Cを主体とし、西側は頁岩Bを主体としている。接合関係をみると、ブロック内で多数接合する他、両ブロック間でも接合が多く認められる。以下、接合資料と製品を中心として石材毎に報告を行なう。なお、個別資料の詳細については計測分類表を参照していただきたい。

(1) 頁岩A（第10図から第13図）

黒色を呈し、節理が発達して油脂状光沢があるものを頁岩Aとした。東側ブロックを中心に分布しており、15組36点が接合した。

接合資料①　剥片3点と石核1点が接合した瀬戸内技法第2工程にかかる資料である。盤状剥片の剥離の順番は、1→2→4であり、3は1、2、4とは別の素材剥片に伴う剥片である。1は打面調整により生じた縦長剥片、2は節理で半分に折れているが翼状剥片である。4は残核である。打面全体に自然面が残存する剥片を素材とするもので、母岩の稜線を利用しながら打面調整を加えることで山形打面を形成している。

接合資料②　剥片1点とスクレイパー1点、石核2点が接合した。剥離の順序は5の後に6＋8であり、その後8を石核として6を剥離している。7は残核である。また、5は縁辺に二次調整を加えて刃部とするスクレイパーである。

接合資料③　剥片と石核が1点ずつ接合した。9は残核で、右側縁に細かな剥離の痕跡が認められる。自然面を打面として小ぶりな縦長剥片である10を剥離している。

接合資料④　剥片2点と角錐状石器1点が接合した。角錐状石器の二次調整にかかる接合資料である。11は横長剥片を素材とした角錐状石器であり、二次調整の途中で折れている。12と

13は主要剥離面側から生じた調整剥片である。剥離の順番は13→数枚の剥片剥離→12である。

その他の石器　14から15は国府型ナイフ形石器である。14は節理で折れているため全体の形状は不明である。15は横長剥片を素材としたもので、二次調整の際に基部付近で折れている。16から18は角錐状石器である。16は小ぶりな横長剥片を素材としたもので、先端が折れている。17はやや厚みのある断面形を呈するもので、稜上調整の痕跡が認められる。18は横長の剥片を素材としたもので、基部が折れている。

19は二次調整が施された翼状剥片である。側縁に二次調整とみられる細かな剥離が認められるが、作業の途中で折れて廃棄されたとみられる。20は横長剥片を素材としたスクレイパーである。側縁に二次調整を施し刃部を作出している。刃部の一部には光沢が認められ、使用痕の可能性がある。21は石核である。母岩を複数に分割し、その際の主要剥離面を打面として剥片を作出している。

(2) 頁岩B（第14図から第28図）

風化により表面が灰色から白色の色調を呈し、節理が発達して、油脂状光沢があまりないものを頁岩Bとした。西側ブロックを中心として分布しており、40組165点が接合した。

接合資料⑤　剥片17点、角錐状石器未製品1点、二次加工剥片1点、国府型ナイフ形石器1点が接合した。復元される工程としては、まず母岩から⑤－1→⑤－3→⑤－2の順で剥離を行ない、素材剥片を作出している。さらに⑤－2からはさらに二次加工剥片と角錐状石器の未製品が、⑤－3からは角錐状石器が作出されている。

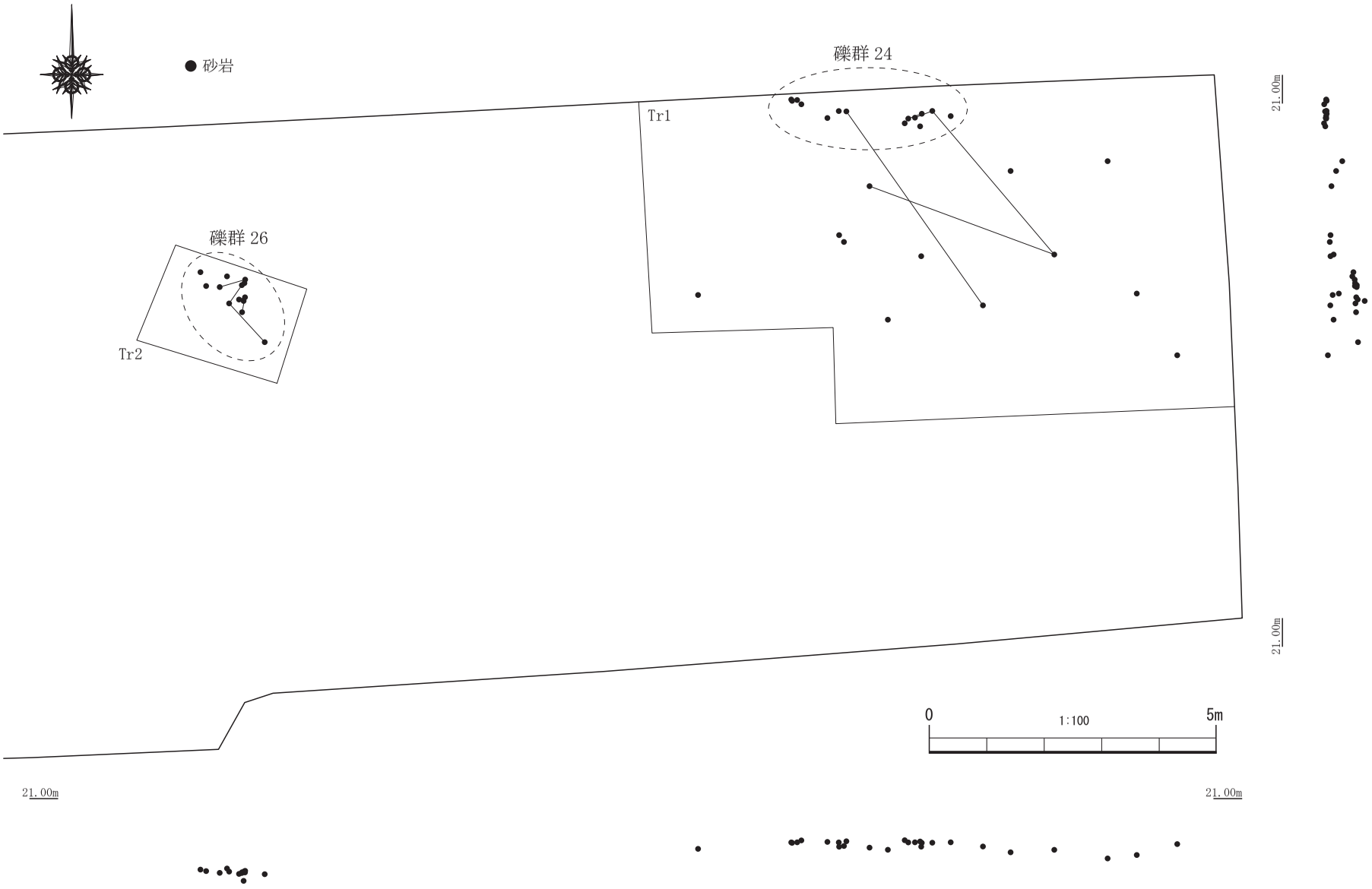
⑤－1は石核や何らかのツールを作出しようと剥離を行なったとみられるが、剥片しか接合しないため詳細は不明である。剥離の順番は、31→38→34→39→35→数枚の剥片剥離→33→37→32→36である。

⑤－2は自然面を残す縦長の素材剥片の縁辺に二次調整を施し角錐状石器を作出しようとしたもので、剥離の順番は22→24→28→23→25→26→27である。作業途中で折れて29と30に分割されてしまっているが、29にはさらに二次調整を施して、一方の側縁の縁辺を刃部としたナイフあるいはスクレイパーのような機能の石器として用いている。30は片側側縁に素材剥片の縁辺が残されており、扁平な形状を呈するものの、調整と断面形状の特徴から角錐状石器の未製品として分類した。

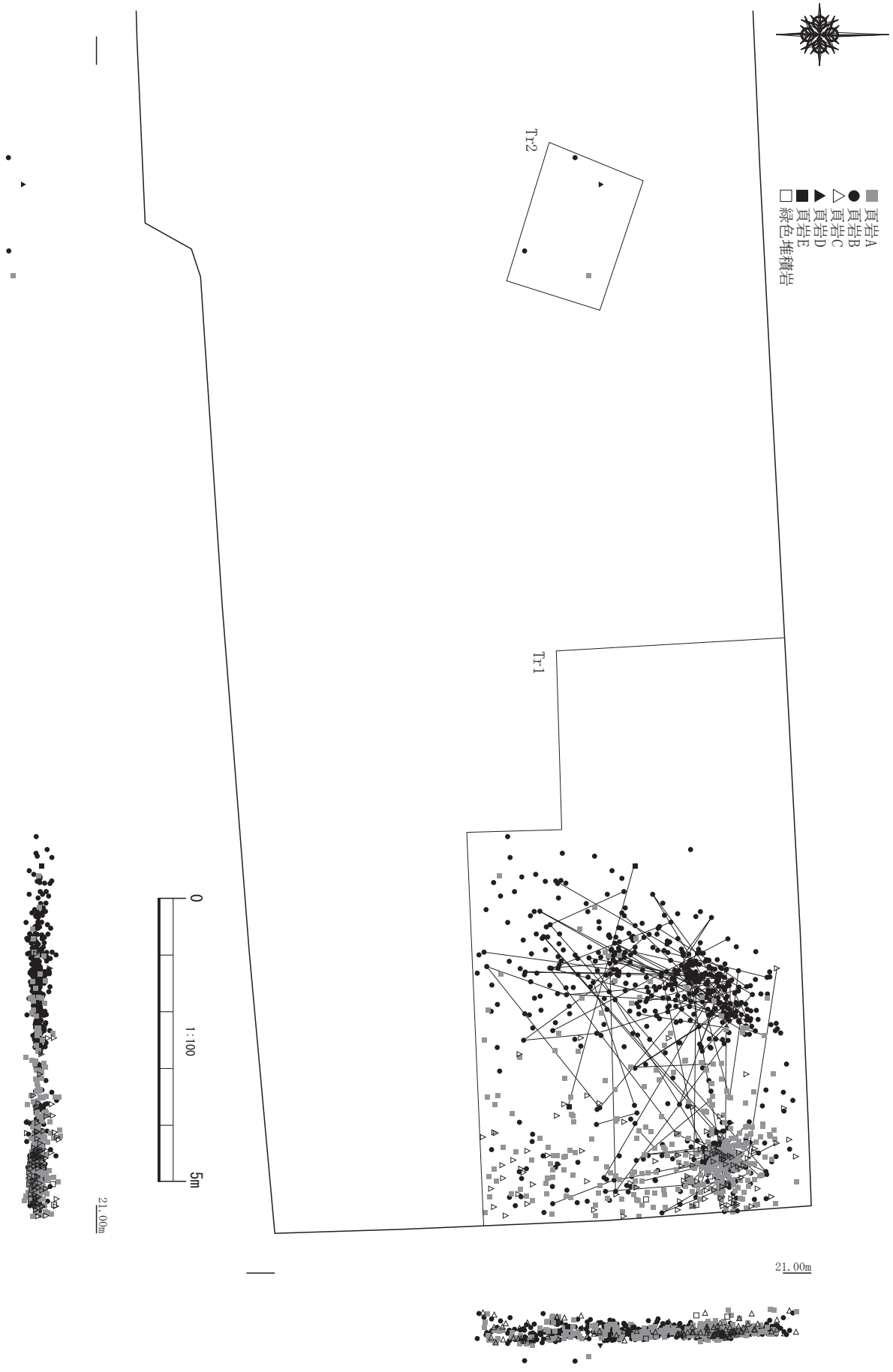
⑤－3は角錐状石器の製作にかかる接合資料である。2点しか接合していないが、元々の素材はさらに大きな横長剥片とみられる。40は横長剥片の背面側から二次調整を施すものである。片側の側縁に素材の縁辺を残しており、一見するとナイフ形石器にも見えるが、二次調整を施す前に折れたと判断して角錐状石器の未製品に分類した。

接合資料⑥　剥片8点と角錐状石器1点が接合した。43から49は50を作出するための調整剥片である。厚みのある平面三角形状の剥片を素材とし、44→43の剥離で大きく形を整えた後、45→47→46→数枚の剥片剥離、48→49→数枚の剥片剥離で細かな二次調整を施している。50の角錐状石器は、主要剥離面側から二次調整を施すもので、作業の途中で摂理により二つに折れている。右側縁には部分的に自然面が残存している。

接合資料⑦　剥片14点、角錐状石器2点、二次加工剥片1点が接合した。母岩から⑦－1→⑦

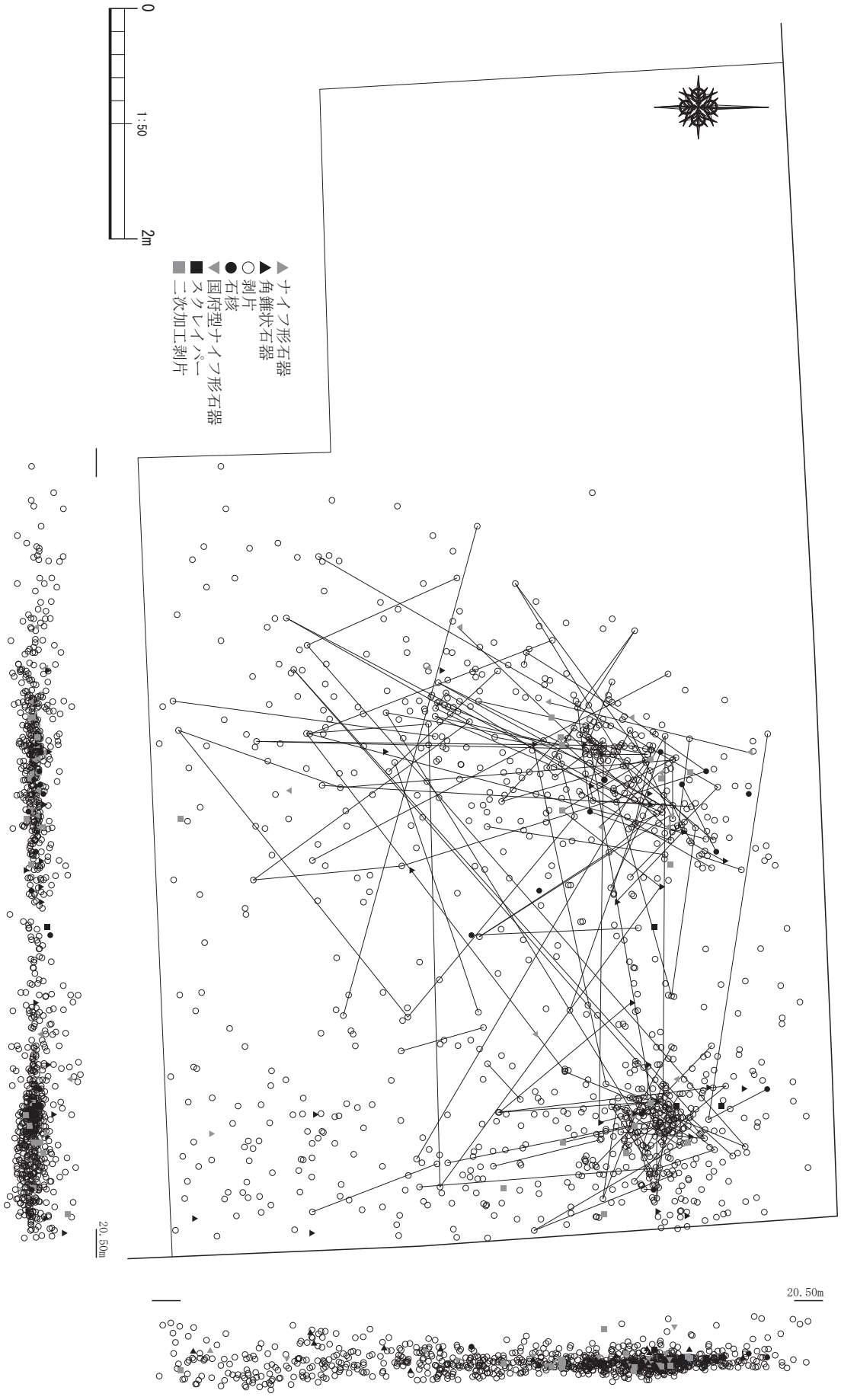


第６図　Ⅴ～Ⅶ層礫分布図（S=1/100）

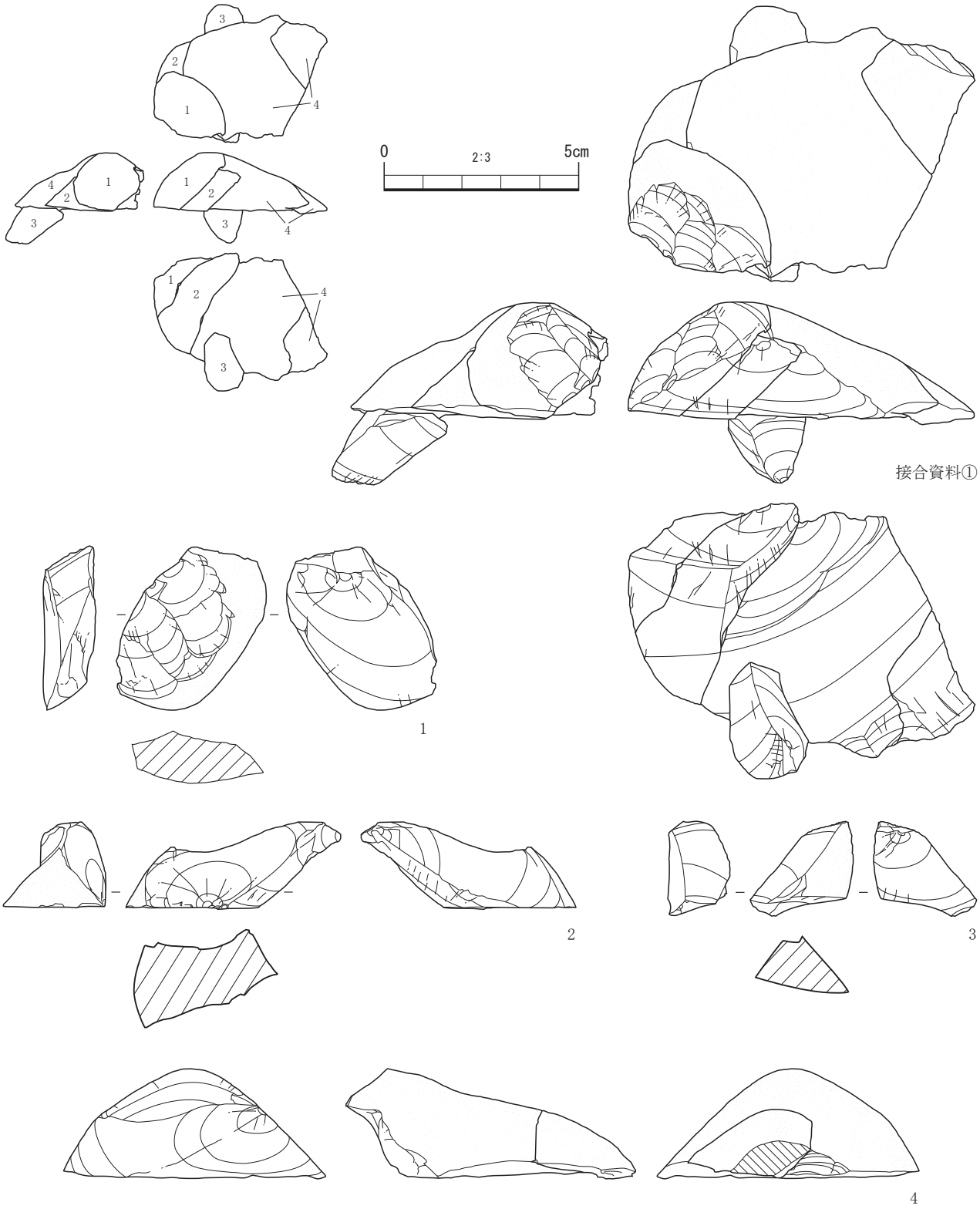


第７図　Ⅴ～Ⅷ層石材別分布図(S=1/100)

第８図　トレンチ1石材別石器分布図(S=1/50)



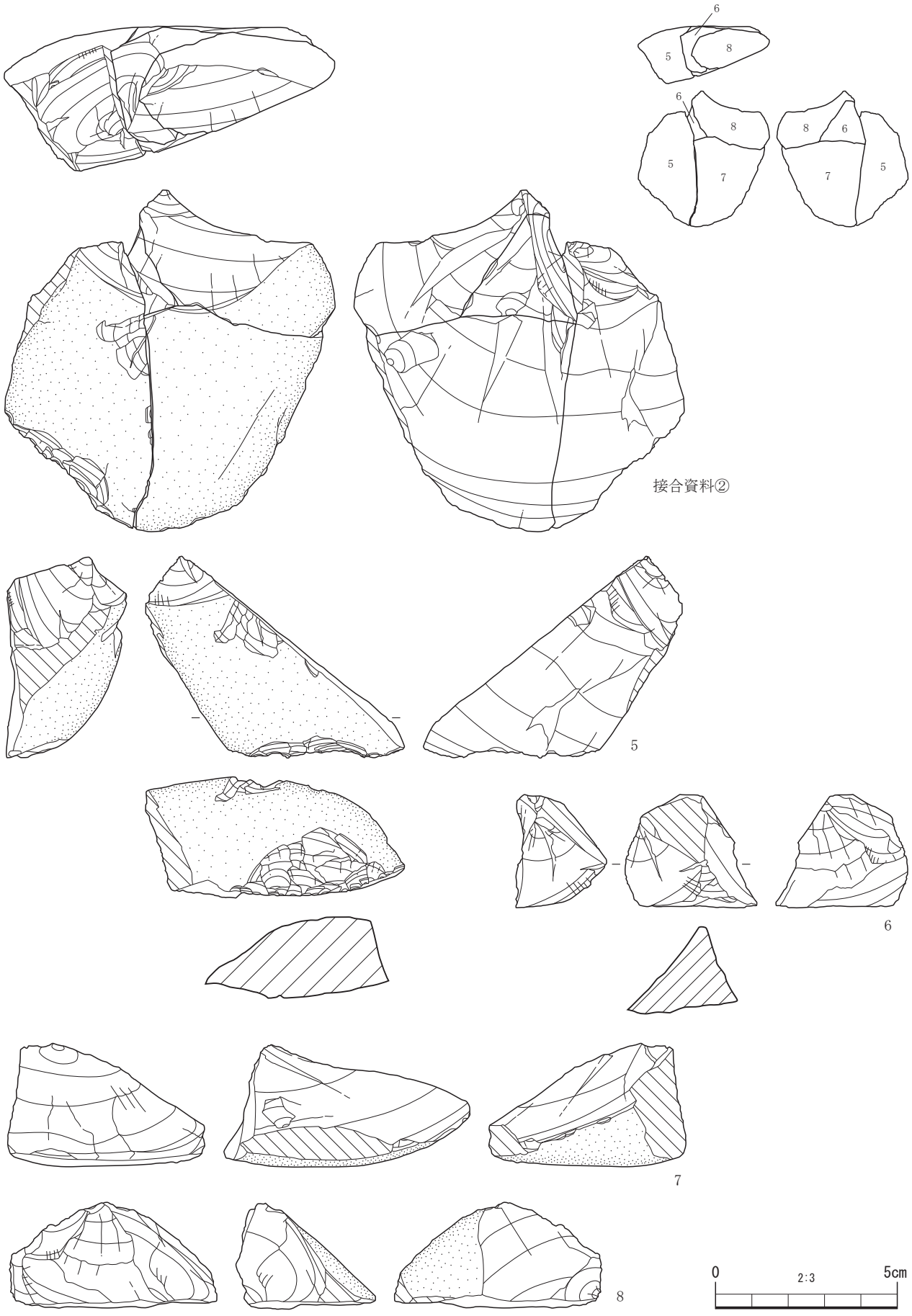
第９図　トレンチ1器種別石器分布図(S=1/50)



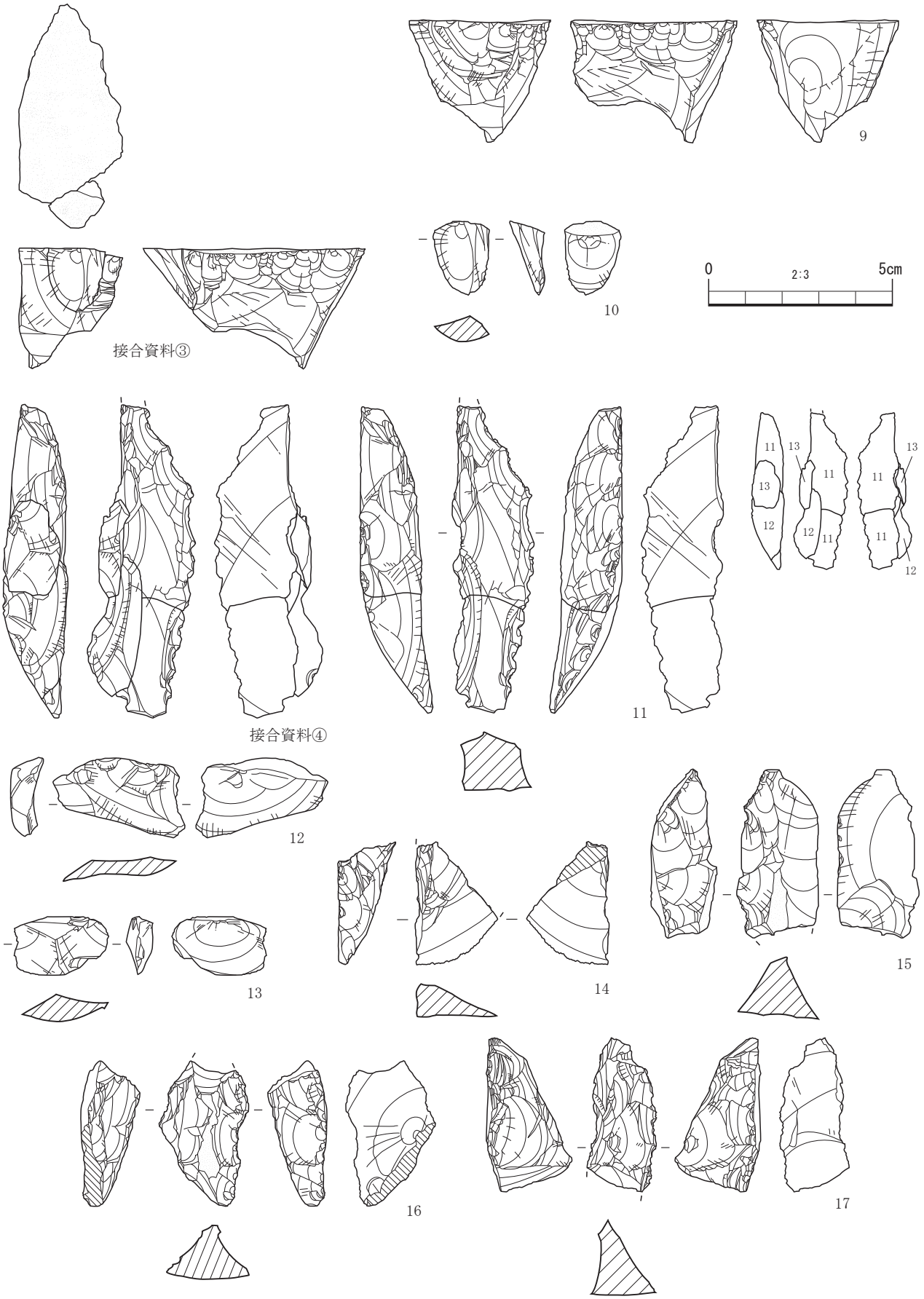
第 10 図　旧石器時代遺物包含層出土石器実測図①(S=2/3)

－ 2 →⑦－ 3 →⑦－ 4 の順で剥片剥離を行ない、素材剥片を作出している。

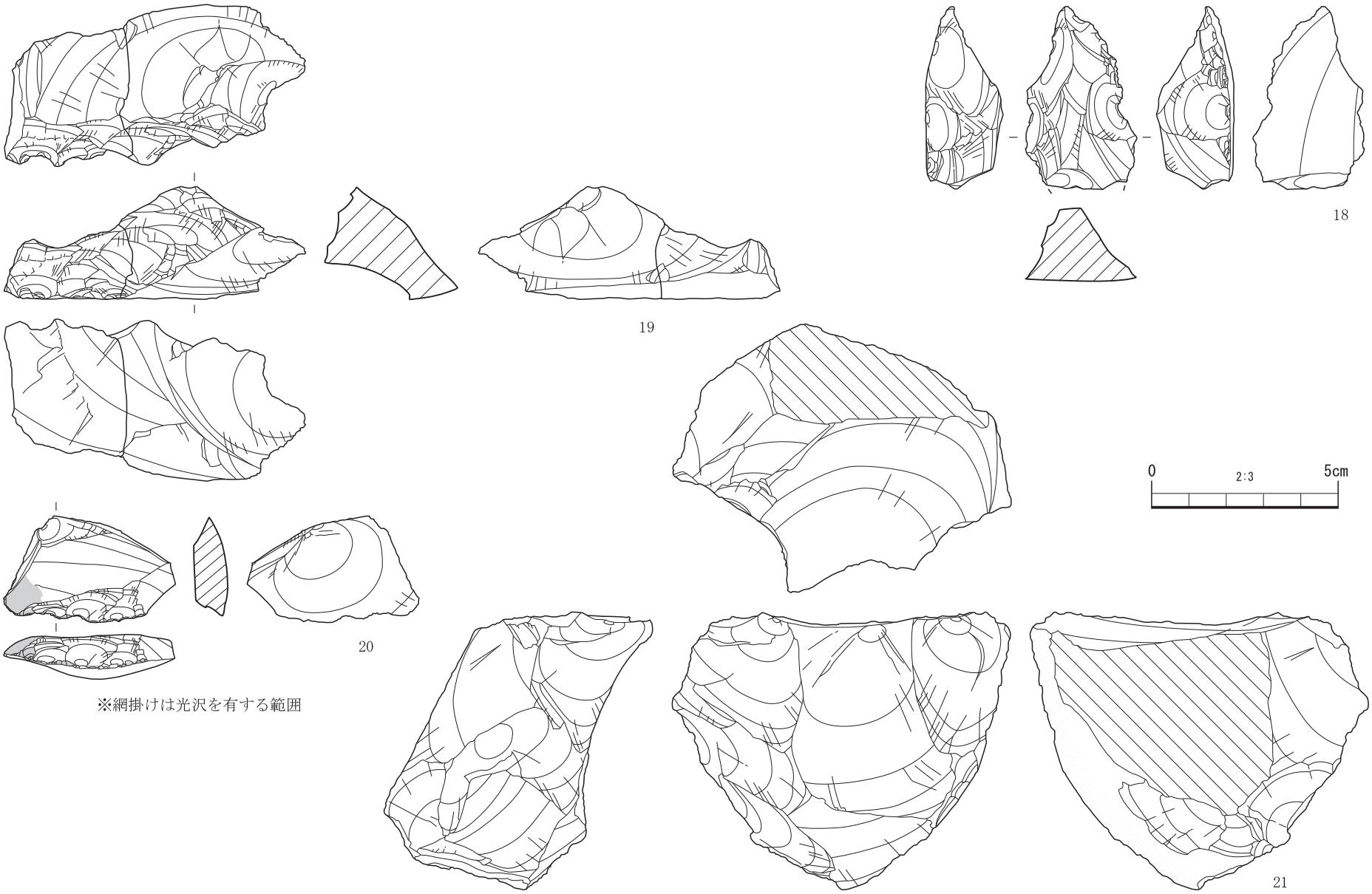
⑦－ 1 では横長の剥片を素材とした角錐状石器 54 を作出している。54 は背面の一方に自然面を残すもので、片側の側縁に素材の縁辺を残すが、二次調整を行う前に折れたと判断し、角錐状石器の未成品に分類した。剥離の順番は 51 → 52 → 53 である。



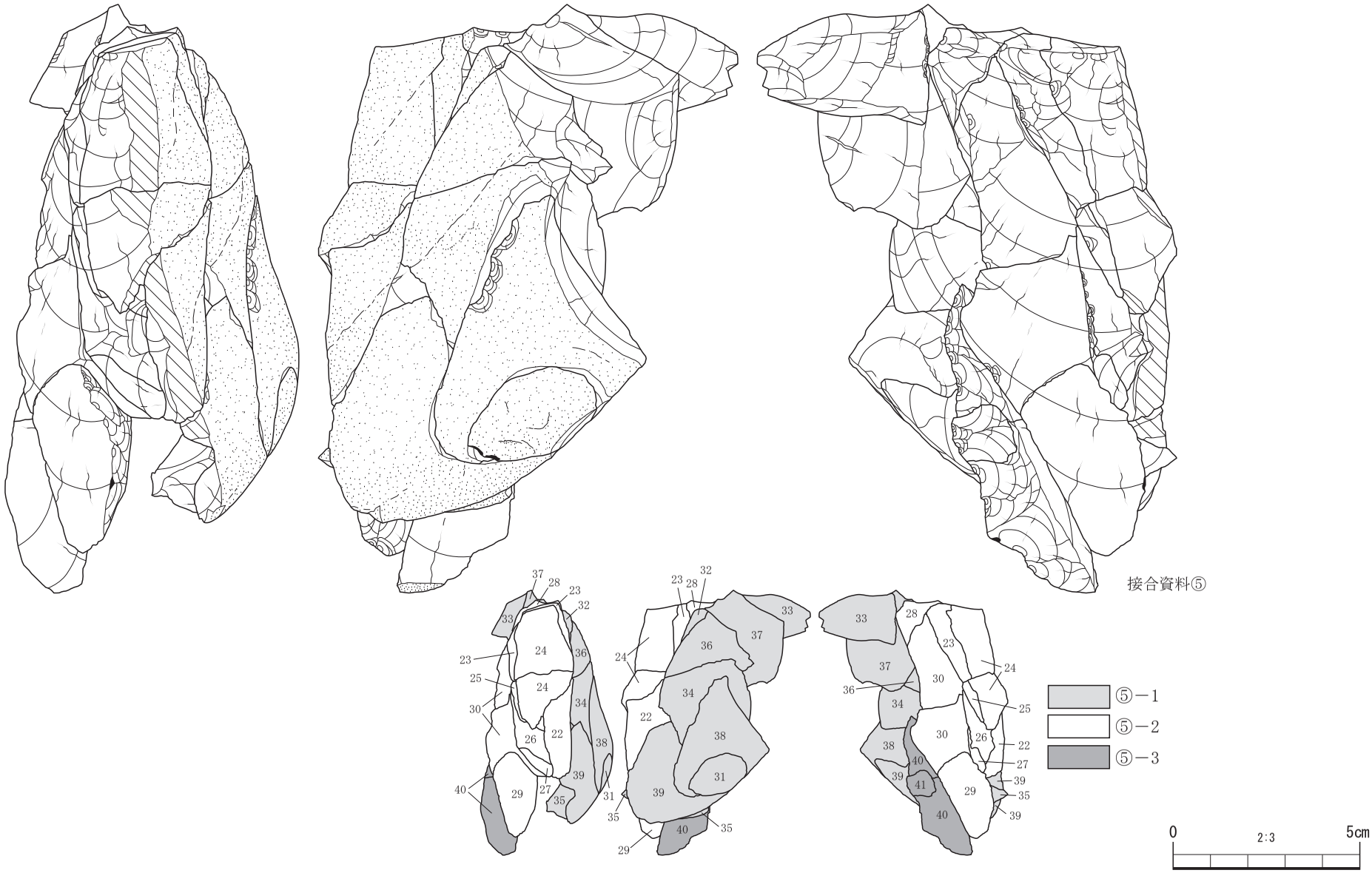
第 11 図　旧石器時代遺物包含層出土石器実測図②(S=2/3)



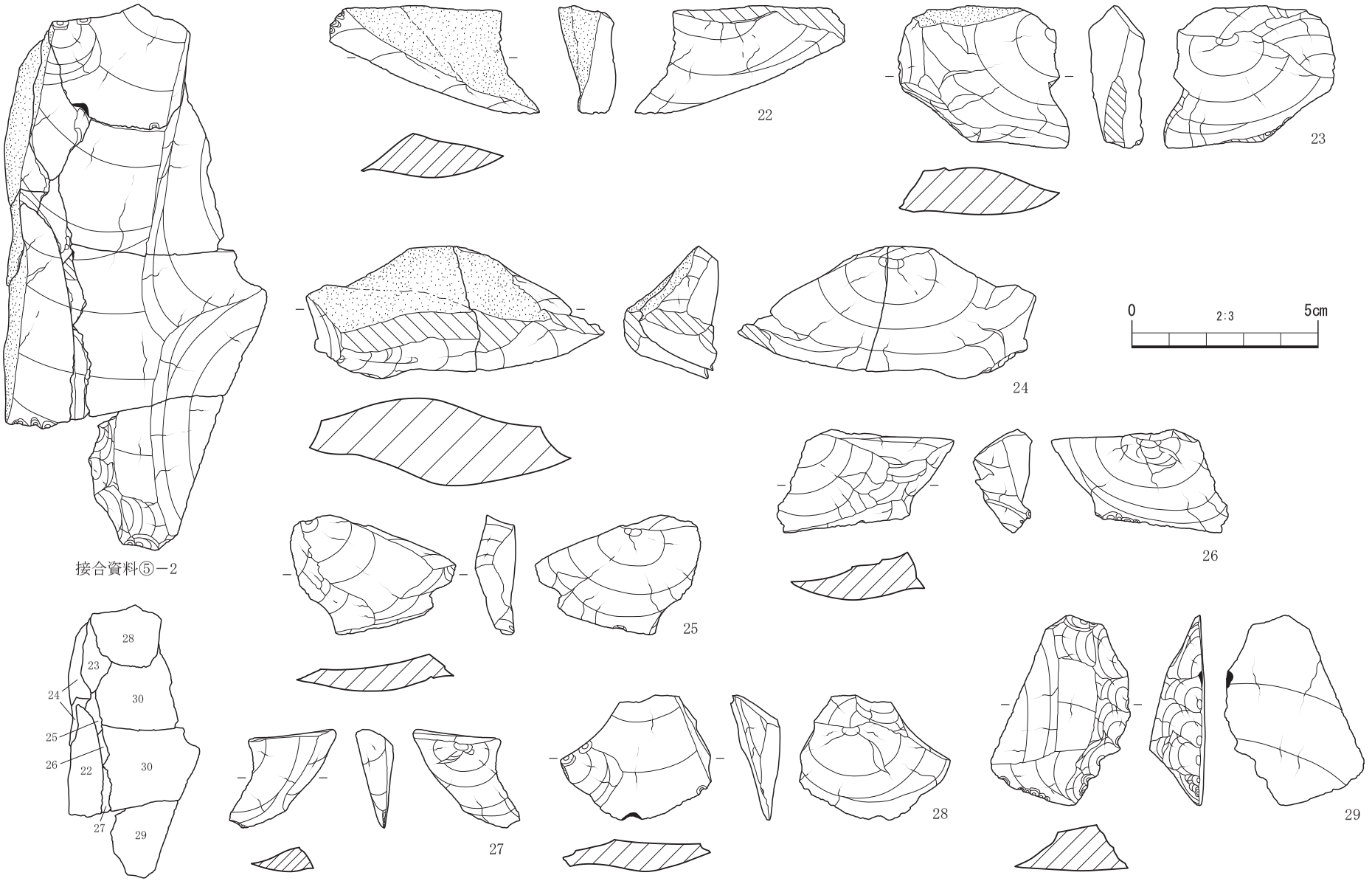
第 12 図　旧石器遺物包含層出土遺物実測図③(S=2/3)



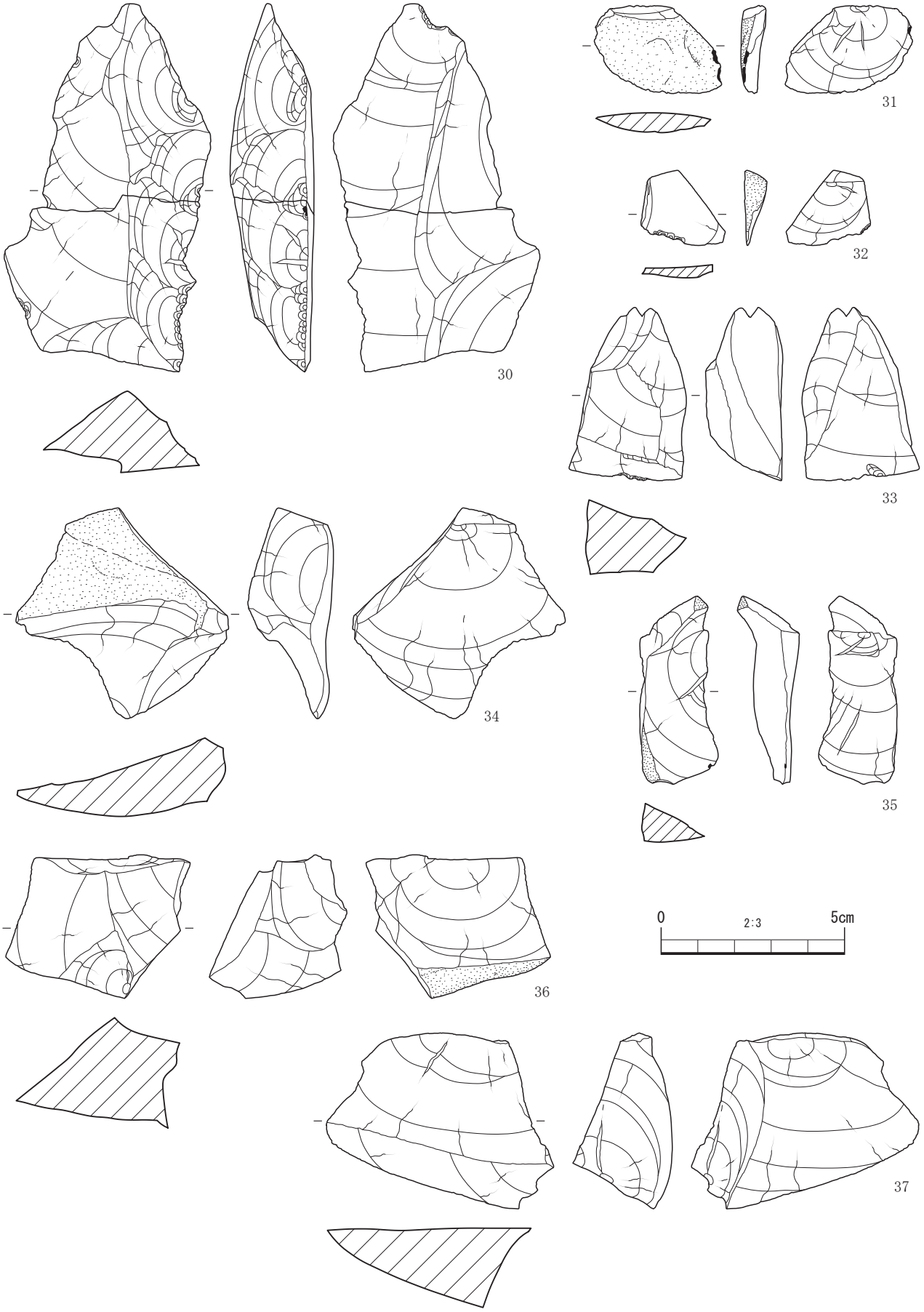
第 13 図　旧石器遺物包含層出土遺物実測図④(S=2/3)



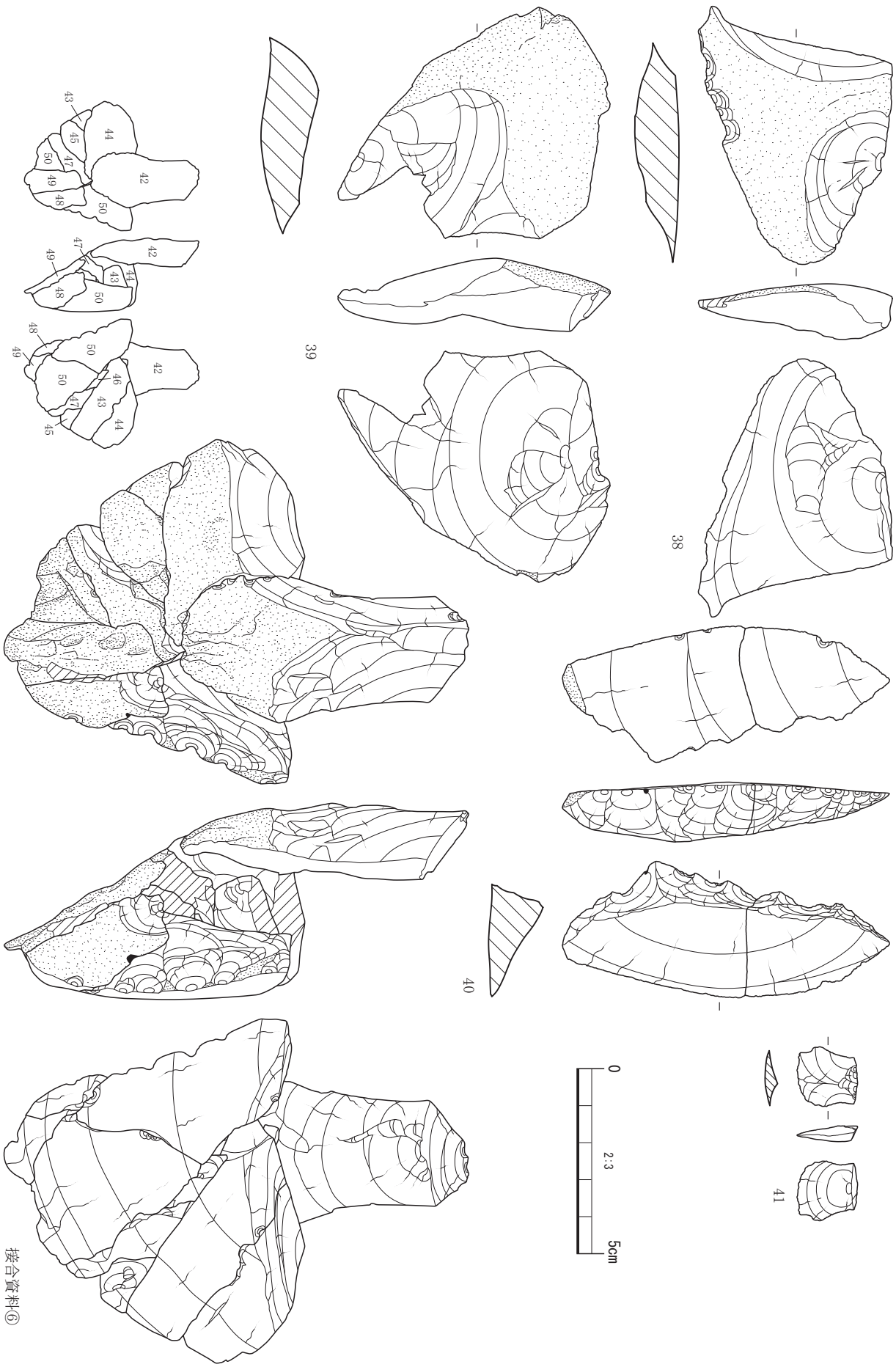
第 14 図　旧石器時代遺物包含層出土石器実測図⑤(S=2/3)



第 15 図　旧石器時代遺物包含層出土石器実測図⑥(S=2/3)

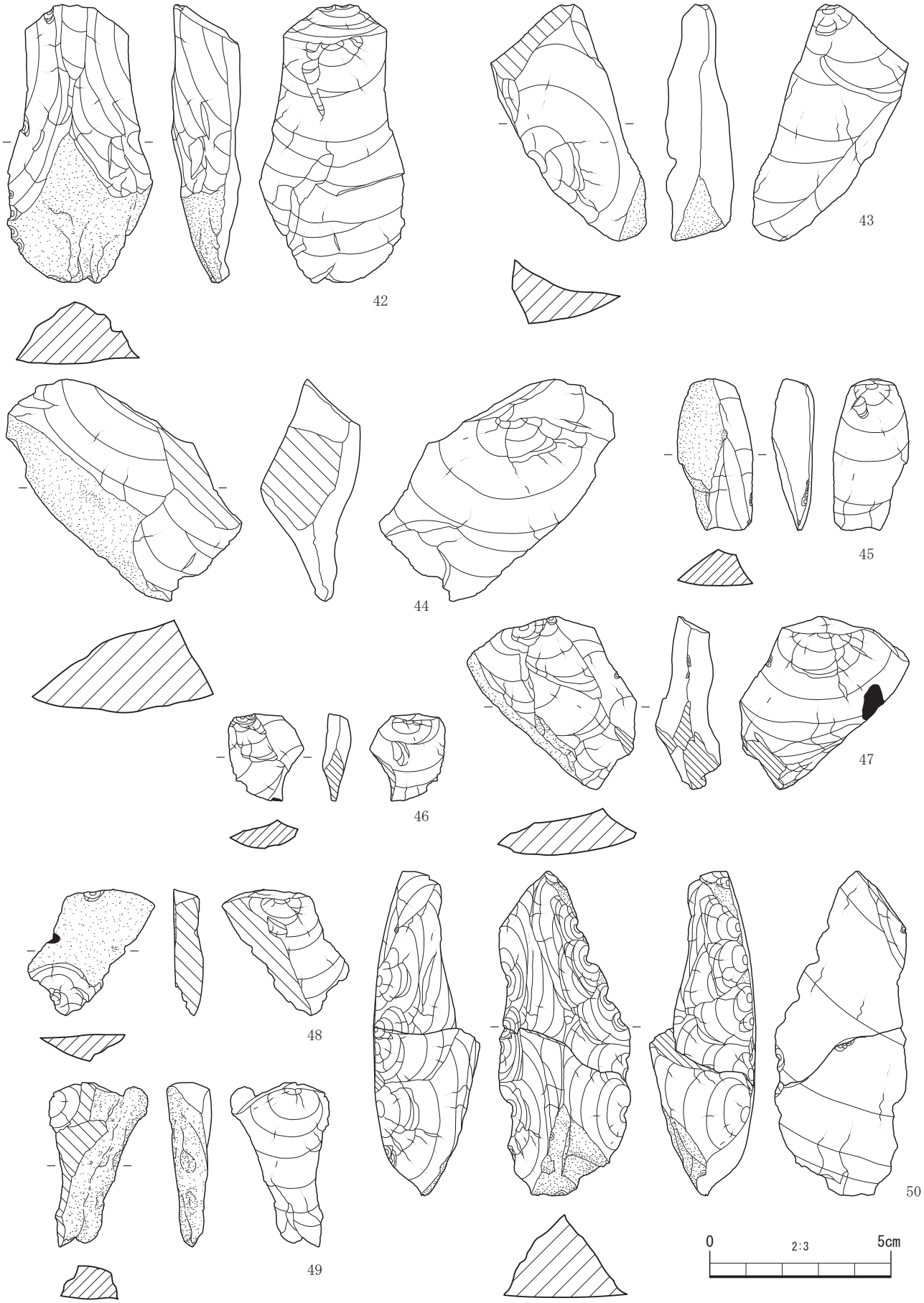


第 16 図　旧石器時代遺物包含層出土石器実測図⑦(S=2/3)

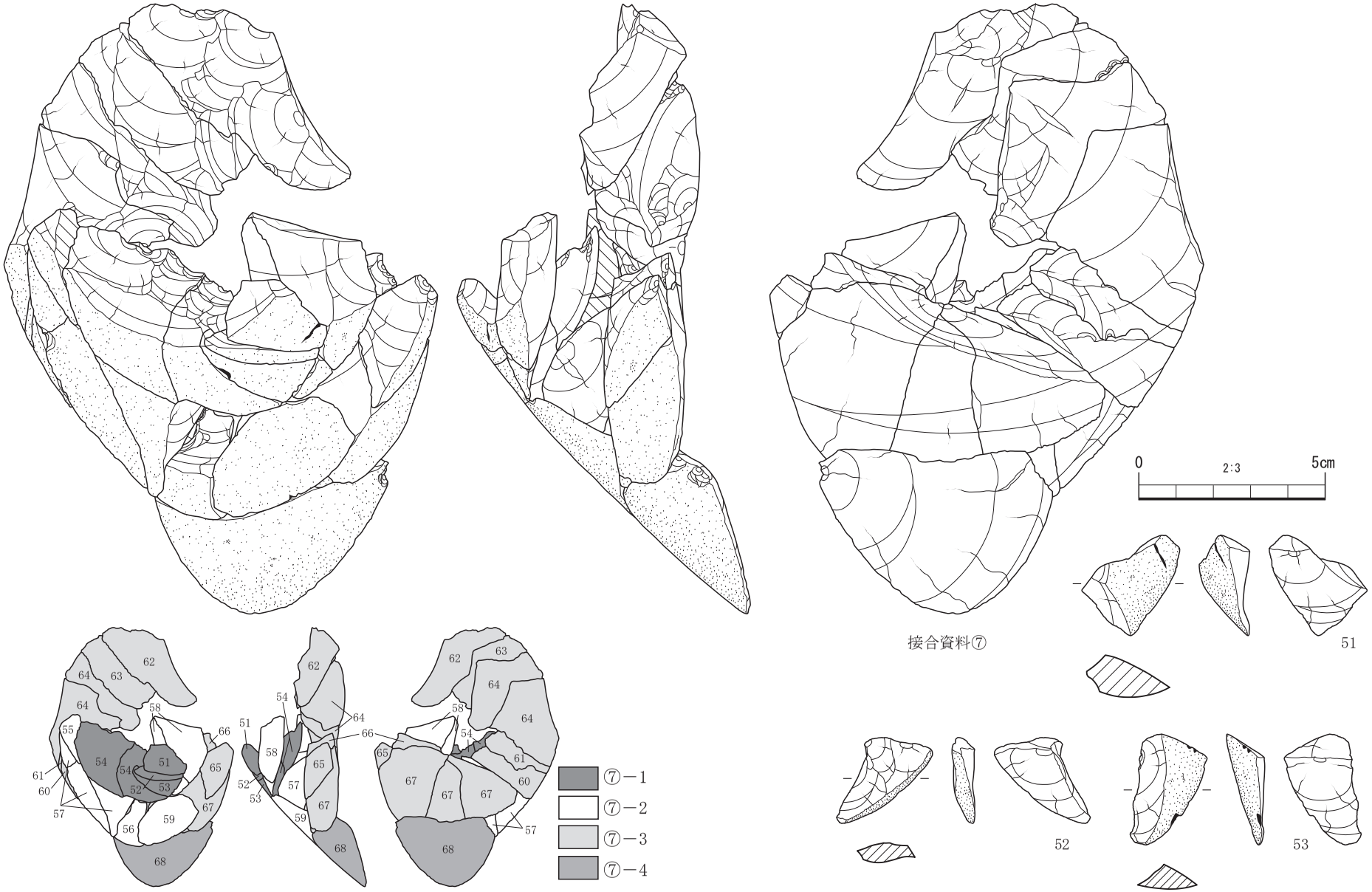


第 17 図　旧石器時代遺物包含層出土石器実測図⑧(S=2/3)

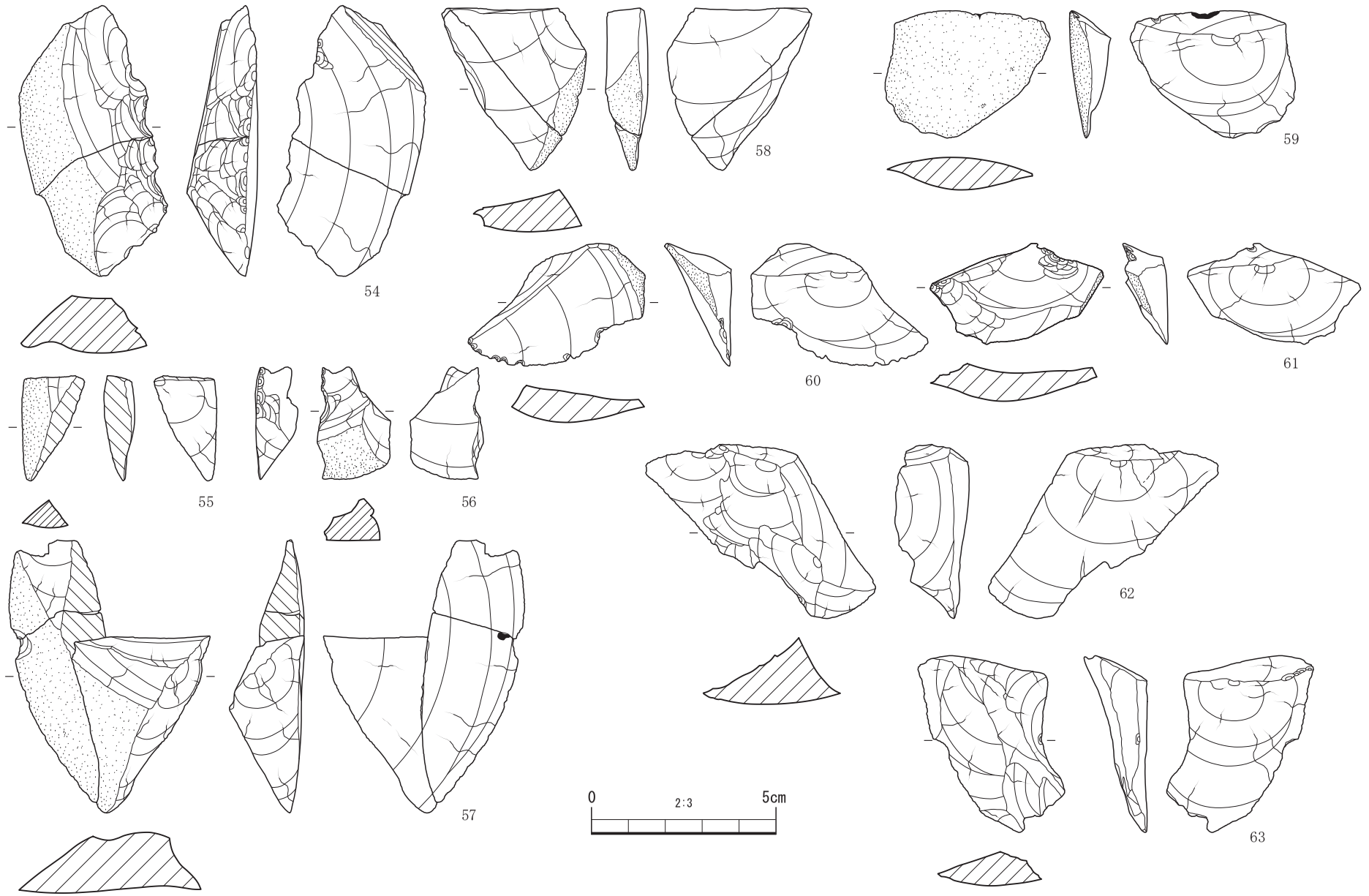
接合資料⑥



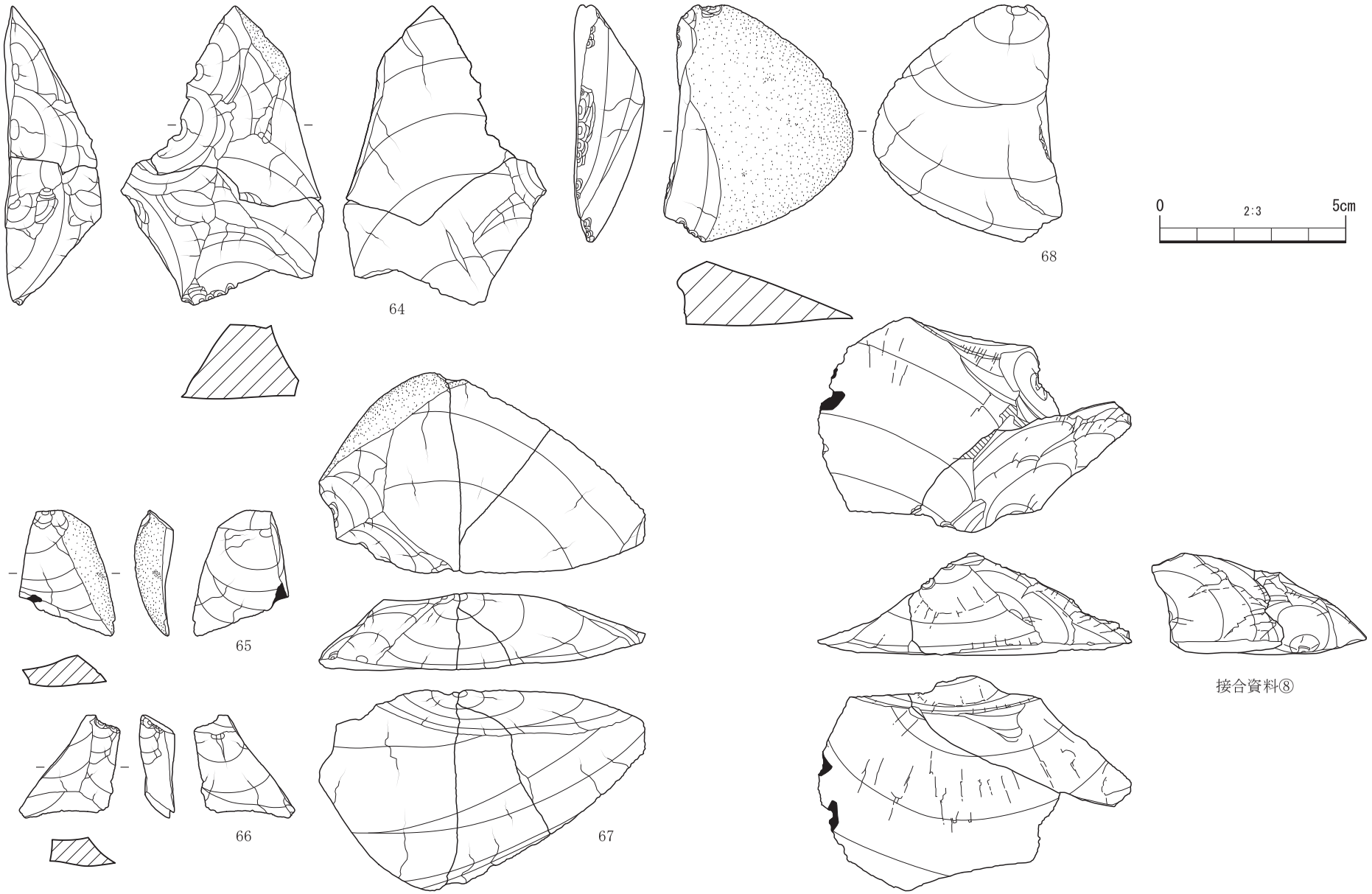
第 18 図　旧石器時代遺物包含層出土石器実測図⑨(S=2/3)



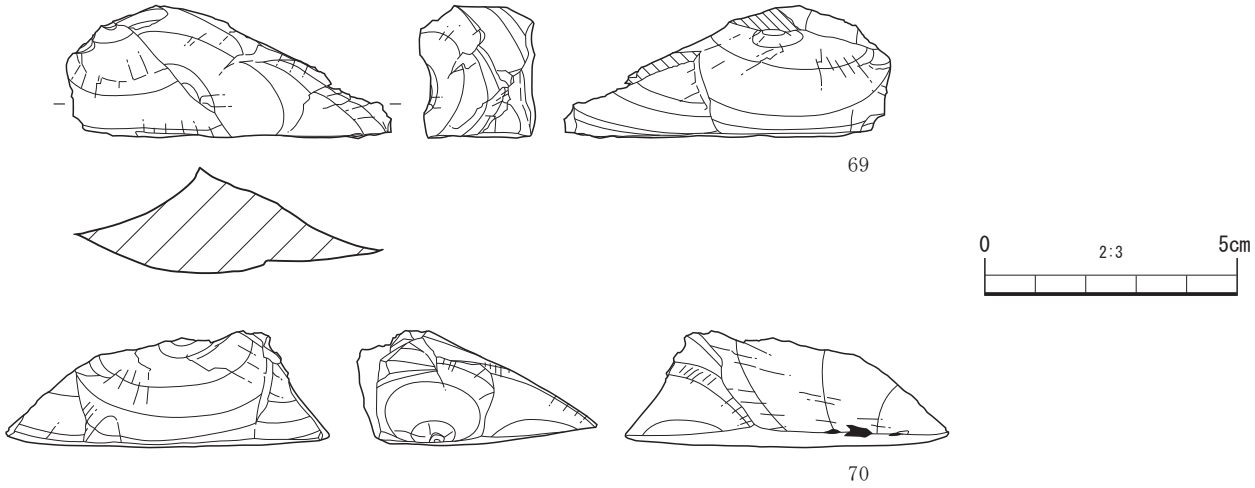
第 19 図　旧石器時代遺物包含層出土石器実測図⑩(S=2/3)



第 20 図　旧石器時代遺物包含層出土石器実測図⑪(S=2/3)



第 21 図　旧石器時代遺物包含層出土石器実測図⑫(S=2/3)



第 22 図　旧石器時代遺物包含層出土石器実測図⑬(S=2/3)

⑦－2の56は一方の縁辺に二次調整が認められる剥片である。欠損で部分的にしか残存していないが、スクレイパー等の利器を製作した可能性がある。

⑦－3は平面形円盤状の剥片を中央部分で分割し、60から64で角錐状石器を、65から67で翼状剥片を作出している。64は右側縁に素材の縁辺を残すが、二次調整を施す前に欠損したと判断して角錐状石器に分類した。剥離の順番は62→63→数枚の剥片剥離→60→61である。

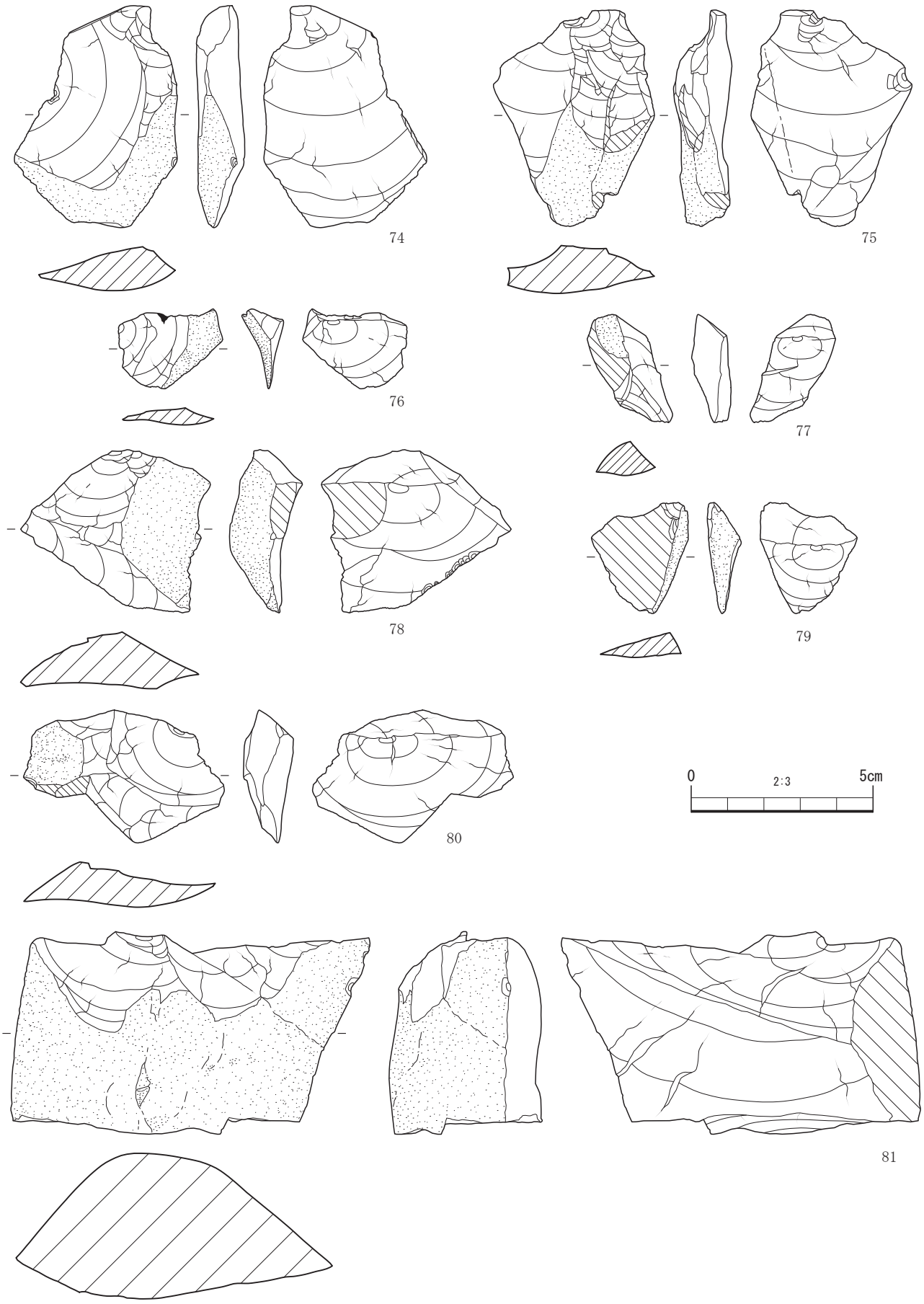
65と66は翼状剥片石核の打面調整剥片である。剥離の順番は65→66である。67は翼状剥片石核である。素材剥片を分割した際に生じた盤状の剥片を翼状剥片石核として利用したものであり、66の打面調整を行なった際に中央から折れたとみられる。⑦－4は石核や何らかのツールを作出しようと剥離を行なったとみられるが、剥片1枚しか接合しておらず詳細は不明である。

接合資料⑧　剥片1点と石核1点が接合した。瀬戸内技法第2工程にかかる接合資料であり、69の翼状剥片を作出した後に70に対して打面調整のための剥離を加えているものの、剥片を剥がずに廃棄している。

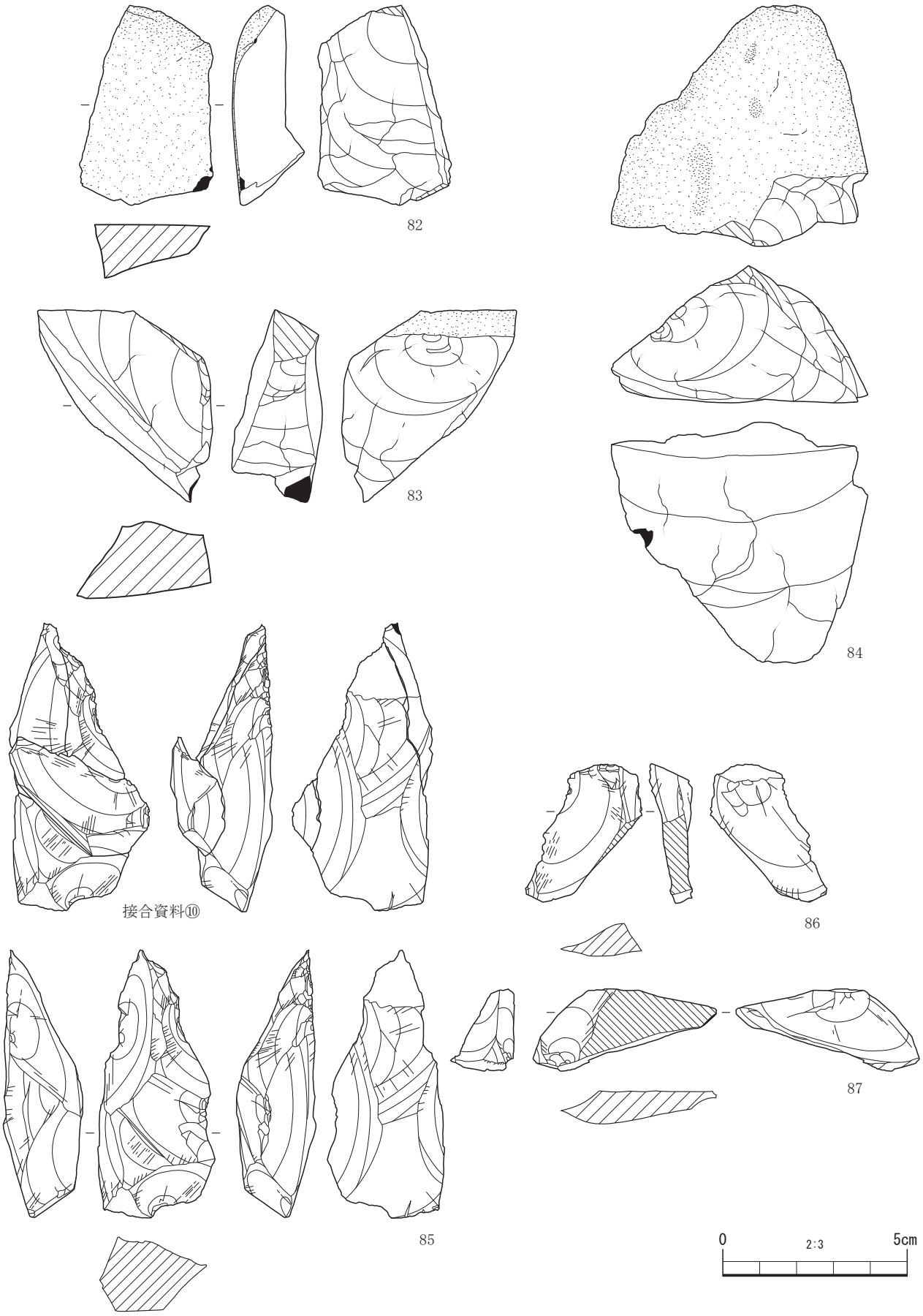
接合資料⑨　剥片13点と石核1点が接合した。⑨－1は石核や何らかのツールを作出しようと剥離を行なったとみられるが、剥片1点のみのため詳細不明である。

⑨－2は瀬戸内技法第2工程にかかる接合資料である。縦長の盤状剥片に打面調整を加え、その後目的とする翼状剥片を剥離し、持ち出している。打面調整剥離の順番は72→73→74→75→76→78→80である。77と79は持ち出された翼状剥片側に打点があることから、翼状剥片に二次調整を加えた際の剥片とみられる。その後の残核にも剥離を加え82、83の剥片を作出しているが、目的とする形態の剥片が得られなかったのか、残核84の段階で廃棄している。なお、82は83を剥ぐ際に偶発的に生じた剥片とみられる。

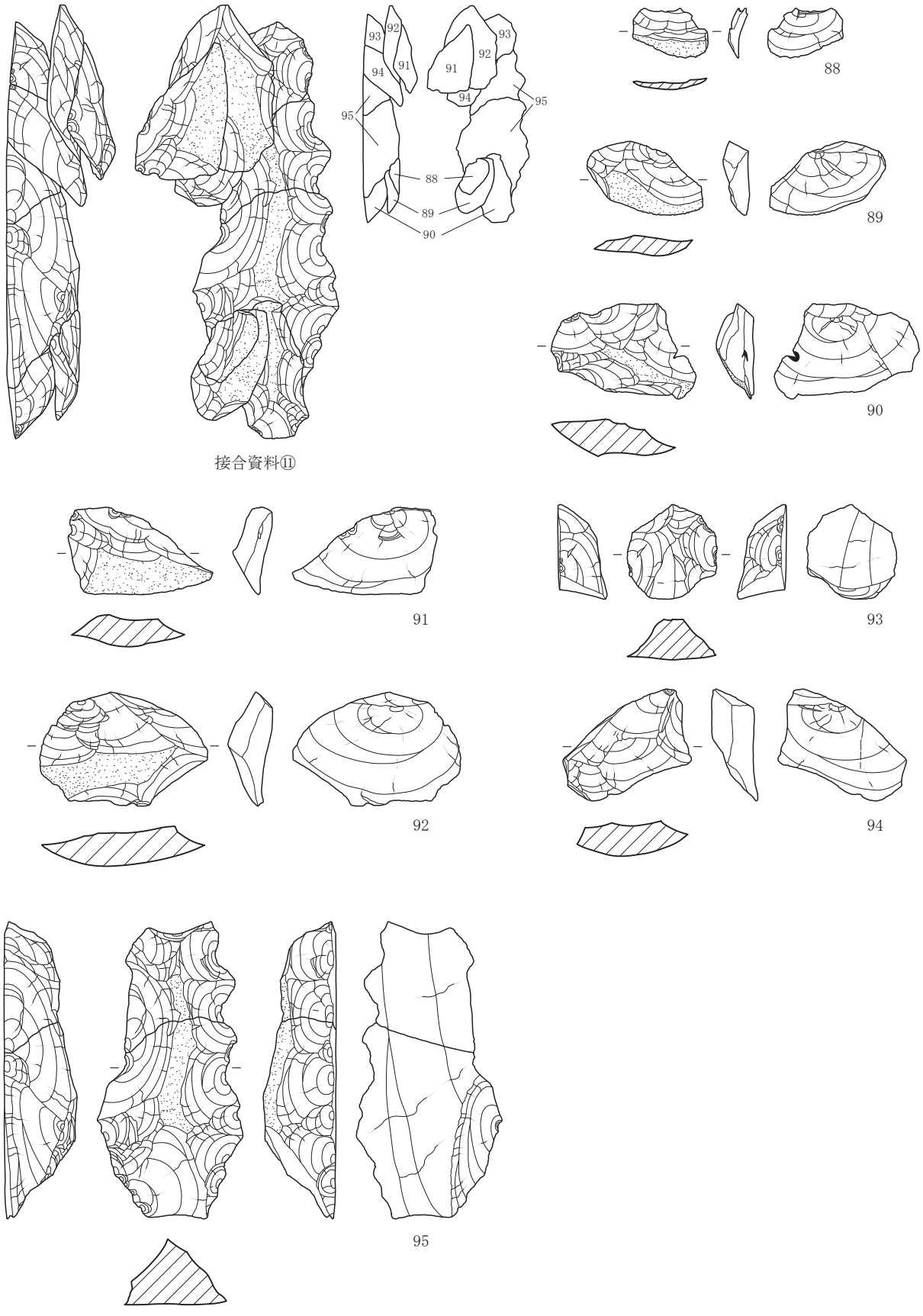
接合資料⑩　剥片2点と角錐状石器1点が接合した。角錐状石器の二次調整にかかる接合資料である。85の素材は主要剥離面の判断が難しい不定形な剥片だが、二次調整の打面を主要剥離面として作図した。二次調整が進んでいないため未製品とみられる。剥離は86→主要剥離面側からの数枚の剥片剥離→稜上からの剥片剥離1枚→87の順番で剥離している。



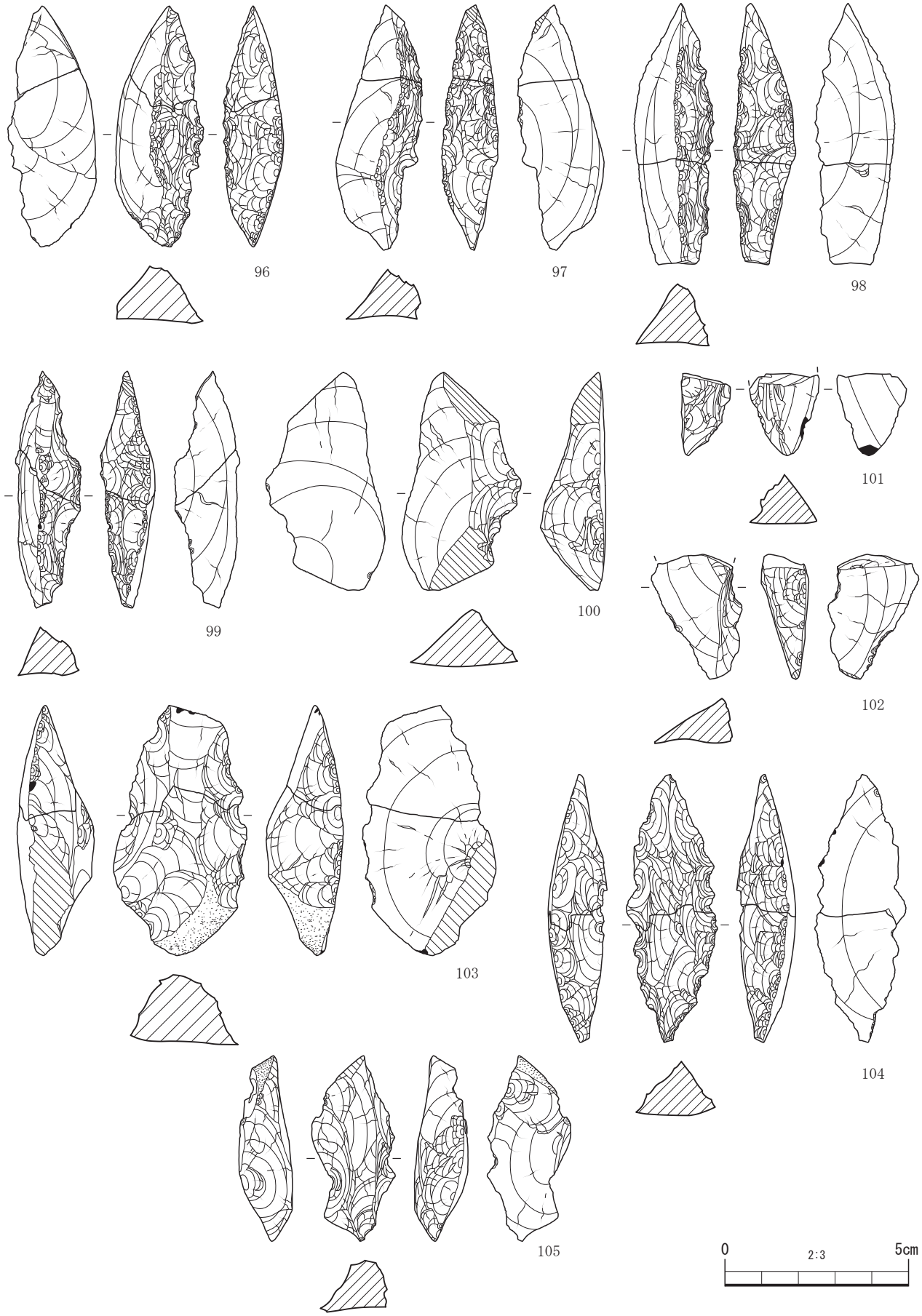
第 24 図　旧石器時代遺物包含層出土石器実測図⑮(S=2/3)



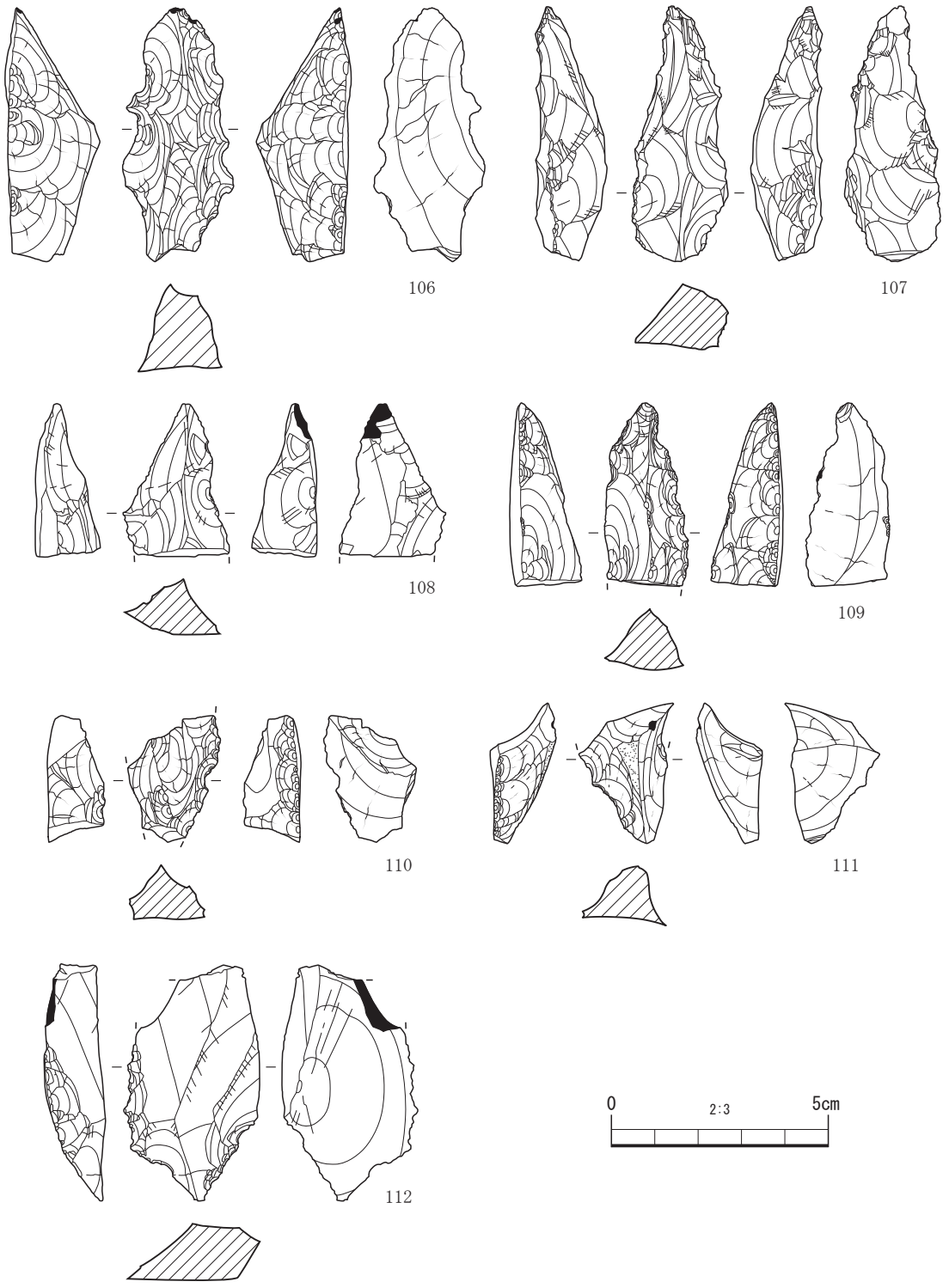
第 25 図　旧石器時代遺物包含層出土石器実測図⑯(S=2/3)



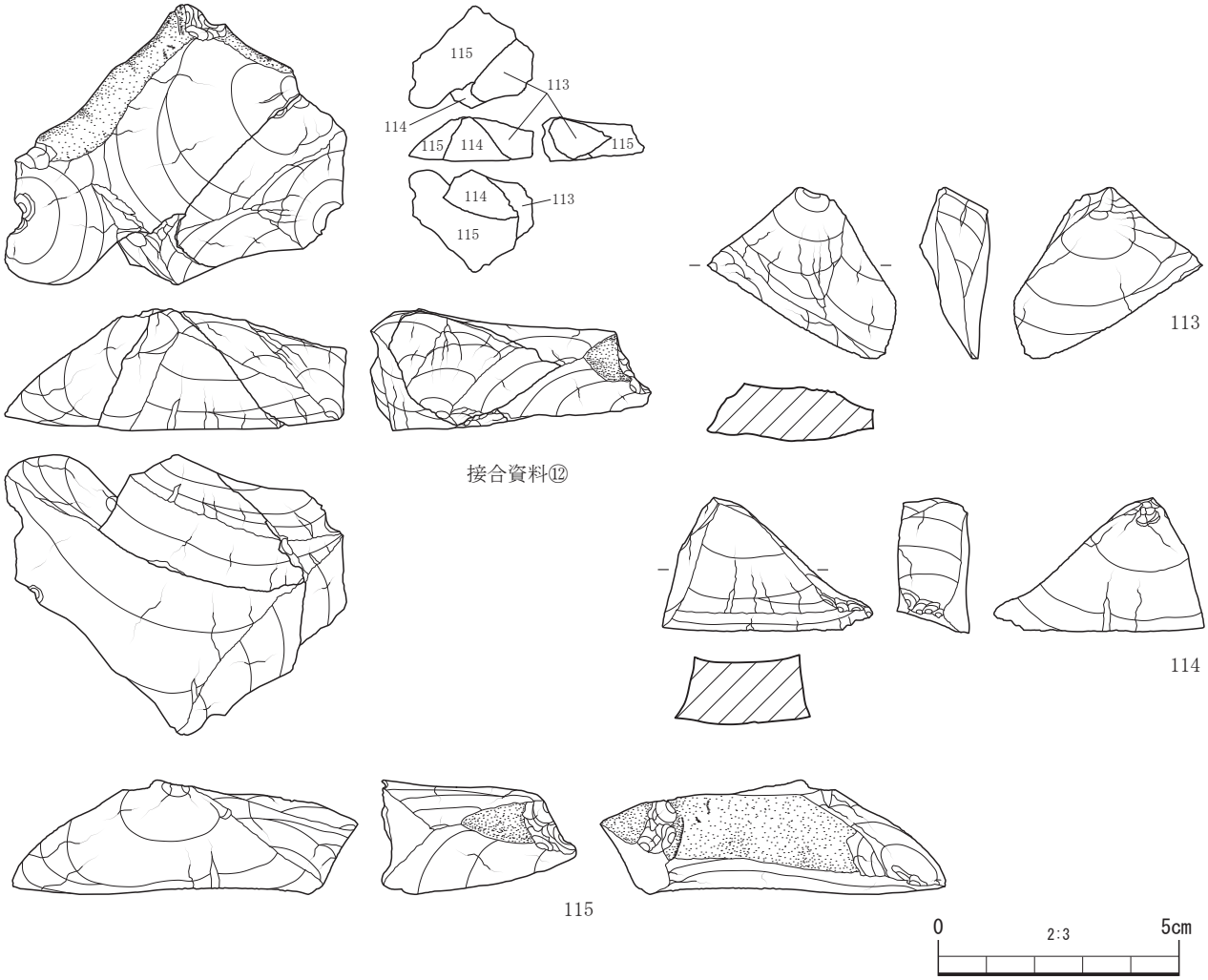
第 26 図　旧石器時代遺物包含層出土石器実測図⑰(S=2/3)



第 27 図　旧石器時代遺物包含層出土石器実測図⑱(S=2/3)



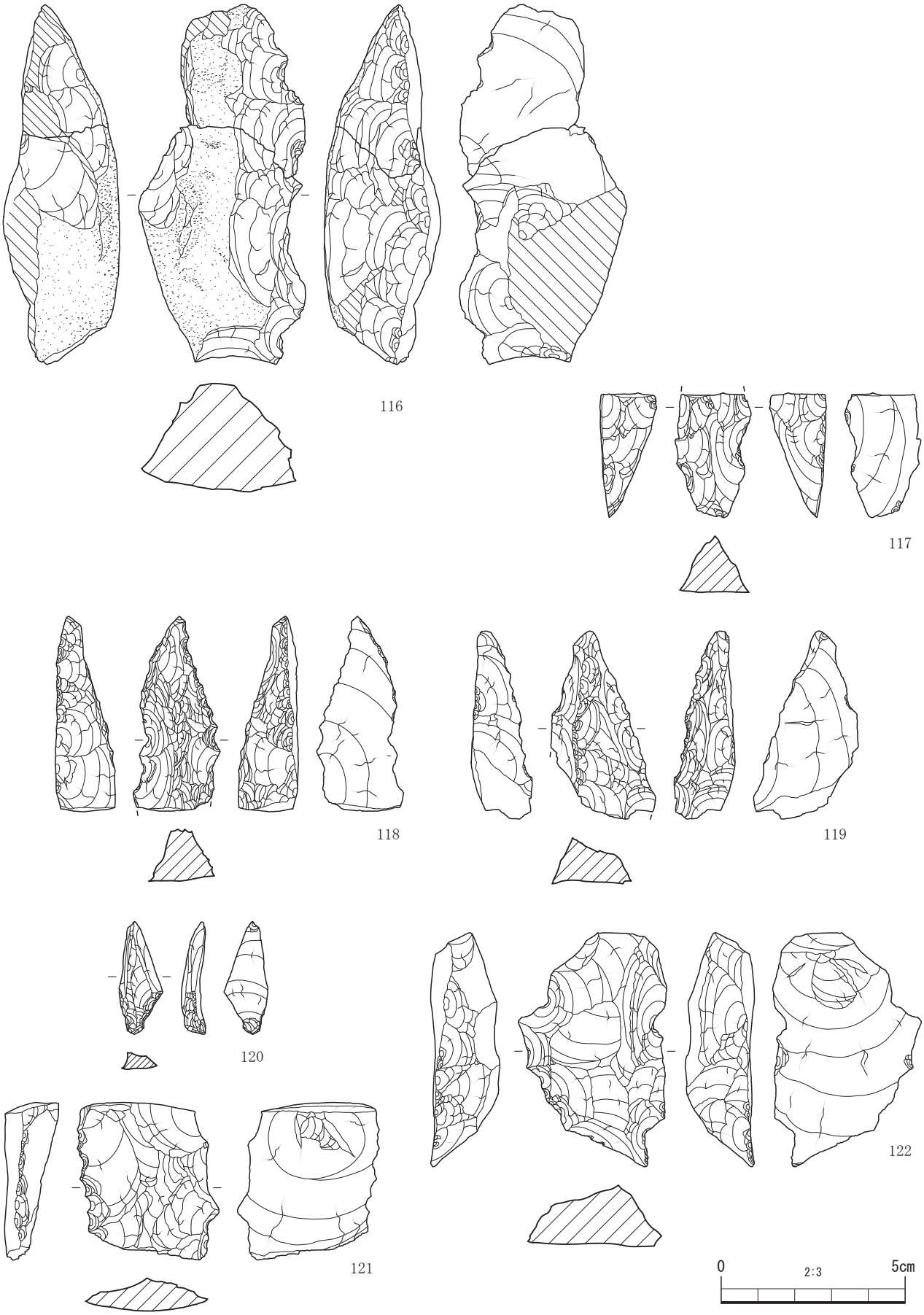
第 28 図　旧石器時代遺物包含層出土石器実測図⑲(S=2/3)



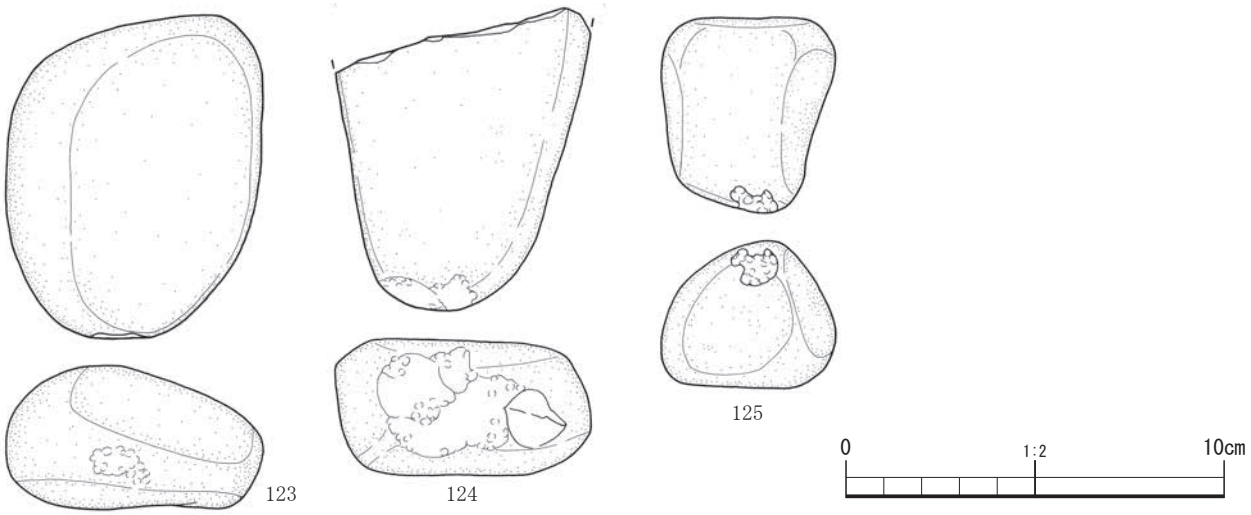
第 29 図　旧石器時代遺物包含層出土石器実測図⑳(S=2/3)

接合資料⑪　　剥片 7 点と角錐状石器 1 点が接合した。角錐状石器の二次調整にかかる接合資料である。剥離の順番は図上の右側縁の二次調整→ 88 → 89 →数枚の剥片剥離→ 90 →数枚の剥片剥離→ 91 → 92 → 1 枚の剥片剥離→ 94 である。95 は横長の剥片を素材とした角錐状石器だが、図上の右側縁に自然面を残すことから、元々の素材は接合資料⑥のような大ぶりの剥片の可能性がある。92 を剥離した後、連続して二次調整を加えた際に先端が折れ (93)、その後継続して二次調整を加えようと 94 → 1 枚の剥片剥離を加えた際に中央から折れて廃棄されたものとみられる。

その他の石器　　96 から 102 は国府型ナイフ形石器である。96 から 99 は製品に近いか、あるいは製品として利用されたとみられる一群である。いずれも翼状剥片を素材としており、素材の主要剥離面側と背面側から二次調整を加えている。100 は横長剥片を素材とした角錐状石器の未製品である。片側の側縁に素材の縁辺を残すが、反対側の二次調整剥離も大ぶりであることから、細かな二次調整を施す前に廃棄したものと判断した。101 と 102 は欠損した国府型ナイフ形石器である。101 は素材の主要剥離面側と背面側から二次調整を加えるもので、102 は主要剥離面側から二次調整を施している。



第 30 図　旧石器時代遺物包含層出土石器実測図㉑(S=2/3)



第 31 図　旧石器時代遺物包含層出土石器実測図㉒（S=1/2）

103 から 111 は角錐状石器である。103 は小ぶりな横長剥片を素材とし、両側縁に主要剥離面側からの二次調整を加えたものである。二次調整の途中で折れて廃棄している。104 は横長剥片を素材とする角錐状石器である。主要剥離面側から二次調整を行なった後、稜上調整を行なう段階で折れて廃棄している。105 は小ぶりの横長剥片を素材とした角錐状石器である。両側縁とともに一部主要剥離面にも調整を加えている。二次調整が進んでいないため未製品とみられる。106 は横長剥片を素材とした角錐状石器である。両側縁に二次調整を加えているが、剥離が大ぶりなため未製品とみられる。107 は三面調整の角錐状石器である。右側縁基部側の厚みを除去しきれなかったため製作途中で廃棄されたものとみられる。108 は角錐状石器の先端部である。主要剥離面側にも調整がみられる。109 は横長剥片を素材とした角錐状石器である。主要剥離面側から二次調整を加えるもので、図上右側縁の調整は細かいが、左側縁の調整は大降りなため製作途中で折れた可能性が高い。110 と 111 は角錐状石器の破片である。どちらも製作途中で折れて廃棄したものとみられる。

112 は横長剥片を素材としたスクレイパーである。素材の二縁辺に二次調整を加えているが、錐部の作出を意識したような調整を加えている点が注意される。石錐として利用された可能性もある。

(3) 頁岩 C（第 29 図から第 30 図）

灰色から灰褐色を呈し、ざらざらした質感を呈するものを頁岩 C とした。節理が発達し、油脂状光沢があまりない石材である。東側ブロックを中心として分布しており、2 組 5 点が接合した。

接合資料⑫　剥片 2 点と石核 1 点が接合した。瀬戸内技法第 2 工程にかかる接合資料である。盤状剥片に打面調整剥離を加え山形を形成し、連続して翼状剥片を作出している。113 は打面調整剥片である。114 は中央で折れているが、翼状剥片である。115 は残核である。

その他の石器　116 から 119 は角錐状石器である。116 は大ぶりな横長剥片を素材とした角錐状石器である。背面に自然面を残す素材の両側縁に、主要剥離面側から二次調整を行なっている。図上左側の二次調整の途中で折れて廃棄したものとみられる。117 は横長剥片を素材とす

る角錐状石器である。稜上調整が認められる。118は横長剥片を素材とした角錐状石器である。119は横長剥片を素材とした角錐状石器である。細かな稜上調整が認められる。

120は小型のナイフ形石器である。小ぶりな縦長剥片を素材として、二側縁に調整を加え基部を作出している。121は縦長剥片を素材としたスクレイパーである。一方の側縁に二次調整を加え、刃部を作出している。122は縦長剥片に二次加工を加えたものである。角錐状石器の未製品の可能性がある。

(4) 頁岩D

褐灰色を呈し、油脂状光沢があまりないものを頁岩Dとした。トレンチ2で平面形が撥形を呈する縦長剥片1点が出土した。

(5) 頁岩E

灰色を呈し、油脂状光沢があまりないものを頁岩Eとした。2点の剥片が出土しており、1点は母岩の自然面除去にともなう剥片、もう1点は縦長剥片である。

(6) 緑色堆積岩

灰色を呈する硬質の堆積岩である。剥片が計4点出土している。そのうち2点は小ぶりな横長剥片である。

(7) 敲石（第31図）

Ⅵ層からⅦ層にかけて、砂岩製の敲石3点が出土した。123から125はいずれも自然礫の縁辺を利用するもので、124は赤化しており、集石の構成礫を転用したものとみられる。

第１表　旧石器時代出土石器計測分類表①

掲載頁	図番号	掲載番号	遺構等	器種	石材	長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)	備考	実測No.
p．14	第10図	1	Ⅵb層982	剥片	頁岩A	4.2	3.8	1.3	22.0	接合資料①	H29-15-1
		2	Ⅵb層990	剥片	頁岩A	2.2	5.5	2.6	18.0	接合資料①	H29-15-3
		3	Ⅵ層173	剥片	頁岩A	2.4	2.7	1.6	8.0	接合資料①	H29-15-4
		4	Ⅵb層737+Ⅵb層922	石核	頁岩A	2.8	6.8	7.4	99.0	接合資料①	H29-15-2
p．15	第11図	5	Ⅵ層256	スクレイパー	頁岩A	5.5	7.1	3.3	84.0	接合資料②	H29-14-1
		6	Ⅵ層277	剥片	頁岩A	3.1	3.6	2.5	20.0	接合資料②	H29-14-4
		7	Ⅵb層748	石核	頁岩A	3.4	5.4	6.7	110.0	接合資料②	H29-14-2
		8	Ⅵ層277	石核	頁岩A	2.9	5.7	3.8	38.0	接合資料②	H29-14-3
p．16	第12図	9	Ⅵ層16	石核	頁岩A	3.3	3.9	4.6	45.0	接合資料③	H29-17-1
		10	Ⅵ層290	剥片	頁岩A	2.0	1.6	1.0	2.0	接合資料③	H29-17-2
		11	Ⅵb層737+Ⅵb層922	角錐状石器	頁岩A	8.3	2.2	2.0	32.0	接合資料④	H29-16-1
		12	カクラン	剥片	頁岩A	2.2	3.6	0.9	5.0	接合資料④	H29-16-3
		13	Ⅵb層775	剥片	頁岩A	1.6	2.6	0.7	3.0	接合資料④	H29-16-2
		14	Ⅵ層29	国府型ﾅｲﾌ形石器	頁岩A	3.4	2.3	1.6	8.0		H29-9
		15	Ⅵ層157	国府型ﾅｲﾌ形石器	頁岩A	(4.6)	(2.3)	(1.8)	(16.0)	欠損	H29-8
		16	Ⅵ層86	角錐状石器	頁岩A	3.9	2.4	1.6	11.0		H29-10
		17	Ⅵ層189	角錐状石器	頁岩A	(4.2)	(1.9)	(2.3)	(14.0)	欠損	H29-7
p．17	第13図	18	Ⅵ層82	角錐状石器	頁岩A	(4.9)	(3.0)	(2.1)	(25.0)	欠損	H29-11
		19	Ⅵb層318+Ⅵb層960	二次加工剥片	頁岩A	3.0	8.1	4.3	66.0		H29-12
		20	Ⅵ層39	スクレイパー	頁岩A	2.8	4.6	1.2	17.0		H29-13
		21	Ⅵb層465	石核	頁岩A	7.4	9.1	7.2	370.0		H29-18
p．19	第15図	22	Ⅵb層564	剥片	頁岩B	2.9	5.7	1.6	16.0	接合資料⑤	H28-1-4
		23	Ⅵb層550	剥片	頁岩B	3.9	4.6	1.5	29.7	接合資料⑤	H28-1-5
		24	Ⅵb層543+Ⅵ層412	剥片	頁岩B	3.6	8.0	2.6	53.4	接合資料⑤	H28-1-1
		25	Ⅵ層227	剥片	頁岩B	3.2	4.5	1.1	13.4	接合資料⑤	H28-1-16
		26	Ⅵb層375	剥片	頁岩B	2.8	4.8	1.6	15.3	接合資料⑤	H28-1-14
		27	Ⅵb層551	剥片	頁岩B	2.7	2.9	1.0	4.5	接合資料⑤	H28-1-17
		28	Ⅵ層71	剥片	頁岩B	3.4	4.1	1.3	12.1	接合資料⑤	H28-1-6
		29	Ⅵb層524	二次加工剥片	頁岩B	5.1	3.8	1.5	21.6	接合資料⑤	H28-1-18
p．20	第16図	30	Ⅵb層501+Ⅵb層650	角錐状石器	頁岩B	10.1	5.7	2.3	97.5	接合資料⑤	H28-1-19
		31	Ⅵb層946	剥片	頁岩B	2.4	3.5	0.7	5.0	接合資料⑤	H28-1-10
		32	Ⅵb層1067	剥片	頁岩B	2.1	2.3	0.6	2.0	接合資料⑤	H28-1-3
		33	Ⅵb層758	剥片	頁岩B	4.7	3.2	2.1	30.4	接合資料⑤	H28-1-13
		34	Ⅵb層981	剥片	頁岩B	5.8	5.8	2.4	42.0	接合資料⑤	H28-1-8
		35	Ⅵb層438	剥片	頁岩B	5.2	2.2	1.7	10.9	接合資料⑤	H28-1-15
		36	Ⅵb層320	剥片	頁岩B	3.9	5.1	3.8	56.2	接合資料⑤	H28-1-11
		37	Ⅵb層1030	剥片	頁岩B	4.8	6.2	2.7	48.6	接合資料⑤	H28-1-12
p．21	第17図	38	Ⅵ層306	剥片	頁岩B	5.3	7.0	1.5	43.8	接合資料⑤	H28-1-9
		39	Ⅵb層815	剥片	頁岩B	7.4	6.3	2.0	67.0	接合資料⑤	H28-1-7
		40	SH5+Ⅵb層530	角錐状石器	頁岩B	8.9	3.7	1.6	37.2	接合資料⑤	H28-1-20
		41	Tr1一括	剥片	頁岩B	1.7	1.6	0.4	0.9	接合資料⑤	H28-1-2
p．22	第18図	42	Ⅵb層610	剥片	頁岩B	7.7	4.0	1.9	58.3	接合資料⑥	H28-3-5
		43	Ⅵb層483	剥片	頁岩B	6.6	4.3	1.9	32.3	接合資料⑥	H28-3-9
		44	Ⅵb層840	剥片	頁岩B	6.2	6.5	2.8	63.9	接合資料⑥	H28-3-6
		45	Ⅵb層495	剥片	頁岩B	4.2	2.1	1.2	9.7	接合資料⑥	H28-3-4
		46	Ⅵb層910	剥片	頁岩B	2.4	2.1	0.8	3.1	接合資料⑥	H28-3-3
		47	Ⅵb層602	剥片	頁岩B	4.8	4.7	1.8	25.1	接合資料⑥	H28-3-2
		48	Ⅵb層636	剥片	頁岩B	3.5	3.5	0.8	7.0	接合資料⑥	H28-3-8
		49	Ⅵb層637	剥片	頁岩B	4.6	2.8	1.2	10.9	接合資料⑥	H28-3-7
		50	Ⅵ層113+Ⅵb層603	角錐状石器	頁岩B	9.0	3.7	3.0	76.4	接合資料⑥	H28-3-1
p．23	第19図	51	Ⅵb層662	剥片	頁岩B	2.7	2.6	1.4	5.0	接合資料⑦	H28-4-2
		52	Ⅵb層832	剥片	頁岩B	2.3	2.6	0.6	2.2	接合資料⑦	H28-4-16
		53	Ⅵb層642	剥片	頁岩B	3.0	2.1	1.0	3.3	接合資料⑦	H28-4-4

（　）の値は残存値を示す

第 2 表　旧石器時代出土石器計測分類表②

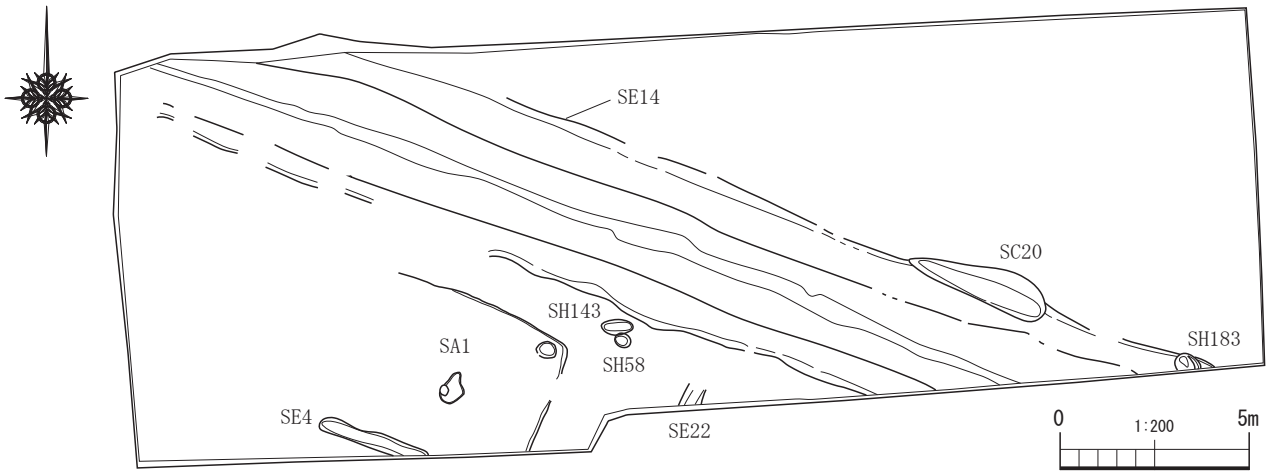
掲載頁	図番号	掲載番号	遺構等	器種	石材	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重量 (g)	備考	実測 No.
p．24	第 20 図	54	Ⅵ層 74+ Ⅵb 層 525	角錐状石器	頁岩 B	7.4	4.1	1.9	44.9	接合資料⑦	H28-4-17
		55	Ⅵb 層 931	剥片	頁岩 B	2.9	1.7	0.9	3.3	接合資料⑦	H28-4-1
		56	Ⅵb 層 649	二次加工剥片	頁岩 B	3.1	2.0	1.2	6.1	接合資料⑦	H28-4-3
		57	Ⅵ層 149+ Ⅵb 層 617+ Ⅵb 層 516	剥片	頁岩 B	7.4	5.5	2.0	44.9	接合資料⑦	H28-4-11
		58	Ⅵ層 214+ Ⅵb 層 584	剥片	頁岩 B	4.4	3.9	1.2	18.2	接合資料⑦	H28-4-5
		59	Ⅵ層 68	剥片	頁岩 B	3.5	4.5	1.1	14.3	接合資料⑦	H28-4-7
		60	Ⅵ層 413	剥片	頁岩 B	3.3	4.8	1.8	13.6	接合資料⑦	H28-4-9
		61	Ⅵb 層 1017	剥片	頁岩 B	2.8	4.7	1.3	11.1	接合資料⑦	H28-4-8
		62	Ⅵb 層 508	剥片	頁岩 B	4.7	6.3	2.0	28.4	接合資料⑦	H28-4-14
		63	Ⅵ層 69	剥片	頁岩 B	4.8	4.0	1.7	18.4	接合資料⑦	H28-4-10
p．25	第 21 図	64	Ⅵb 層 787+ Ⅵb 層 752	角錐状石器	頁岩 B	8.1	5.5	2.6	83.1	接合資料⑦	H28-4-18
		65	Ⅵb 層 455	剥片	頁岩 B	3.4	2.6	1.1	7.0	接合資料⑦	H28-4-15
		66	Ⅵ層	剥片	頁岩 B	2.8	2.7	1.0	4.9	接合資料⑦	H28-4-13
		67	Ⅵb 層 601+ Ⅵ層 121+ 表採	石核	頁岩 B	2.1	8.8	5.4	97.3	接合資料⑦	H28-4-12
		68	Ⅵb 層 505	剥片	頁岩 B	6.4	5.1	1.9	51.1	接合資料⑦	H28-4-6
p．26	第 22 図	69	Ⅵb 層 476	剥片	頁岩 B	2.6	6.5	2.3	32.0	接合資料⑧	H29-6-2
		70	Ⅵ層 120	石核	頁岩 B	2.3	6.4	4.8	59.0	接合資料⑧	H29-6-1
p．27-28	第 23 図	71	Ⅵb 層 1042	剥片	頁岩 B	4.2	5.7	2.0	22.8	接合資料⑨	H28-2-12
		72	Ⅵb 層 661+ Ⅵ層 407	剥片	頁岩 B	5.1	4.9	1.3	22.7	接合資料⑨	H28-2-10
		73	Ⅵb 層 676	剥片	頁岩 B	5.2	6.0	1.8	38.2	接合資料⑨	H28-2-6
p．29	第 24 図	74	Ⅵ層 53	剥片	頁岩 B	6.1	4.5	1.4	33.7	接合資料⑨	H28-2-7
		75	Ⅵ層 165	剥片	頁岩 B	6.0	4.5	1.6	31.7	接合資料⑨	H28-2-5
		76	Ⅵb 層 354	剥片	頁岩 B	2.2	2.9	1.2	3.8	接合資料⑨	H28-2-11
		77	Ⅵb 層 379	剥片	頁岩 B	3.0	2.4	1.1	4.6	接合資料⑨	H28-2-9
		78	Ⅵ層 234	剥片	頁岩 B	4.5	5.2	2.0	33.8	接合資料⑨	H28-2-4
		79	Ⅵb 層 648	剥片	頁岩 B	3.1	2.7	1.0	4.3	接合資料⑨	H28-2-8
		80	Ⅵb 層 835	剥片	頁岩 B	3.7	5.5	1.4	19.5	接合資料⑨	H28-2-13
		81	Ⅵb 層 535	剥片	頁岩 B	5.6	9.9	4.2	229.4	接合資料⑨	H28-2-14
p．30	第 25 図	82	Ⅵb 層 493	剥片	頁岩 B	5.4	3.6	1.8	34.2	接合資料⑨	H28-2-3
		83	Ⅵb 層 496	剥片	頁岩 B	5.2	4.8	2.5	48.8	接合資料⑨	H28-2-1
		84	Ⅵb 層 604	石核	頁岩 B	3.7	7.0	6.6	121.1	接合資料⑨	H28-2-2
		85	Ⅵb 層 883	角錐状石器	頁岩 B	7.3	3.2	2.2	41.0	接合資料⑩	H29-4-1
		86	Ⅵb 層 611	剥片	頁岩 B	3.8	3.2	1.2	8.0	接合資料⑩	H29-4-3
		87	Ⅵ層 137	剥片	頁岩 B	2.2	4.9	1.7	11.0	接合資料⑩	H29-4-2
p．31	第 26 図	88	Tr1 一括	剥片	頁岩 B	1.3	2.0	0.5	0.7	接合資料⑪	H28-5-6
		89	Ⅵb 層 689	剥片	頁岩 B	1.9	3.0	0.7	3.0	接合資料⑪	H28-5-5
		90	Ⅵb 層 141	剥片	頁岩 B	2.5	3.8	1.0	8.0	接合資料⑪	H28-5-3
		91	Ⅵ層 116	剥片	頁岩 B	2.3	3.8	1.0	5.5	接合資料⑪	H28-5-7
		92	Ⅵb 層 626	剥片	頁岩 B	3.0	4.3	1.2	11.7	接合資料⑪	H28-5-8
		93	Ⅵb 層 646	二次加工剥片	頁岩 B	2.5	2.4	1.3	7.0	接合資料⑪	H28-5-2
		94	Ⅵb 層 531	剥片	頁岩 B	2.9	3.4	1.2	8.5	接合資料⑪	H28-5-4
		95	Ⅵb 層 880+ Ⅵ層 126	角錐状石器	頁岩 B	7.8	3.8	1.9	46.5	接合資料⑪	H28-5-1
p．32	第 27 図	96	Ⅵ層 401+ Ⅴ層	国府型ﾅｲﾌ形石器	頁岩 B	6.6	2.4	1.7	21.2		H28-6
		97	Ⅵb 層 844+ Ⅵb 層 467	国府型ﾅｲﾌ形石器	頁岩 B	6.7	2.4	1.6	14.5		H28-11
		98	Ⅵ層 142+ Ⅵ層 389	国府型ﾅｲﾌ形石器	頁岩 B	7.1	2.2	1.7	19.4		H28-9
		99	Ⅵ層 128+ Ⅵb 層 683	国府型ﾅｲﾌ形石器	頁岩 B	6.5	1.8	1.5	12.6		H28-8
		100	Ⅵb 層 686	国府型ﾅｲﾌ形石器	頁岩 B	6.0	3.3	1.8	23.1		H28-16
		101	Tr1 一括	国府型ﾅｲﾌ形石器	頁岩 B	(2.3)	(1.9)	(1.4)	(5.0)	欠損	H29-3
		102	Ⅵ層 229	国府型ﾅｲﾌ形石器	頁岩 B	(3.4)	(2.5)	(1.3)	(6.8)	欠損	H28-14
		103	Ⅵ層 107+ ｶｸﾗﾝ	角錐状石器	頁岩 B	6.8	3.7	2.1	40.7		H28-7
		104	Ⅵb 層 486+ Ⅵ層 115	角錐状石器	頁岩 B	7.3	2.5	1.6	20.6		H28-10
		105	Tr1 一括	角錐状石器	頁岩 B	5.1	2.3	1.5	13.4		H28-18
p．33	第 28 図	106	Ⅵb 層 681	角錐状石器	頁岩 B	5.9	2.6	2.2	23.5		H28-17

（　）の値は残存値を示す

第 3 表　旧石器時代出土石器計測分類表③

掲載頁	図番号	掲載番号	遺構等	器種	石材	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重量 (g)	備考	実測 No.
p.33	第 28 図	107	ｶｸﾗﾝ	角錐状石器	頁岩 B	5.9	2.2	1.7	18.0		H29-1
		108	ｶｸﾗﾝ	角錐状石器	頁岩 B	(3.5)	(2.5)	(1.5)	(7.0)	欠損	H29-2
		109	Ⅵb 層 651	角錐状石器	頁岩 B	(4.2)	(1.9)	(1.7)	(10.9)	欠損	H28-13
		110	Ⅵ層 67	角錐状石器	頁岩 B	(2.9)	(2.2)	(1.4)	(6.4)	欠損	H28-12
		111	Ⅵb 層 716	角錐状石器	頁岩 B	(3.2)	(2.2)	(1.5)	(5.8)	欠損	H28-15
		112	Ⅵb 層 645	石錐	頁岩 B	5.4	3.2	1.4	21.0		H29-5
p.34	第 29 図	113	Ⅵ層 78	剥片	頁岩 C	3.6	3.9	1.5	14.4	接合資料⑫	H30-8-3
		114	Ⅵ層 162	剥片	頁岩 C	2.8	4.4	1.5	19.1	接合資料⑫	H30-8-2
		115	Ⅵb 層 715	石核	頁岩 C	2.4	7.2	4.0	58.9	接合資料⑫	H30-8-1
p.35	第 30 図	116	Ⅵ層 164+ Ⅵb 層 974	角錐状石器	頁岩 C	9.8	4.5	3.2	114.9		H30-4
		117	Ⅵ層 80	角錐状石器	頁岩 C	(3.4)	(2.1)	(1.6)	(8.0)	欠損	H30-1
		118	Ⅵb 層 1028	角錐状石器	頁岩 C	(5.3)	(2.4)	(1.6)	(15.9)	欠損	H30-2
		119	Ⅵ層 166	角錐状石器	頁岩 C	(5.1)	(2.9)	(1.7)	(14.7)	欠損	H30-3
		120	Ⅵ層 83	ナイフ形石器	頁岩 C	3.1	1.2	0.7	1.7		H30-7
		121	Ⅵ層 242	スクレイパー	頁岩 C	4.3	3.9	1.5	22.3		H30-6
		122	Ⅵb 層 955	二次加工剥片	頁岩 C	6.4	4.0	1.9	44.0		H30-5
p.36	第 31 図	123	Ⅵ層 39 礫	敲石	砂岩	8.5	6.8	3.8	260.7		288
		124	Ⅵ層 5 礫	敲石	砂岩	8.0	6.7	3.6	254.0	被熱した礫を利用	290
		125	Ⅶ層 384	敲石	砂岩	5.2	4.6	3.9	125.4		287

（　）の値は残存値を示す



第32図　古墳時代前期の主要遺構配置図(S=1/200)

第4節　古墳時代前期の調査成果

鬼界アカホヤ火山灰層及び縄文早期ローム層上面で竪穴建物1棟、溝状遺構3条、土坑1基が検出された。柱穴は調査区内から多数検出されたが埋土が黒褐色シルト主体で類似しており、時期が不明なものが大半である。そのうち古墳時代前期の遺物が出土した柱穴58、143、183を当該期の遺構として認定した。以下、遺構毎に報告を行なう。出土遺物の詳細は観察表を参照していただきたい。

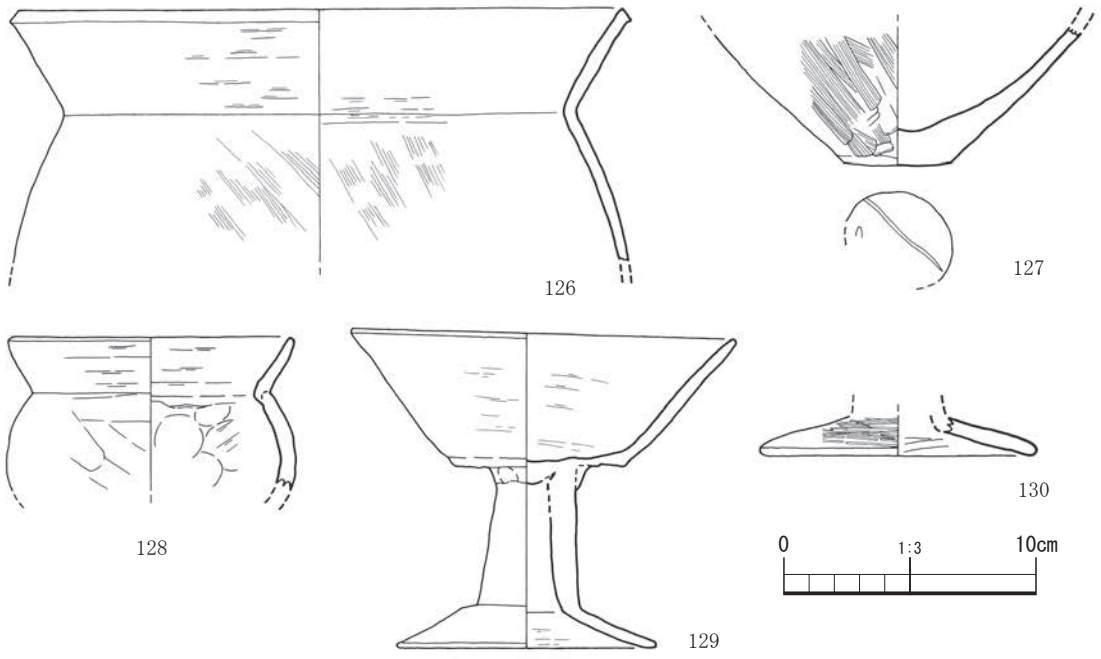
竪穴建物1(第33図)　調査区南側の壁面沿いで検出された。溝状遺構2、4に切られている。西側は近世以降の撹乱で消失しており、南側は調査区外に広がっているため規模は不明だが、平面形は一辺5m以上の方形と推測される。建物の主軸はN－30°－Eである。掘り方面まで掘削した段階で建物東隅に柱穴が1基検出された。貼床面では検出できなかったが建物に伴う可能性がある。また、建物中央で平面が0.84m×0.6mの不整形で、断面がすり鉢状の小土坑が検出された。確認調査の段階で大部分が掘り上げられていたため埋土の詳細が不明だが、床面で被熱や焼土は検出されなかった。また、アカホヤブロックや黒褐色ブロックを含む土で貼床が形成されている。埋土中から遺物が出土した他、貼床面上で遺物と焼土が検出された。遺物と焼土は建物北東側に集中しており、焼土下の貼床面上からも遺物が出土している。

126から131は貼床面上で出土した遺物である。126は土師器甕である。127は壺あるいは甕の底部であり、外底面に暗文状のミガキが認められる。128は小型壺である。129は布留式系高坏である。焼土下からまとまって破片が出土している。在地の粘土で製作されているが、色調が暗く他の出土土師器と比較すると異質である。130は高坏の脚裾部とみられる。131は砂岩製の敲石である。132から138は埋土中から出土した遺物である。

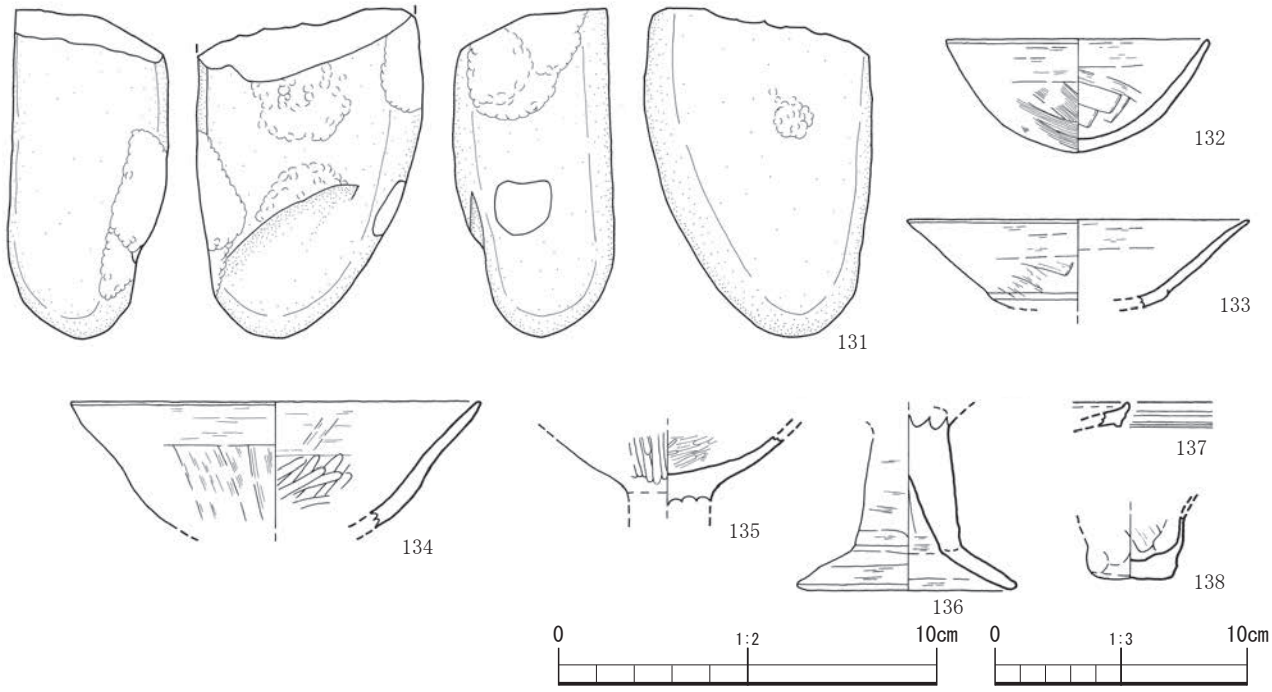
溝状遺構14(第35から第58図)　調査区の中央を横断する形で検出された。土坑20と柱穴183に切られている。検出面での最大幅4.3m、最大深さ1.2mを測り、直線状に北西－南東方向に伸びている。断面は二段掘りの台形状を呈し、基本層序X層を底面としている。また、溝の北

SA1 土層

1　黒褐 (10YR2/2)。粘性、しまりあり。シルト。白色、橙色の軽石粒を含む。SE2 埋土。
2　黒褐 (10YR2/2)。粘性、しまりあり。シルト。白色、橙色の軽石粒、θ1 ～ 3cm のロームブロックを含む
3　2 に類似するが、ロームブロックを多量含む。
4　明褐 (7.5YR5/8)。粘性やや弱、しまりあり。シルト。焼土。
5　黒褐 (10YR3/2)。粘性、しまり強い。ローム。黒褐色土、K-Ah ブロックが斑状に混ざる。貼床層。



第 33 図　竪穴建物 1 実測図 (S=1/60)**、出土遺物実測図①**(S=1/3)

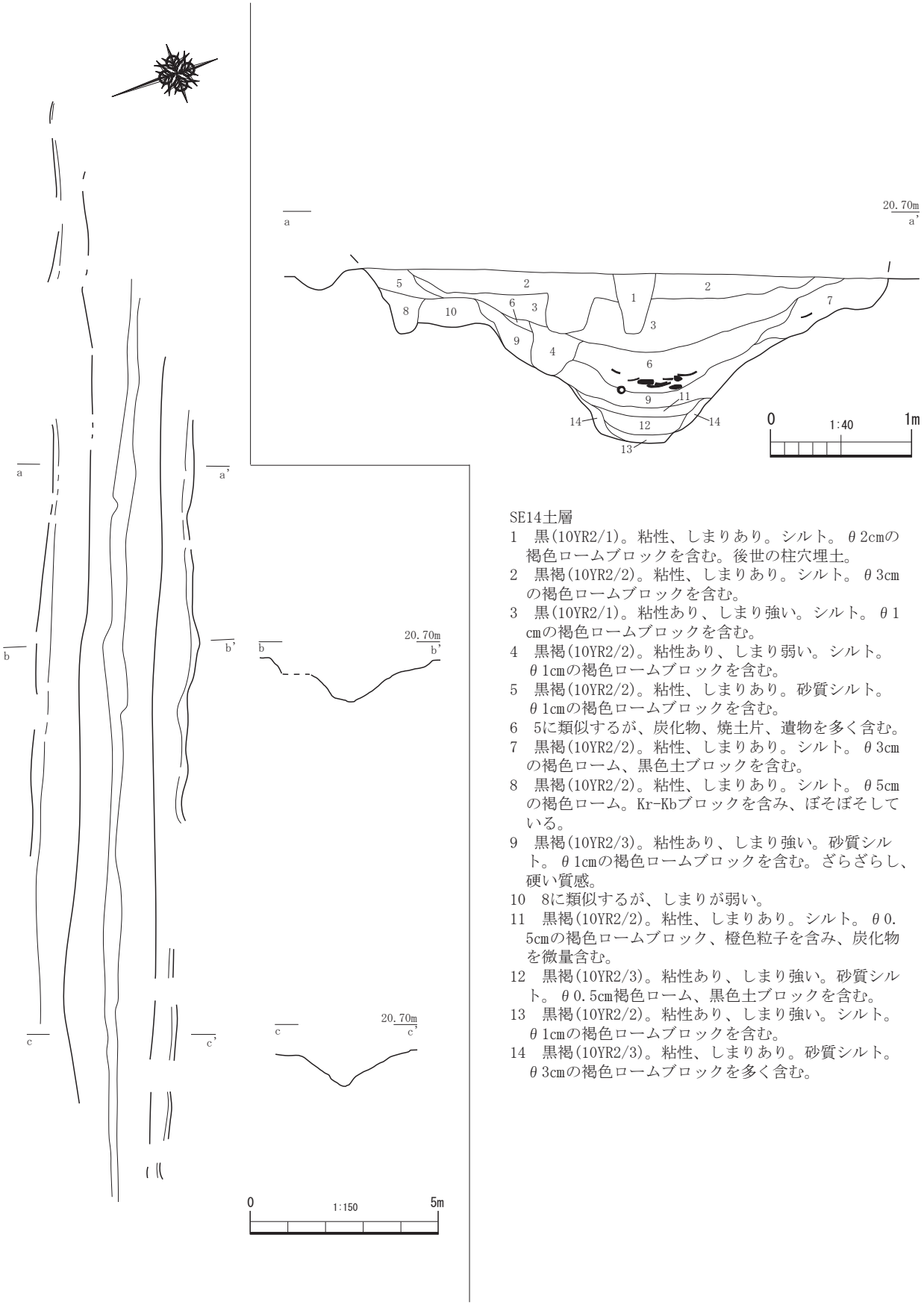


第 34 図　竪穴建物 1 出土遺物実測図② (S=1/3・1/2)

側には明瞭なテラス状平坦面を有する。埋土は上層が黒褐シルト主体で5層以下が砂質シルト主体である。レンズ状の堆積が認められるが、埋没段階での掘り込みが4層と8層で認められる。また、霧島小林降下軽石を多く含む10層は北側のみにみられ、南側には堆積が認められない。掘削土を盛り上げた土塁が北側に存在し、埋没過程で流れ込んだ可能性が推測される。上層は基本層序Ⅱ層に類似した堆積土であり、溝が埋まってくぼ地になったところに堆積した黒ボク土とみられる。遺物の取り上げにあたっては2層から3層を上層、5層から7層を中層、9層から14層を下層として行なった。

このうち下層からは土師器小片が数点出土したのみだが、中層からは多量の土師器、石器、土製品、炭化物が出土した（第36図）。土師器は完形を多く含み、6層下部に集中して出土している。埋土の堆積に沿って出土していることから、6層下部まで埋没した段階で、短期間のうちに廃棄されたものと推測される。遺物は検出された溝の東側に集中しており、西側は相対的に量が少ない。調査期間の都合上、最も遺物の密集度が高い範囲のみを図化した。上層からは土師器や須恵器、石器が出土しており、中層出土のものと接合するものもある。

床面上からは遺物が1点しか出土していない。139は床面上出土の土師器壺片である。小破片で具体的な器種は不明だが、ナデ主体の調整と胴部内面に粘土紐接合痕を残すことから、古墳時代前期の壺と推測される。140から279は中層出土の土師器である。140は壺もしくは甕の底部である。外底面にタタキ痕が認められる。141は突出ぎみの底部と明瞭に屈曲するくの字口縁を有し、図上右上がりのタタキ痕を残す伝統的近畿第Ⅴ様式系の甕である。142から149は、在来系長胴甕のうち口縁部の屈曲が緩やかな一群である。ナデ調整を主体とするが、144と148には胴部外面に粗いミガキ調整が認められる。149はややいびつな丸底を呈する甕である。胴部と接合しないが、胎土と器面調整から同一個体と判断した。150から151は、口縁部が内湾す

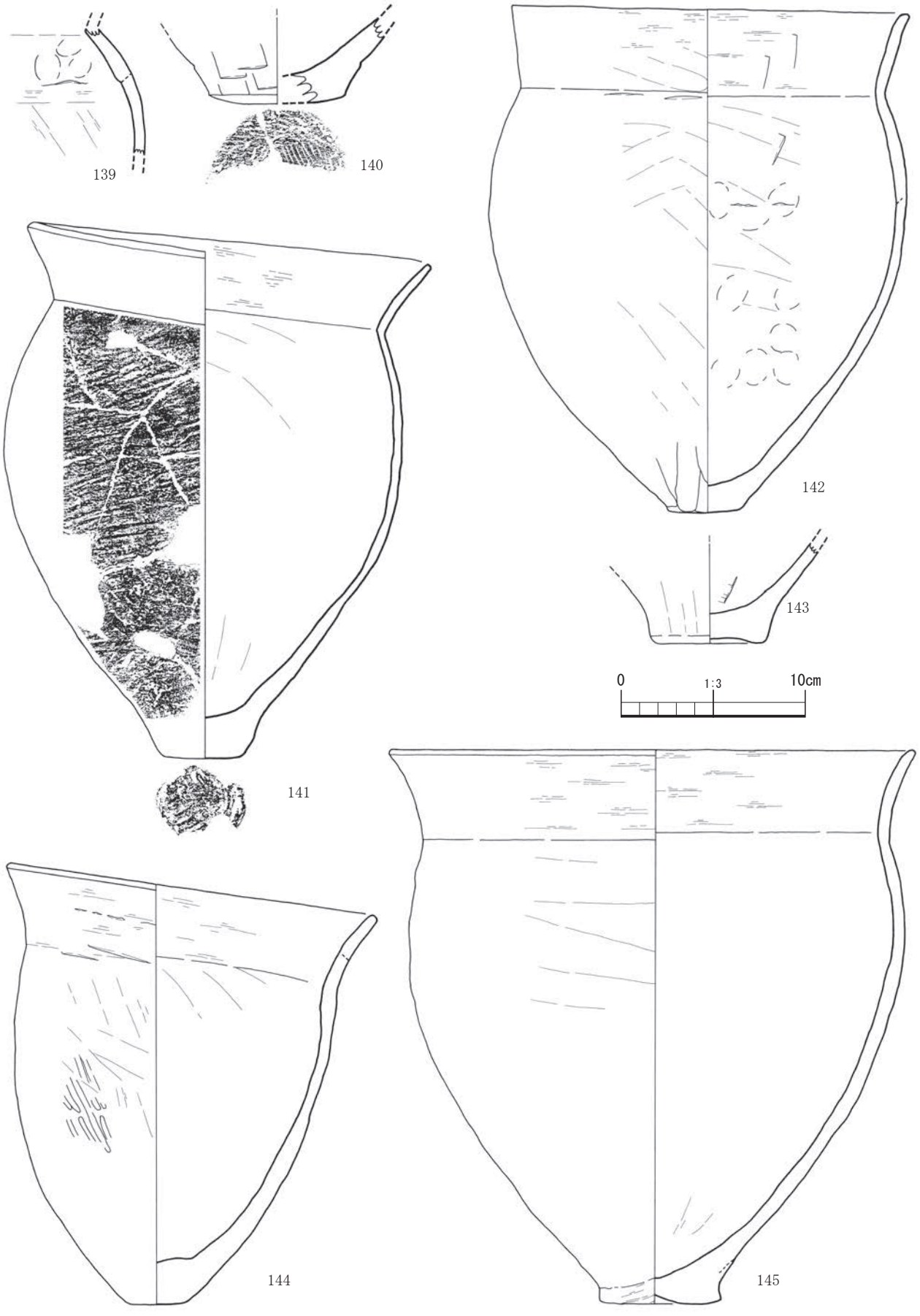


SE14土層

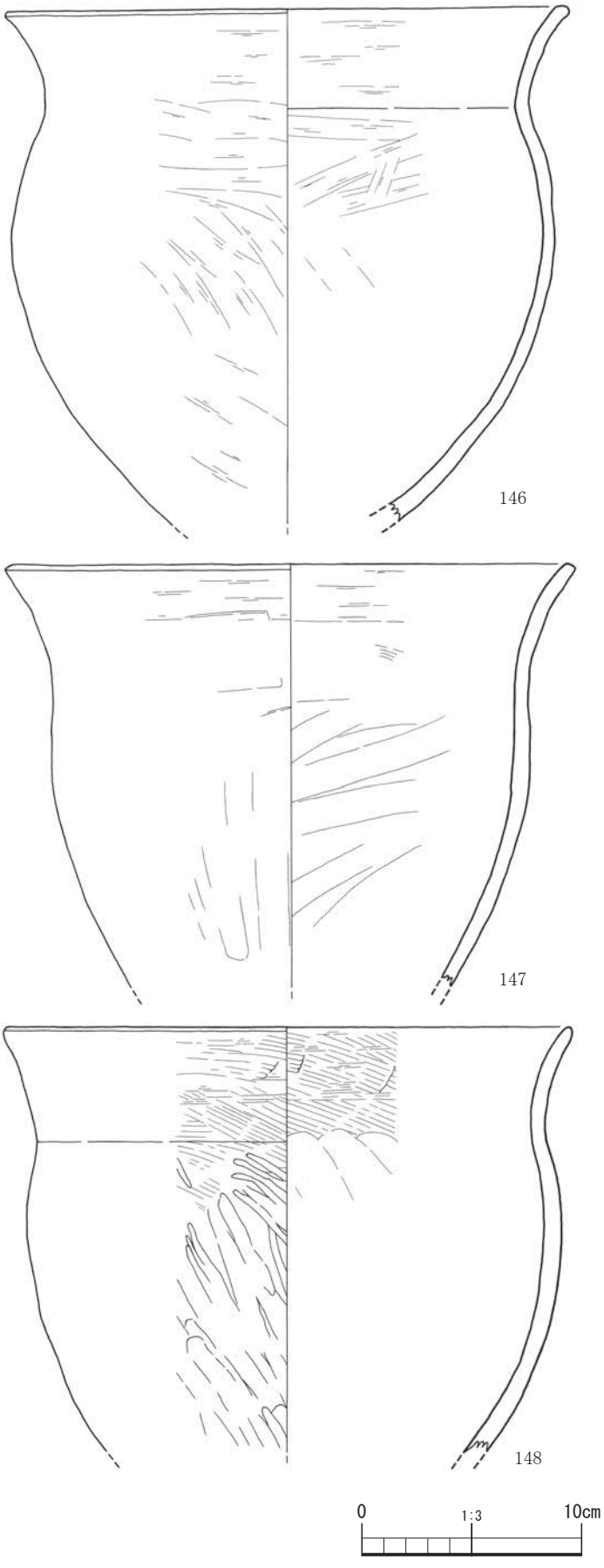
1　黒(10YR2/1)。粘性、しまりあり。シルト。θ2cmの褐色ロームブロックを含む。後世の柱穴埋土。
2　黒褐(10YR2/2)。粘性、しまりあり。シルト。θ3cmの褐色ロームブロックを含む。
3　黒(10YR2/1)。粘性あり、しまり強い。シルト。θ1cmの褐色ロームブロックを含む。
4　黒褐(10YR2/2)。粘性あり、しまり弱い。シルト。θ1cmの褐色ロームブロックを含む。
5　黒褐(10YR2/2)。粘性、しまりあり。砂質シルト。θ1cmの褐色ロームブロックを含む。
6　5に類似するが、炭化物、焼土片、遺物を多く含む。
7　黒褐(10YR2/2)。粘性、しまりあり。シルト。θ3cmの褐色ローム、黒色土ブロックを含む。
8　黒褐(10YR2/2)。粘性、しまりあり。シルト。θ5cmの褐色ローム。Kr-Kbブロックを含み、ぼそぼそしている。
9　黒褐(10YR2/3)。粘性あり、しまり強い。砂質シルト。θ1cmの褐色ロームブロックを含む。ざらざらし、硬い質感。
10　8に類似するが、しまりが弱い。
11　黒褐(10YR2/2)。粘性、しまりあり。シルト。θ0.5cmの褐色ロームブロック、橙色粒子を含み、炭化物を微量含む。
12　黒褐(10YR2/3)。粘性あり、しまり強い。砂質シルト。θ0.5cm褐色ローム、黒色土ブロックを含む。
13　黒褐(10YR2/2)。粘性あり、しまり強い。シルト。θ1cmの褐色ロームブロックを含む。
14　黒褐(10YR2/3)。粘性、しまりあり。砂質シルト。θ3cmの褐色ロームブロックを多く含む。

第35図　溝状遺構14実測図(S=1/150)**、土層断面図**(S=1/40)

第36図　溝状遺構14（中層）遺物出土状況実測図（S=1/30）

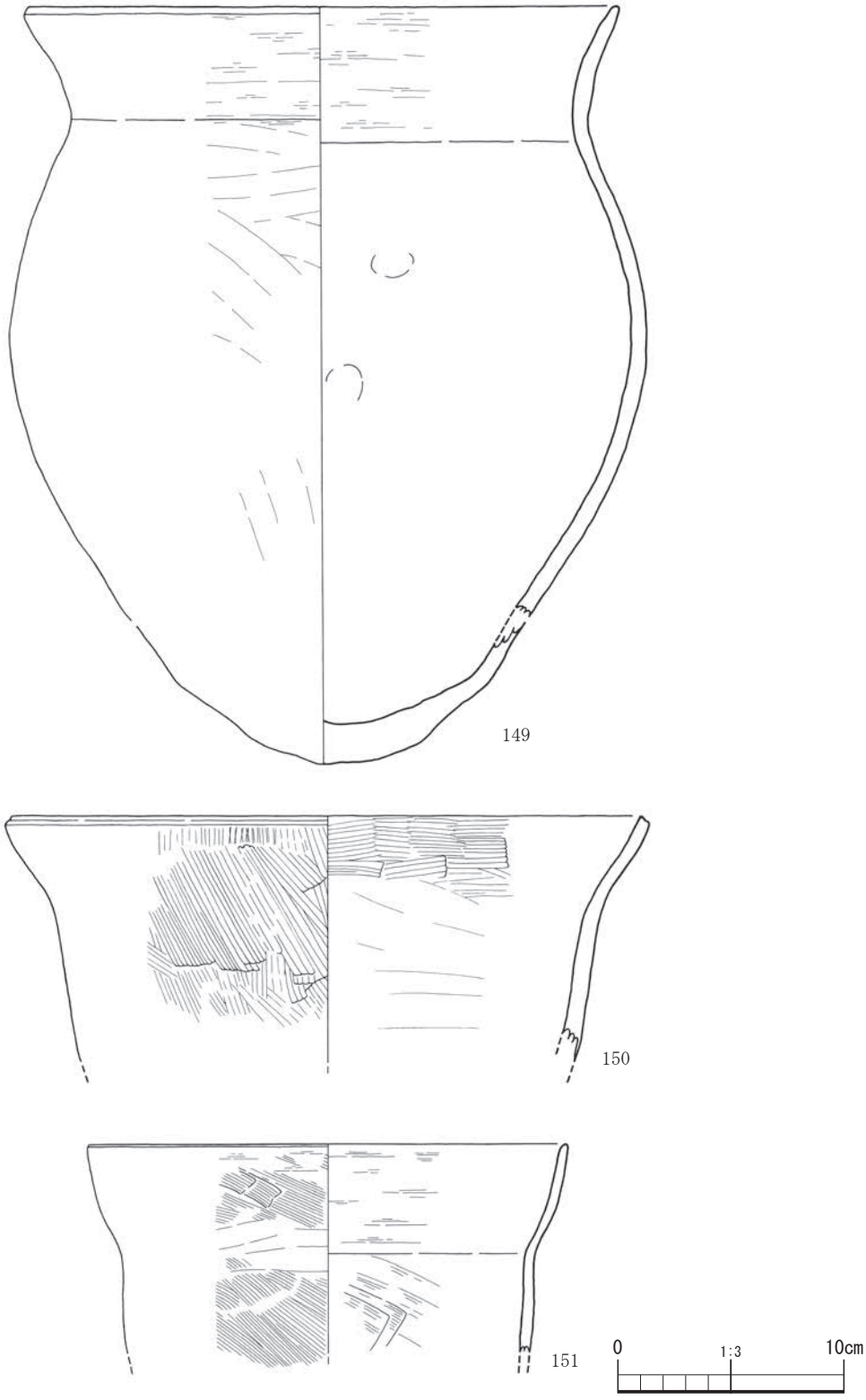


第 37 図　溝状遺構 14 出土遺物実測図① (S=1/3)



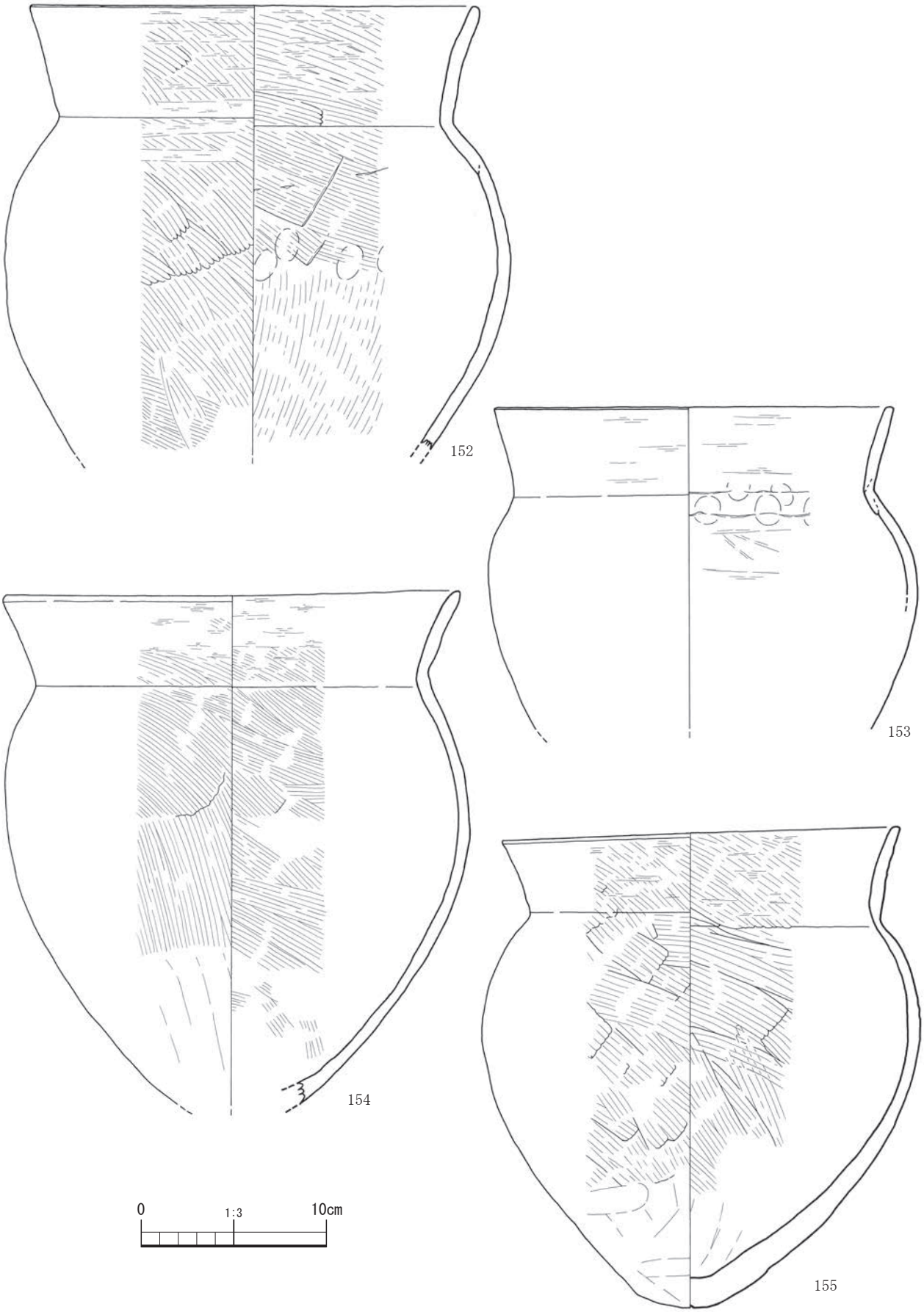
第 38 図　溝状遺構 14 出土遺物実測図② (S=1/3)

る甕である。口縁部の破片しか接合しておらず全体形は不明である。152 から 159 は、在来系甕のうち砲弾形で底部が丸底を呈する一群である。口縁部の屈曲は明瞭で、153 以外はハケメ主体の器面調整がみられる。160 から 165 は球胴甕である。162 は胴部の器壁が薄く、外面の口縁部付け根付近に横位タタキ痕が認められる。内面ヘラケズリは確認できないが、布留式の製作技法に影響を受けたものとみられる。166 は口縁部が内傾する形態の甕である。167 はやや粗雑な調整の甕である。頸部外面に強い板状工具の当たりがあり、部分的にケズリ調の効果をもたらしている。168 から 169 は伝統的近畿第Ⅴ様式系の球胴甕の底部である。突出する平底で外底面はわずかに上げ底を呈する。170 から 174 は球胴甕である。170 は形態的に布留式系甕に類似するが、在来の土器製作技法で製作された模倣土器である。171 は口縁部が外湾する球胴甕で、肩部外面に横位タタキの痕跡が認められる。172 は球胴甕である。形態的に布留式系甕に類似するが、在来の土器製作技法で製作された模倣土器である。173 は布留式系の模倣甕である。内湾しながら立ち上がり口縁端部がわずかに内側へ拡張する。174 は大型の球胴甕である。部分的に頸部のヨコナデが部分的に強く押し当てられ、凹線状に凹む箇所がある。175 から 178 は胎土が異質な布留式系甕であり、搬入土器の可能性がある一群である。176 は全体的に器壁が薄手で、胴部内面ヘラケズリが認められる。177 は胴部内面ヘラケズリ後にハケメ調整を施すものである。178 は胴部片で、内外面ともナデ調整だが、胎土が 176 に類似する。

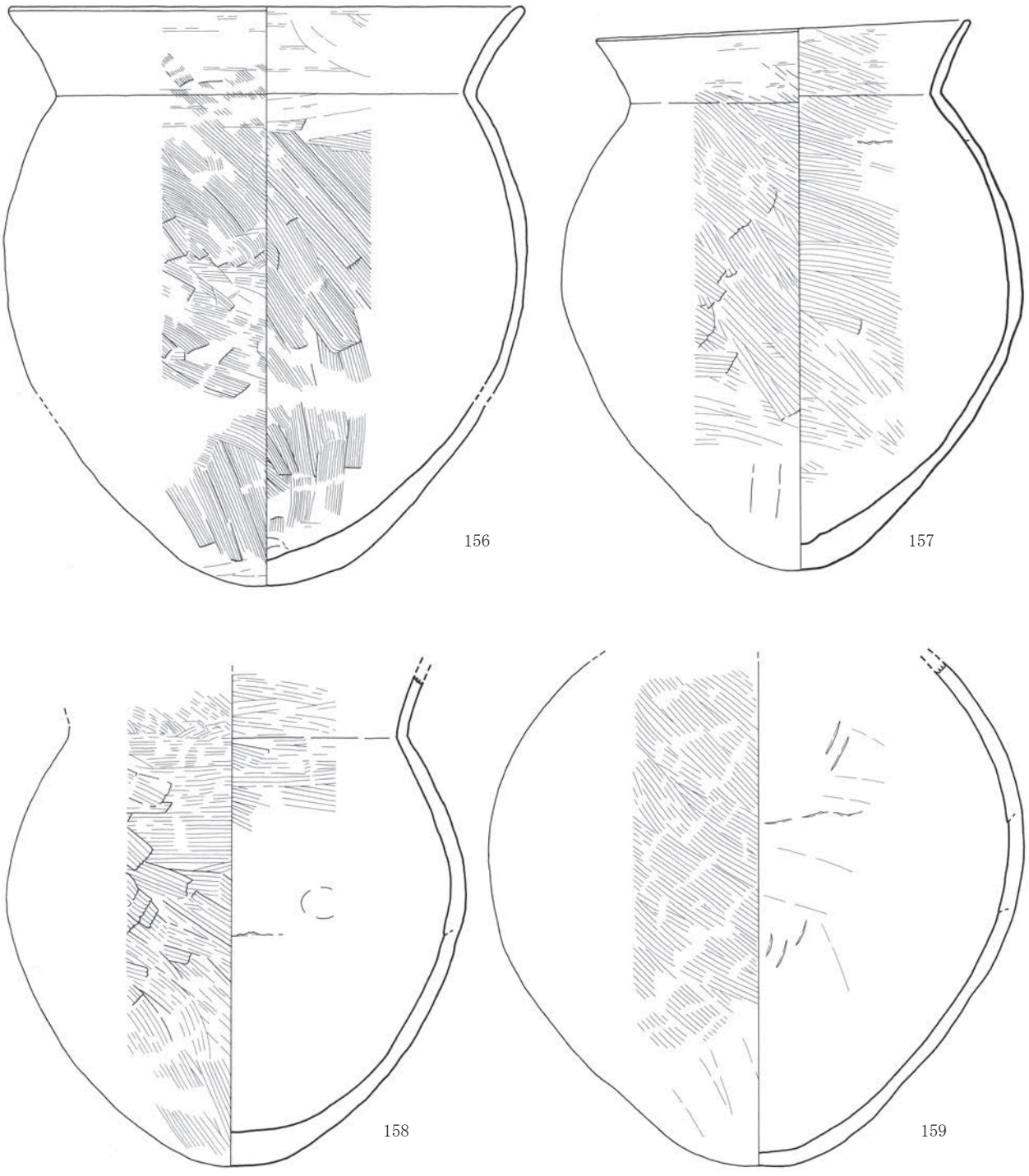


第 39 図　溝状遺構 14 出土遺物実測図③ (S=1/3)

179 から 190 は広口壺である。179 は胴部下半に図上左上がり、胴部上半に図上右上がりのタタキ痕を有する。胴部最大径付近に外→内への打ち欠きが認められる。181 は頸部外面に粘土紐を貼り付けるタイプの広口壺である。183 と 184 は大型壺の突出する底部片である。伝統的近畿第Ⅴ様式の技法的影響が認められる。185 から 188 は球胴の広口壺である。185 は頸部の屈曲

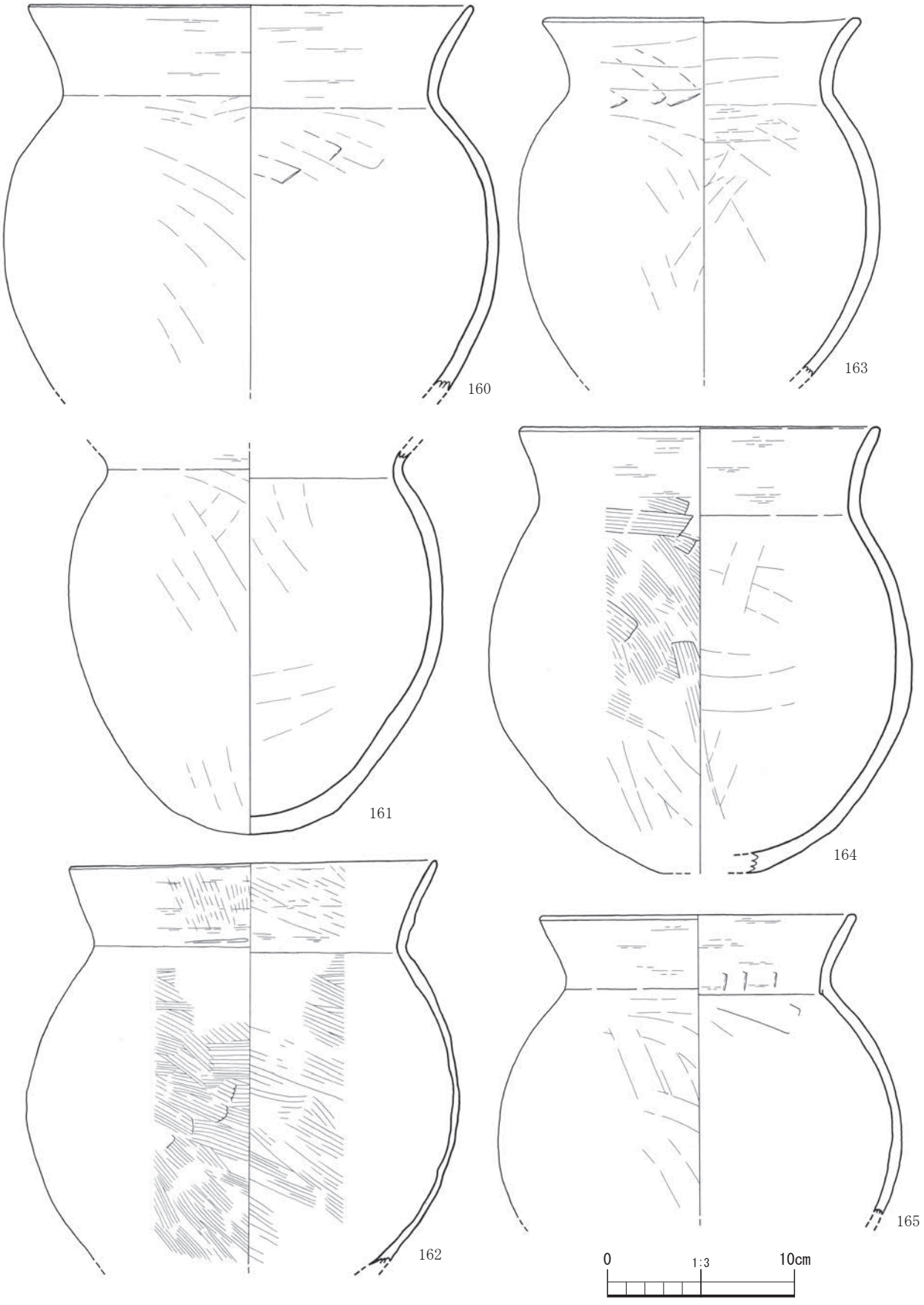


第 40 図　溝状遺構 14 出土遺物実測図④ (S=1/3)

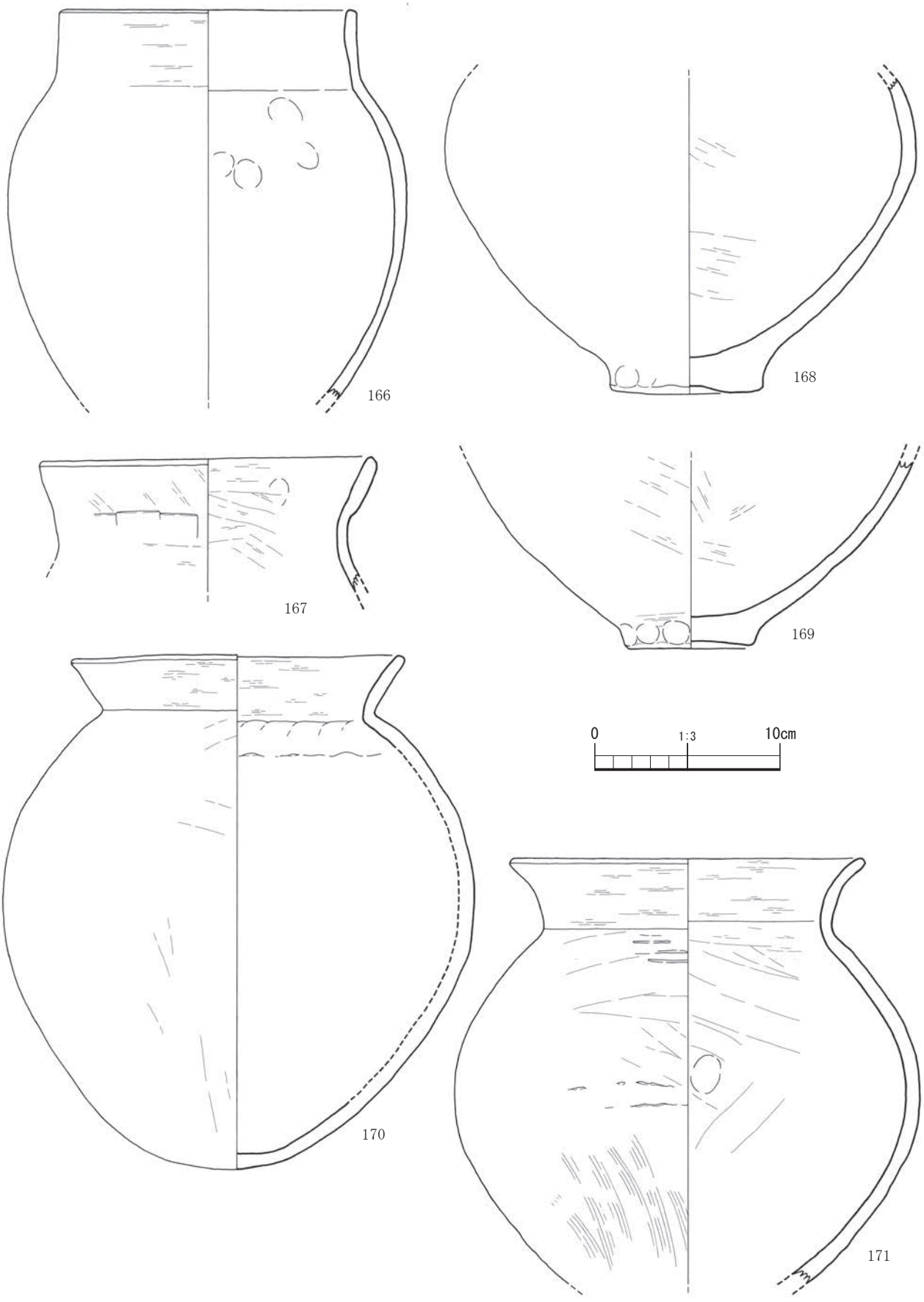


第 41 図　溝状遺構 14 出土遺物実測図⑤ (S=1/3)

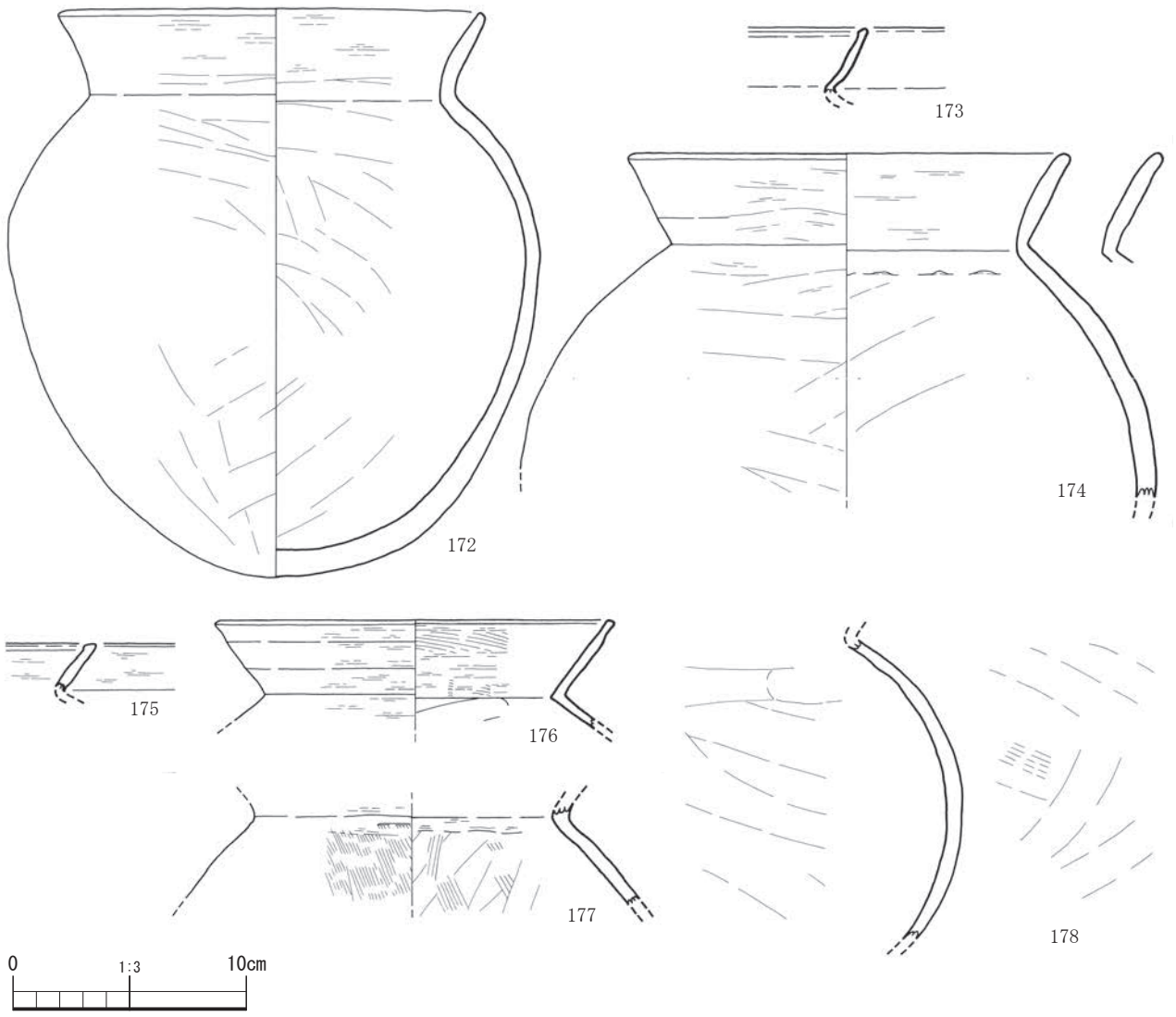
が丸みを帯びる形態を呈する。189 から 190 は長胴の広口壺である。口縁部は直線的に外傾し、最大径を胴部中位にもつ丸底を呈する。189 には外→内への打ち欠きが認められる。191 は長胴の二重口縁壺である。外面に粗い暗文状のミガキが認められる。192 から 193 は偏球状胴部をもつ二重口縁壺である。口縁部形態は類似するが、頸部の接合方法や二重口縁の屈曲部の成形技法など、細部は異なっている。194 は偏球状胴部の壺である。胴部に外→内への打ち欠きが認められる。195 は下膨れ胴部をもつ二重口縁壺である。199 は球胴の直口壺である。口縁部がやや



第 42 図　溝状遺構 14 出土遺物実測図⑥ (S=1/3)



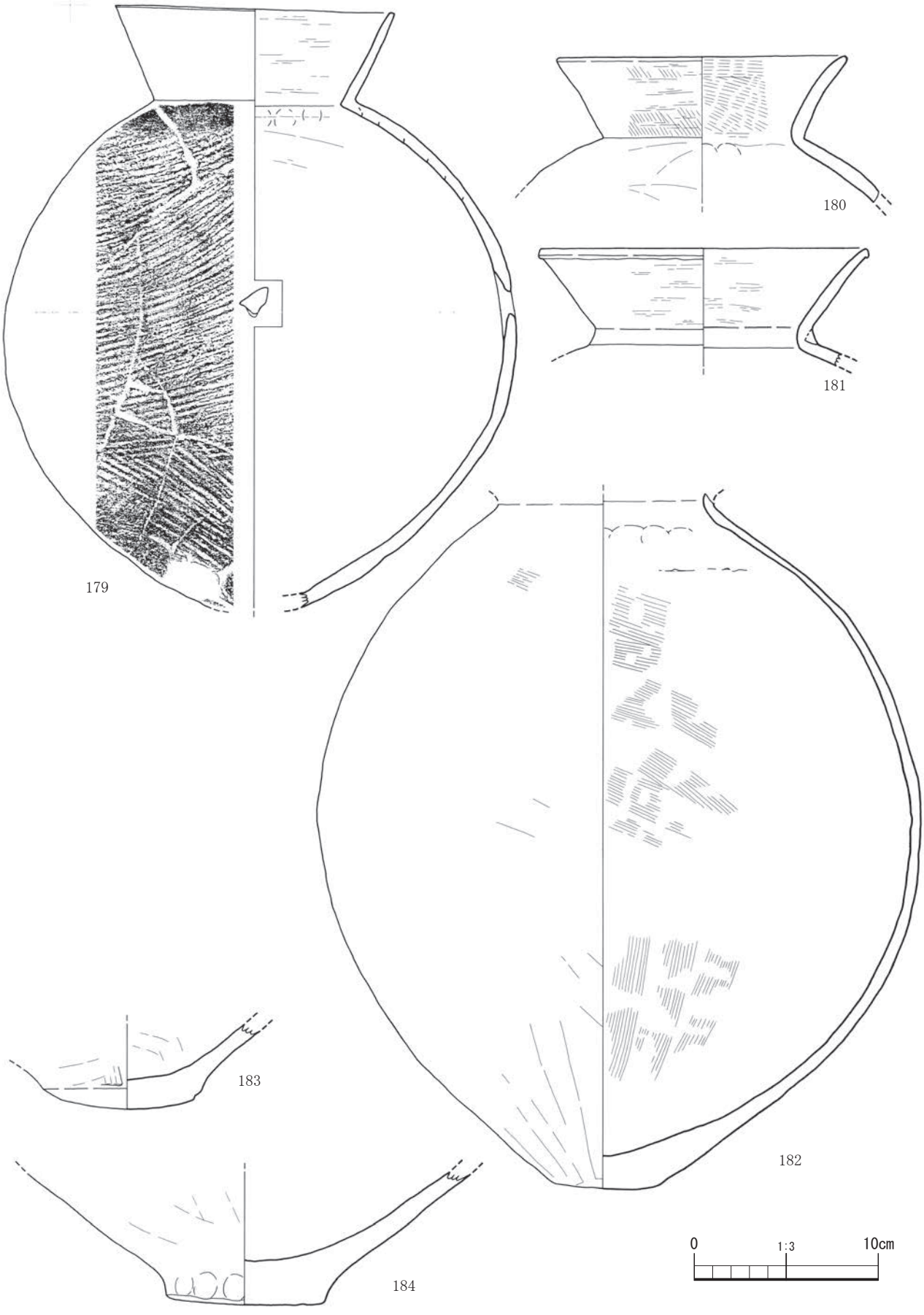
第 43 図　溝状遺構 14 出土遺物実測図⑦ (S=1/3)



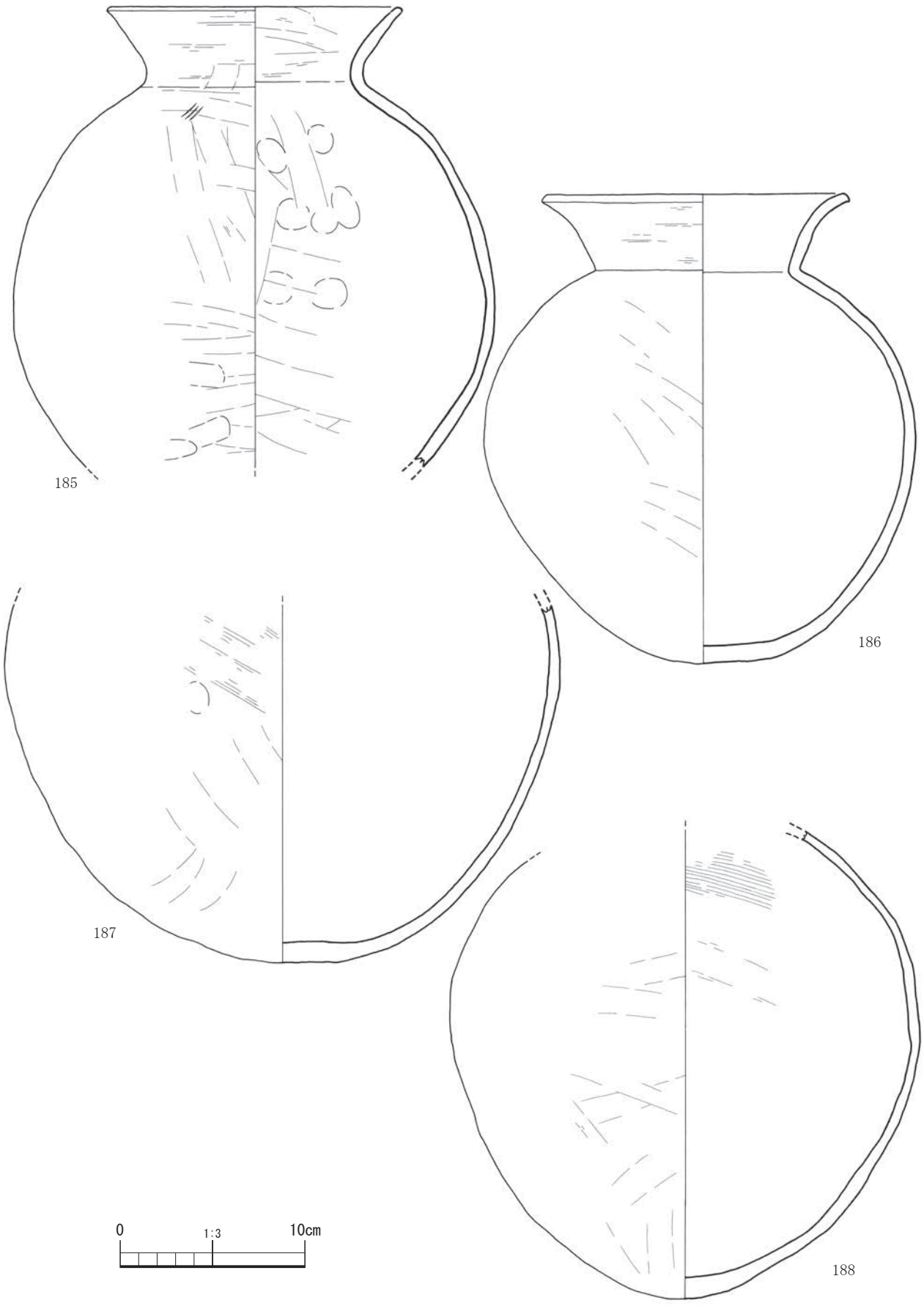
第 44 図　溝状遺構 14 出土遺物実測図⑧ (S=1/3)

外湾し、肩部内面に粘土紐接合痕が認められる。200 は球胴の広口壺である。外面はハケメ調整を主体とし、内面は胴部上半まで図上左上がりのヘラケズリを施す。胎土と色調が異質であり、搬入土器の可能性がある。肩部外面に線刻が認められる。203 から 207 は鉢である。203 は底部付近に指による強い押圧痕が認められる。208 から 221、224 から 226 は小型壺である。いずれも調整はナデ主体だが、219 は外面にミガキ痕が認められる。210 は薄手で胎土も異質なことから搬入土器の可能性がある。また、214 も胎土が異質である。222 から 223 は中型直口壺である。内面に粘土紐接合痕を残す。224 から 225 は二重口縁をもつ小型壺である。器表面にミガキ調整を施す精製土器である。226 は脚台をもつ小型の壺である。やや粗雑な作りであり、脚台接合部にユビオサエ痕を多く残す。

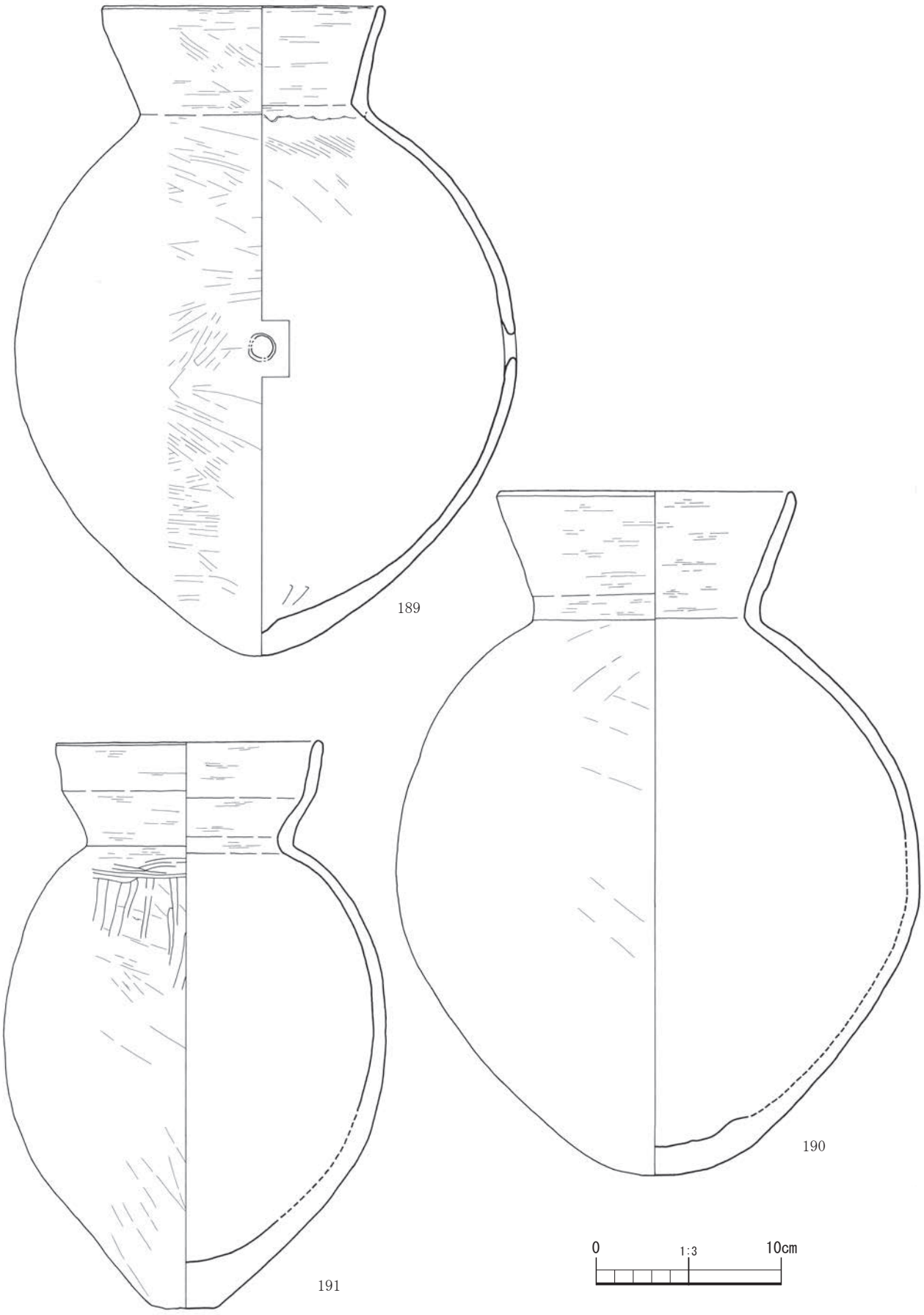
228 から 265 は高坏である。228 から 230 は在来系高坏である。褐色小礫を含む地元の胎土を用いており、器面にはハケメまたはナデ調整が施されている。坏部は浅い碗形で、外面の粘土接合部に緩い稜線をのこすものと、有段になるものがある。231 から 242 は布留式系高坏である。231 は布留式系高坏である。器面には横位の細筋ミガキが施され、胎土も異質なことから搬



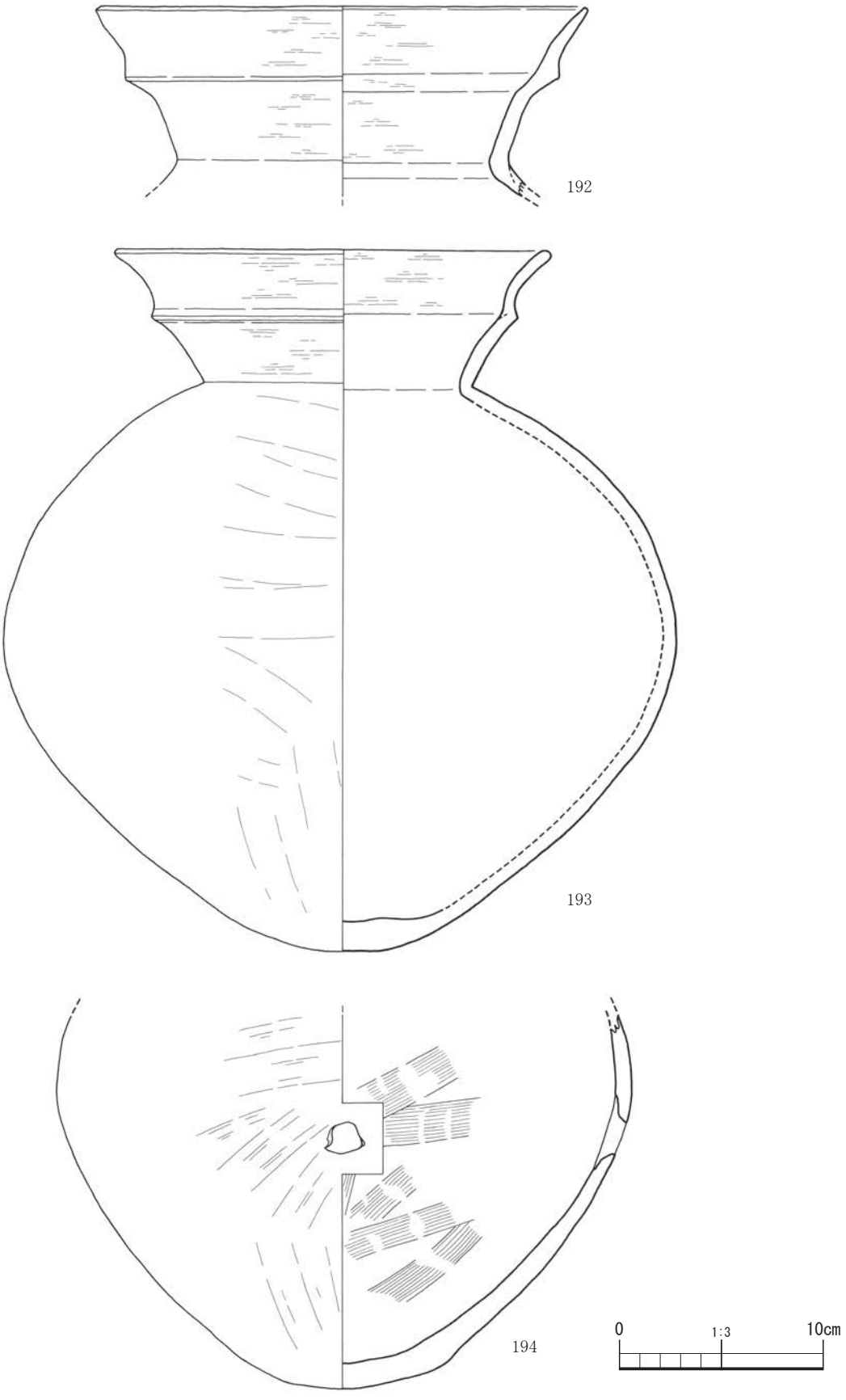
第 45 図　溝状遺構 14 出土遺物実測図⑨ (S=1/3)



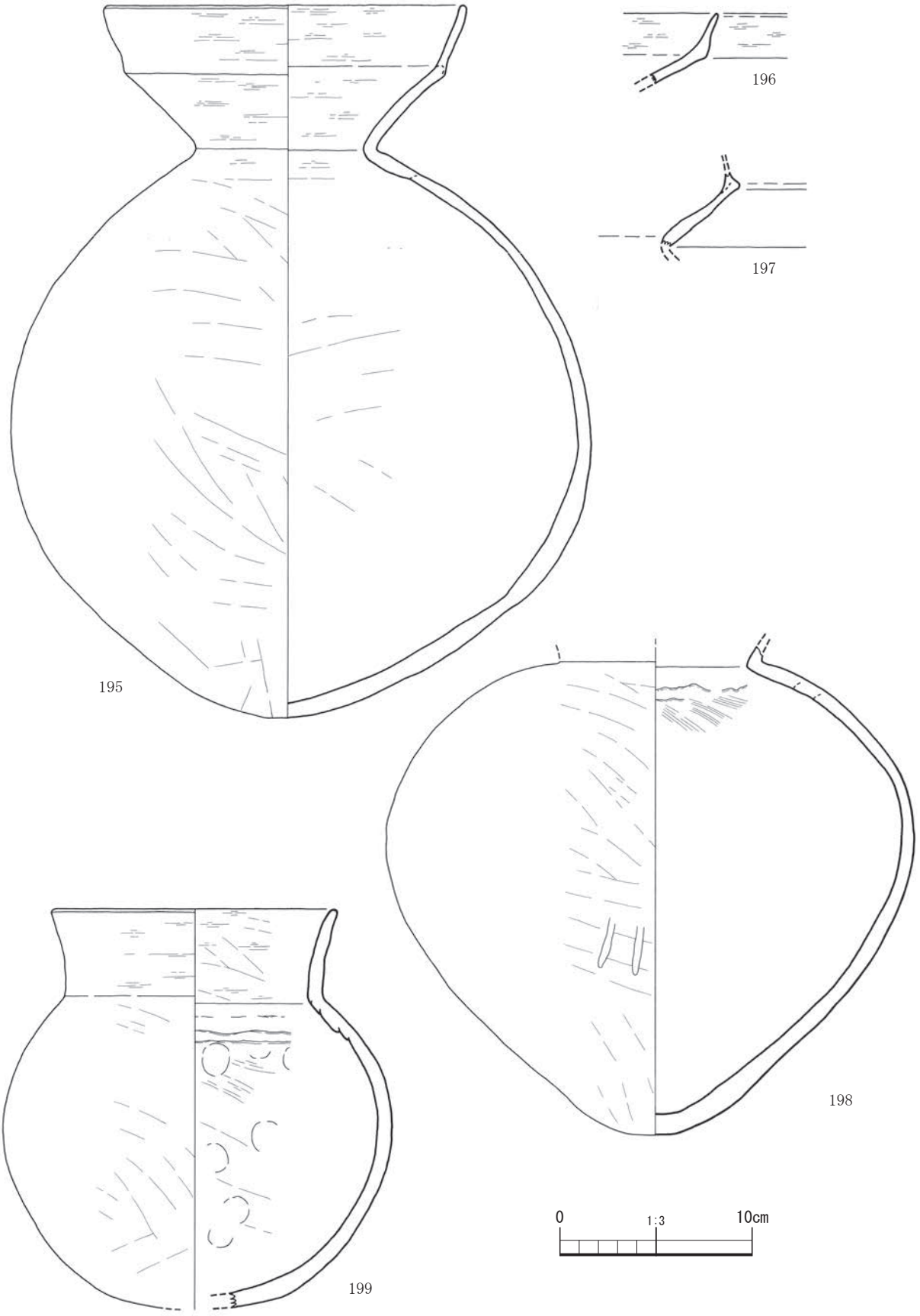
第 46 図　溝状遺構 14 出土遺物実測図⑩ (S=1/3)



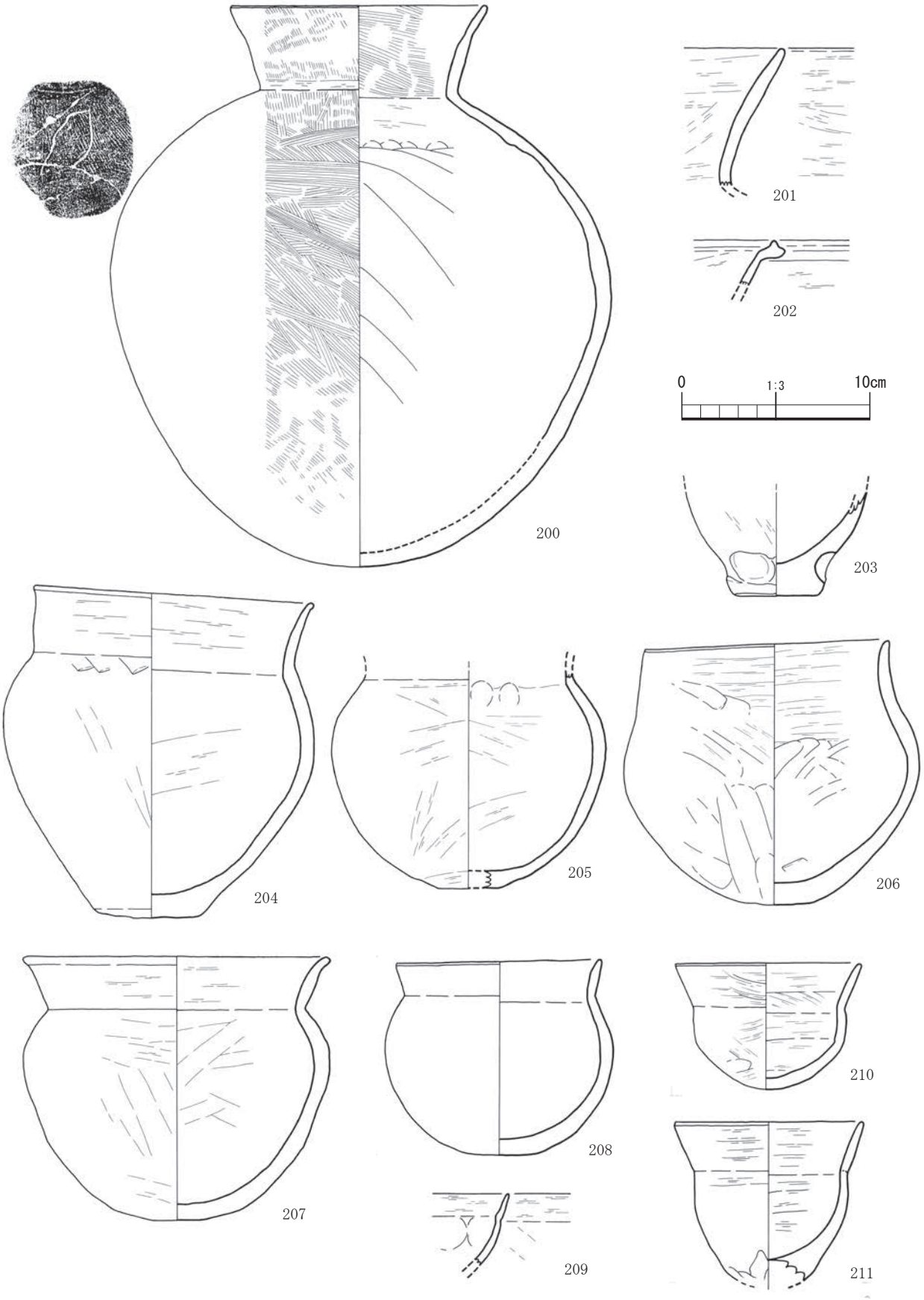
第 47 図　溝状遺構 14 出土遺物実測図⑪ (S=1/3)



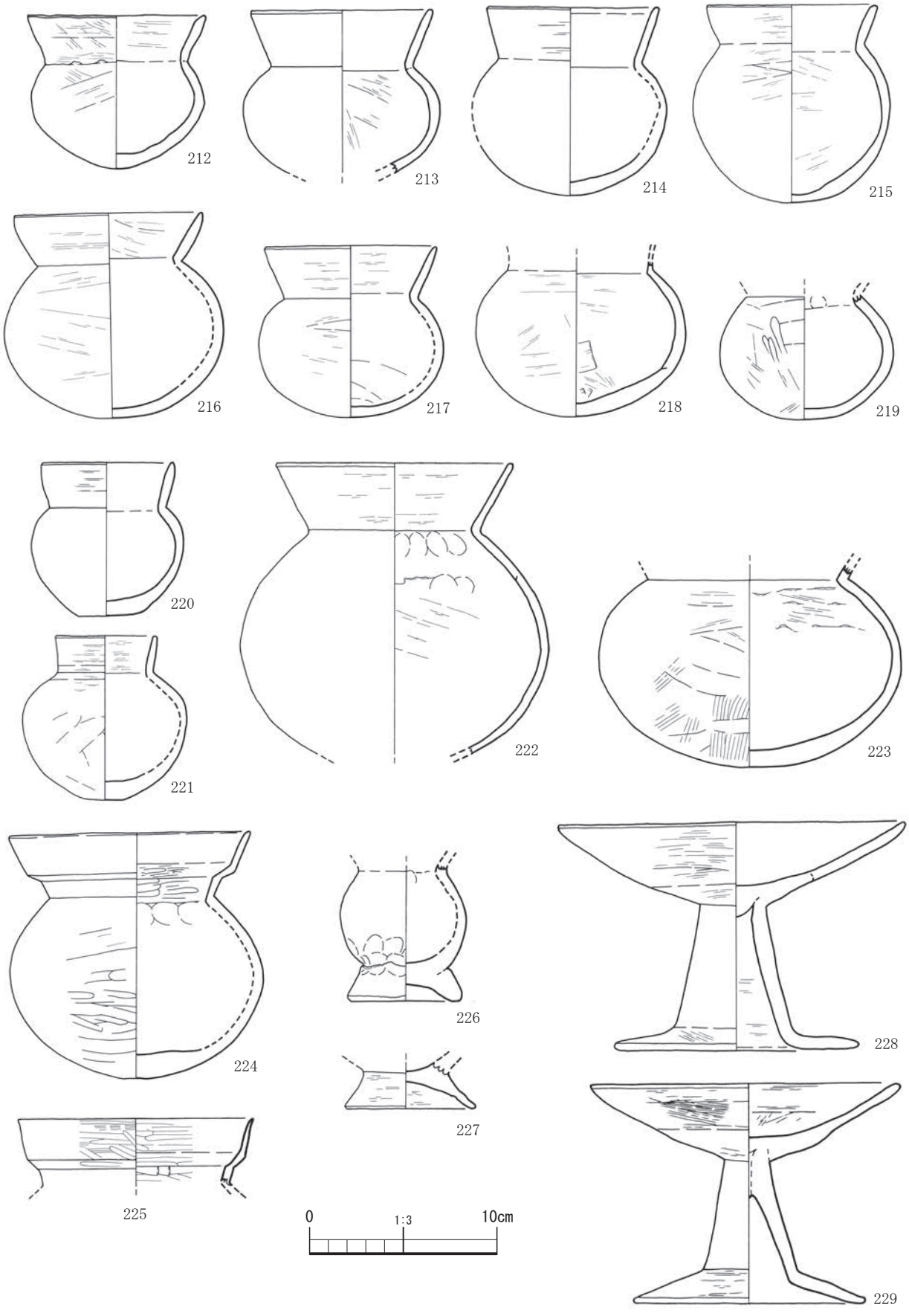
第 48 図　溝状遺構 14 出土遺物実測図⑫ (S=1/3)



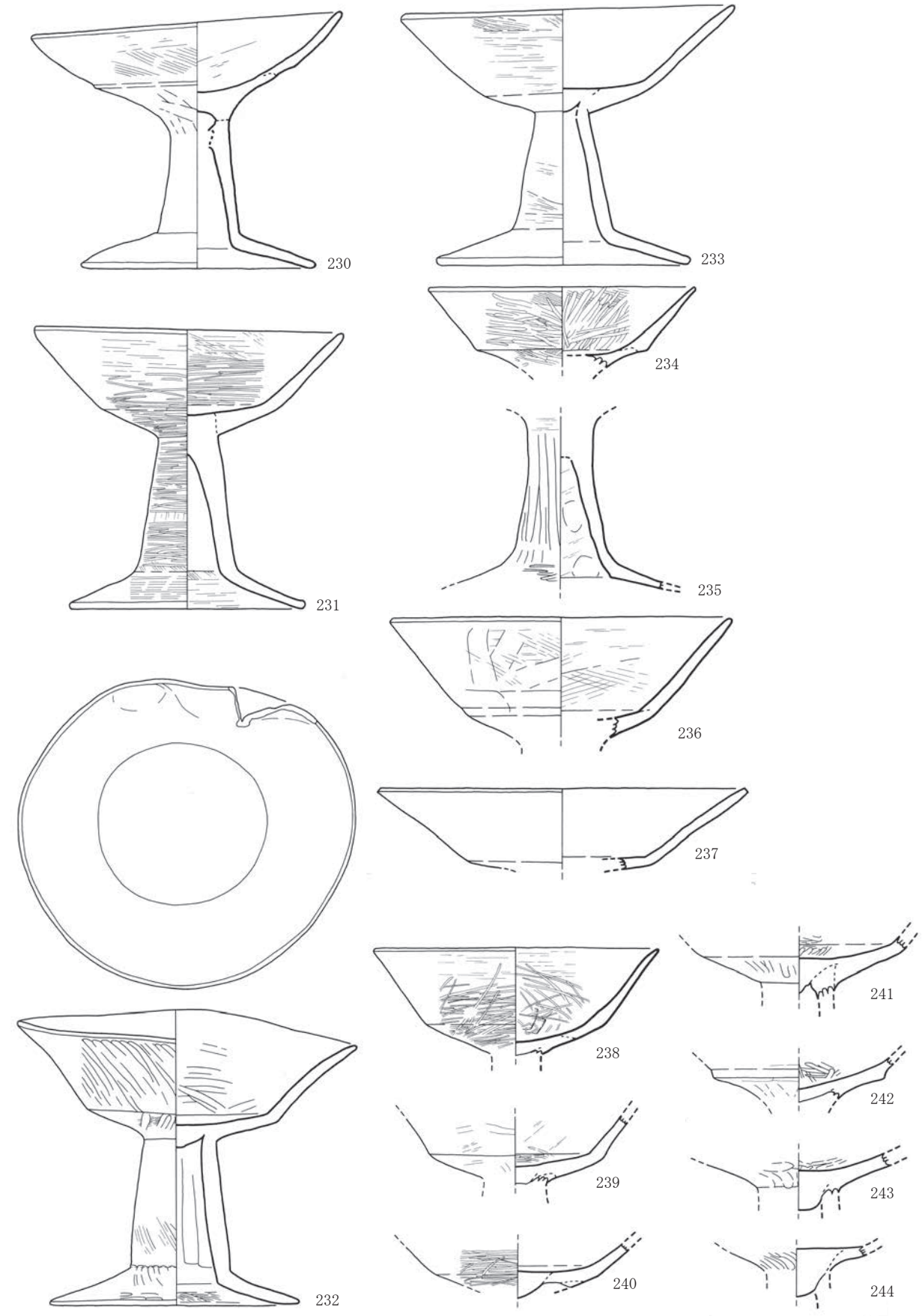
第 49 図　溝状遺構 14 出土遺物実測図⑬ (S=1/3)



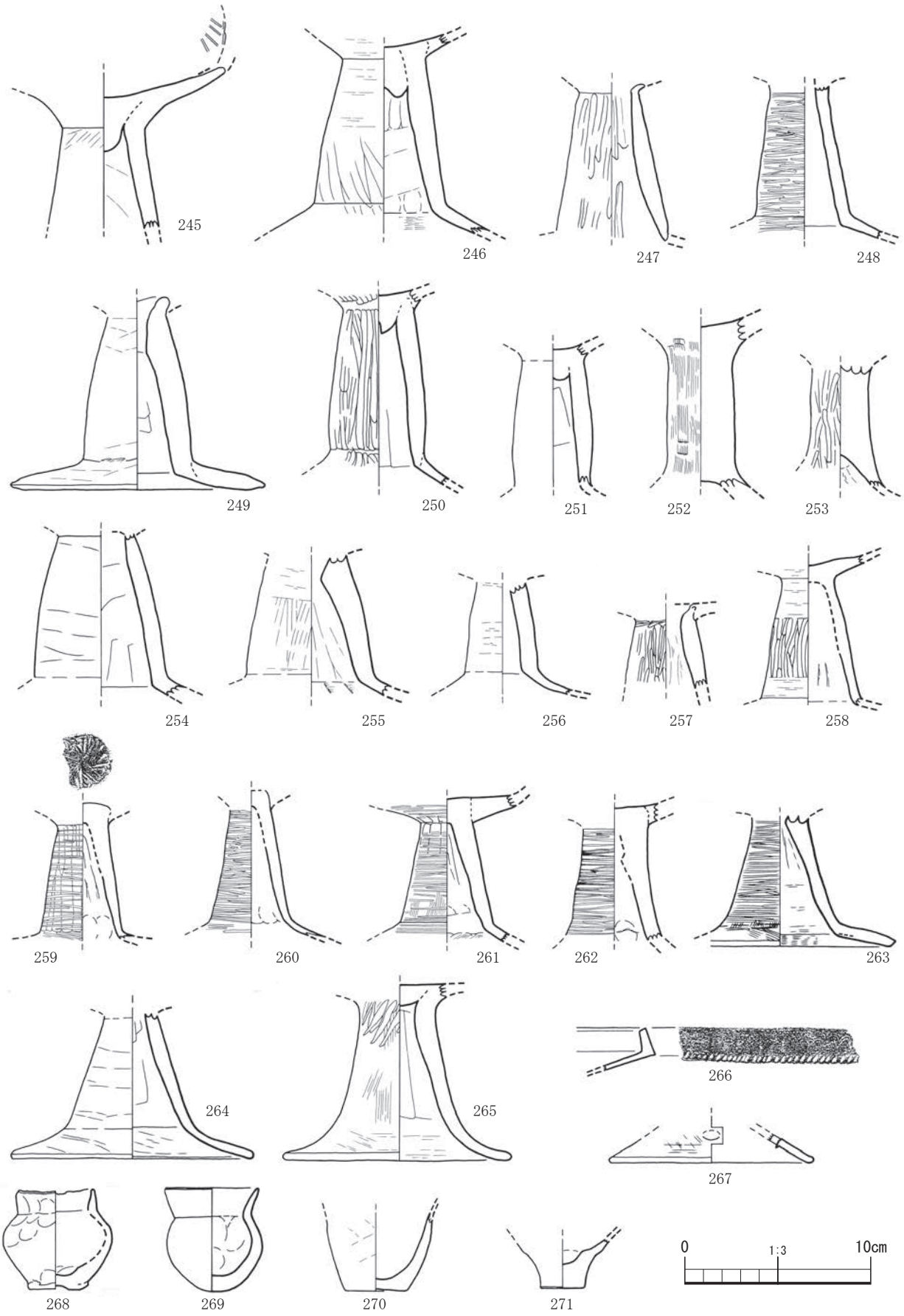
第 50 図　溝状遺構 14 出土遺物実測図⑭ (S=1/3)



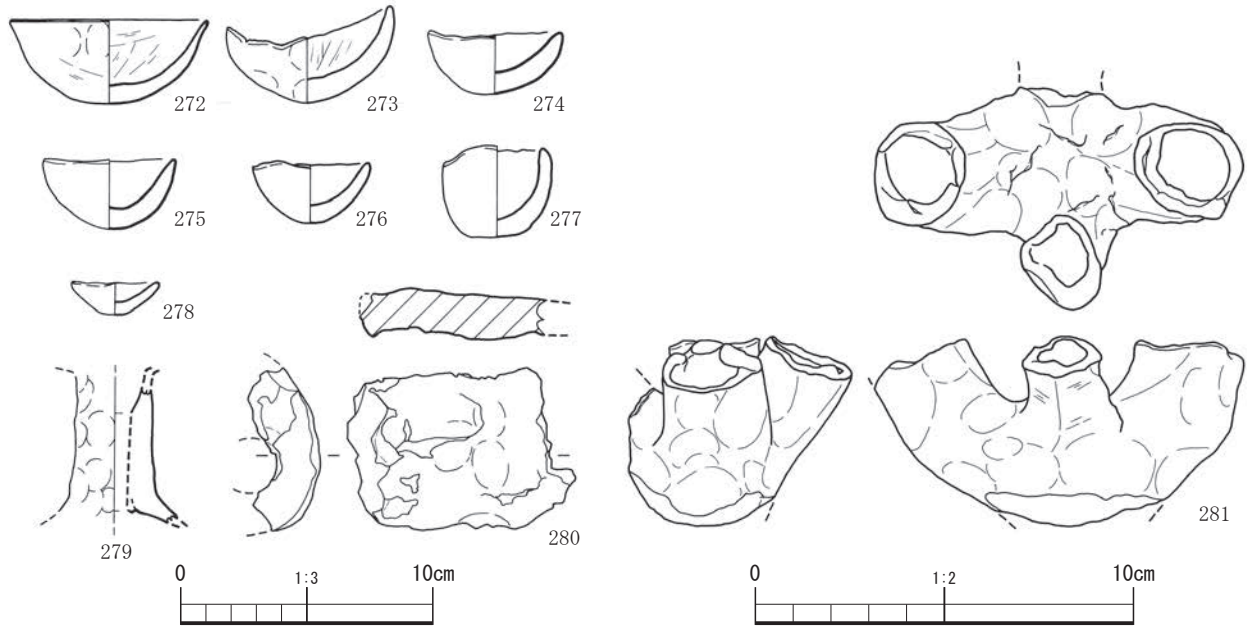
第 51 図　溝状遺構 14 出土遺物実測図⑮ (S=1/3)



第 52 図　溝状遺構 14 出土遺物実測図⑯ (S=1/3)



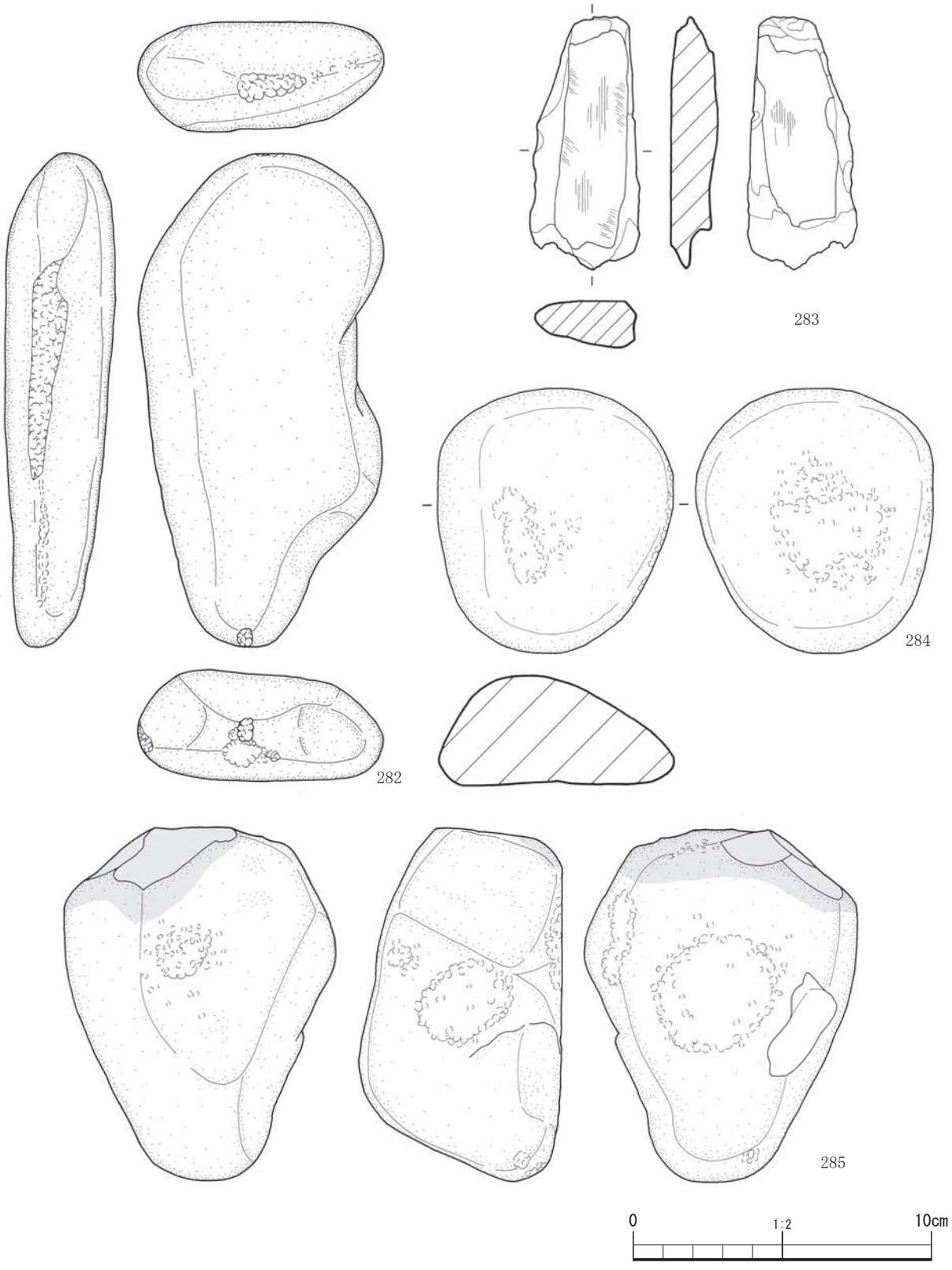
第 53 図　溝状遺構 14 出土遺物実測図⑰ (S=1/3)



第 54 図　溝状遺構 14 出土遺物実測図⑱（S=1/3・S=1/2）

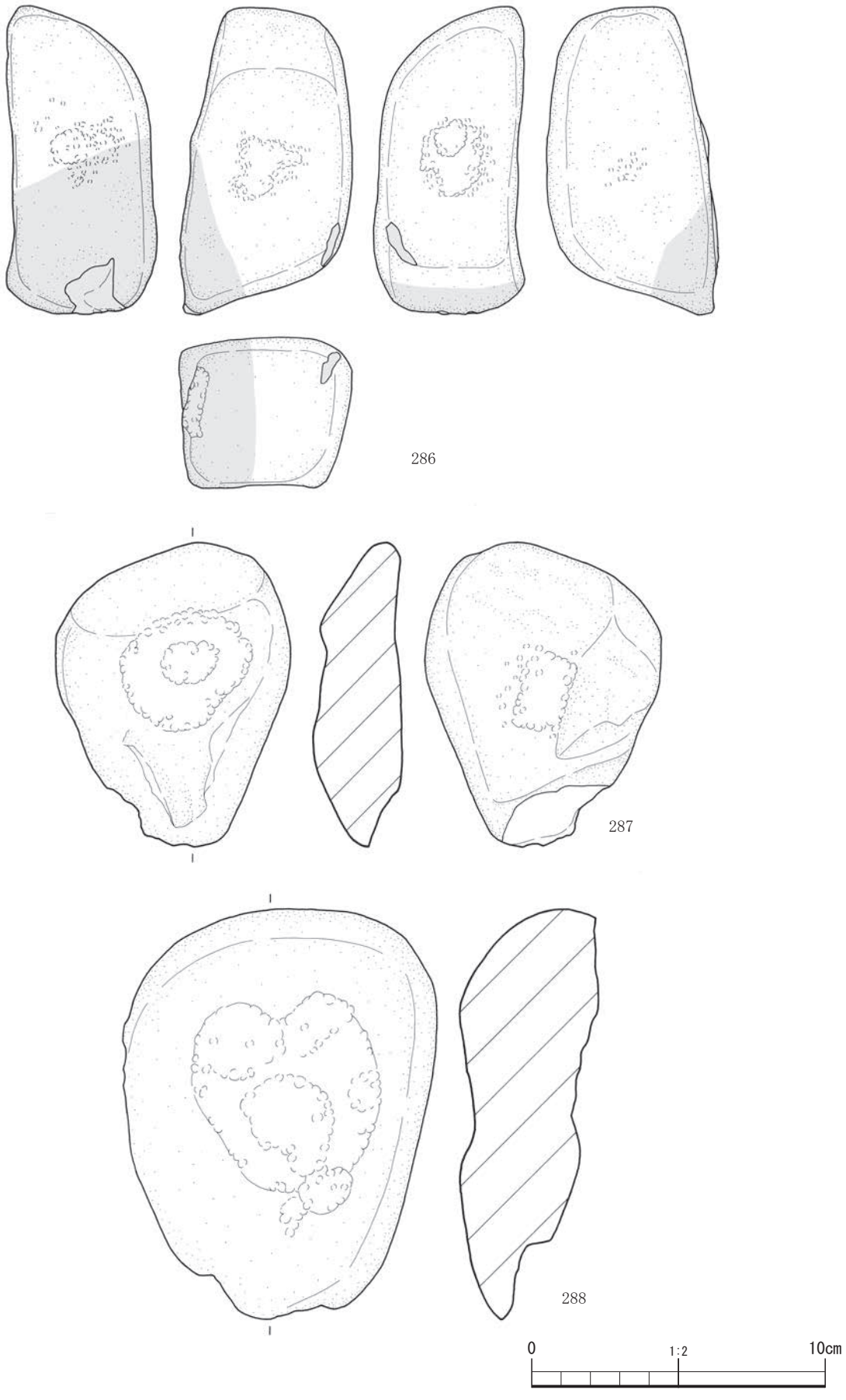
入土器の可能性がある。232 は坏部がやや深いタイプの高坏である。口縁部がわずかに歪んでいるが、ユビオサエ痕がみられることから意図的に成形した可能性がある。233 は胎土の特徴が 228 から 230 の在来系高坏と類似する布留式系高坏である。234 と 235 は搬入土器とみられる高坏である。接点がないものの、胎土や形態から同一個体と判断される。237 は浅く口径が広い坏部を有する布留式系高坏である。238 は坏部が小ぶりな布留式系高坏で、細筋ミガキが認められる。242 は高坏の坏部で、口縁部と坏部の屈曲部に明瞭な段を有する。245 から 265 は高坏の脚部片である。245 は口縁部と坏部の接合面に刻み目を施しているのが確認できる。250 は脚台天井部に成形時のものとみられる竹管状の刺突痕が認められる。248 と 259 から 263 は細筋ミガキがみられる脚台部である。これらのうち 259 から 261、263 は胎土が異質で搬入土器の可能性がある。259 は脚台の接合部上面に放射状の刻みを施すＣ系統またはＤ系統の技法である。250 は縦方向の太筋ミガキが施されるが、胎土が異質である。252 と 253 は伝統的近畿第Ⅴ様式系の中実脚台である。266 は二重口縁を呈する器台である。口縁部外面にヘラ描波状文と刻み目が施されている。267 は小型器台の脚裾部とみられる破片である。268 から 278 は手づくね土器である。壺や鉢、碗形の坏、高坏の脚台部が出土している。280 は土製羽口である。強く被熱しており、剥落が激しいもののガラス質の付着が顕著である。胎土には植物繊維を含む。281 は不明土製品である。一部欠損しているが、四つ又に分かれた筒状を呈し、図上の下端部には焼成後に粘土が剥がれた痕跡が認められることから、脚台のようなものが存在した可能性がある。ユビオサエとユビナデで器面調整されており、部分的に成形時の粘土接合痕が認められる。

282、284 は敲石である。砂岩製で、自然礫の端部に敲打痕が認められる。283 は珪化木製の砥石である。磨面の裏側にも部分的に摩痕がみられる。285 から 288 は敲石兼台石である。288 は凝灰岩製だが、その他は砂岩製である。285 と 286 には敲打痕の周囲に被熱による赤変が認められ、鉄器製作にかかる鍛冶具の可能性がある。

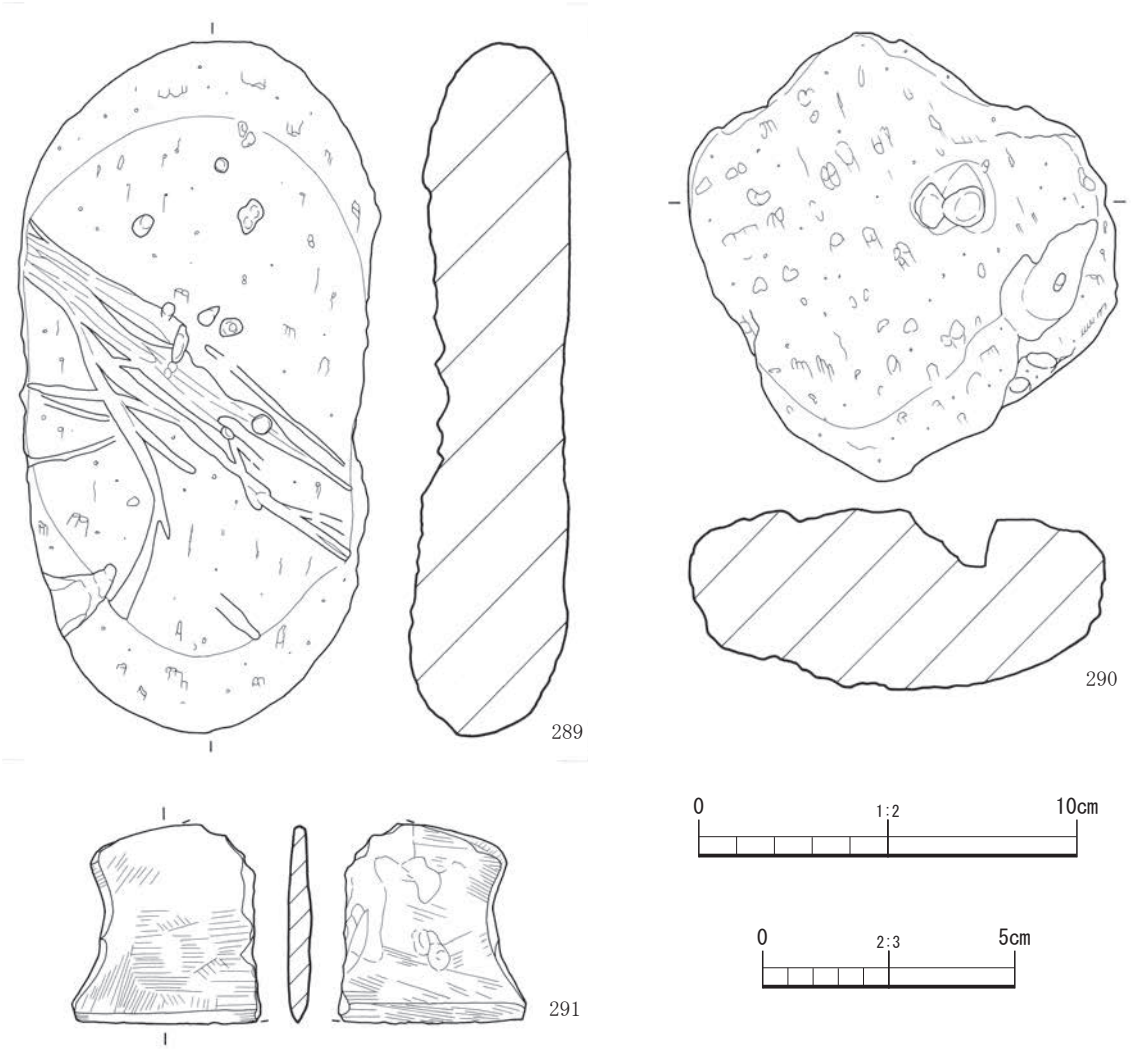


第 55 図　溝状遺構 14 出土遺物実測図⑲ (S=1/2)

289 から 290 は軽石加工品である。239 は扁平に加工した軽石の平坦面に筋状の溝が多数重複して施されている。290 は原石に未貫通の孔が施されている。291 は頁岩製の石包丁である。中央で折れているが、平面形は方形で側面に抉りを有する。



第 56 図　溝状遺構 14 出土遺物実測図⑳ (S=1/2)

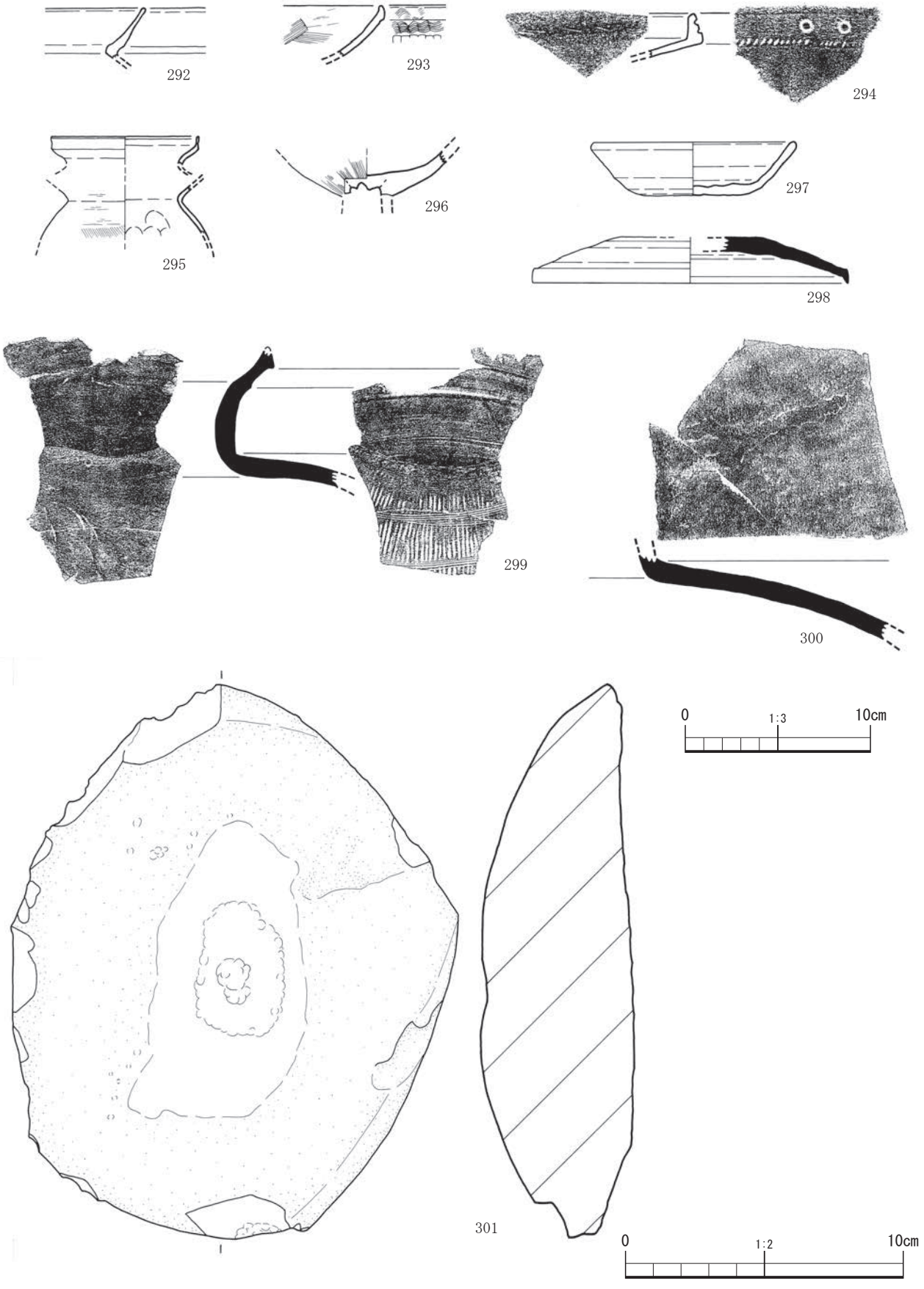


第 57 図　溝状遺構 14 出土遺物実測図㉑（S=1/2・S=2/3）

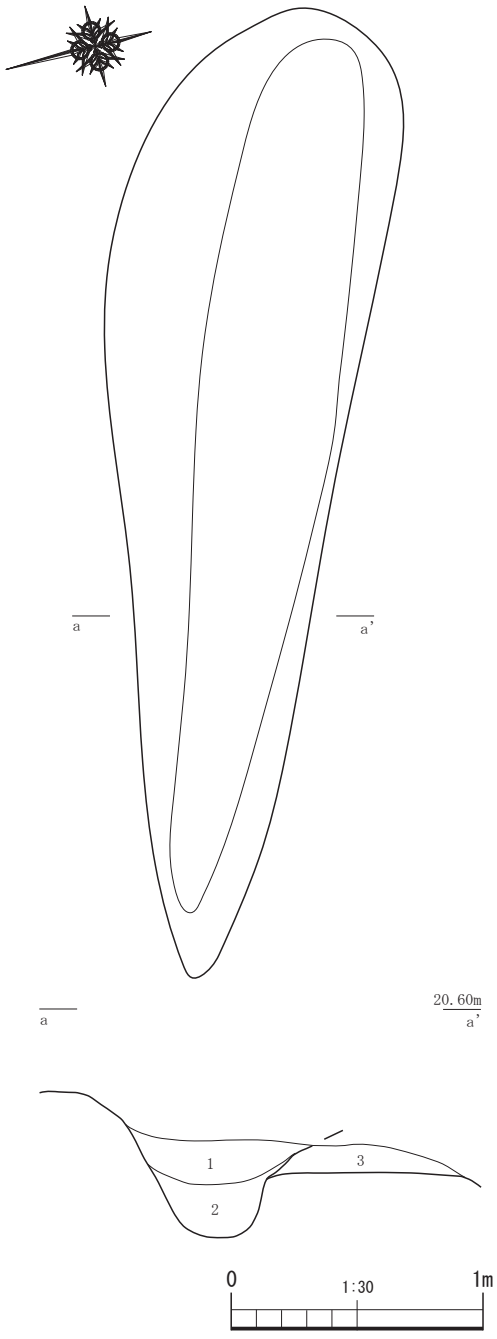
292 から 301 は上層出土遺物である。292 から 294 は古墳時代前期の遺物である。297 から 300 は奈良時代から平安時代の遺物だが、便宜上本項で報告する。297 はヘラ切り底の土師器坏である。298 から 300 は須恵器である。298 は坏蓋で、299 と 300 は甕である。なお 300 は、同一個体と考えられる破片が確認調査を含めて一定量出土している。301 は砂岩製の台石である。所属時期は不明だが、鉄器製作に関わる遺物と推測される。

土坑 20（第 59 図）　溝状遺構 14 の掘削途中で検出した。溝状遺構 14 よりも後出するが、埋没中のどの段階で掘り込まれたのかは不明だが、古墳時代中期以降の遺物が含まれていないため、溝状遺構 14 埋没過程の比較的早い段階で掘削された遺構と推測される。なお、遺物は全て小片のため図化に耐えうるものはなかった。

溝状遺構 4（第 32 図・第 60 図）　竪穴建物 1 の南側で検出された。溝状遺構 14 に沿って東西に伸びているが、西側と東側壁面付近は撹乱により消失している。幅 0.5m、深さ 0.2m の断面 U 字を呈する。埋土は黒褐色シルトであり、埋土中から土師器高坏 307 の脚台部が直立した状態

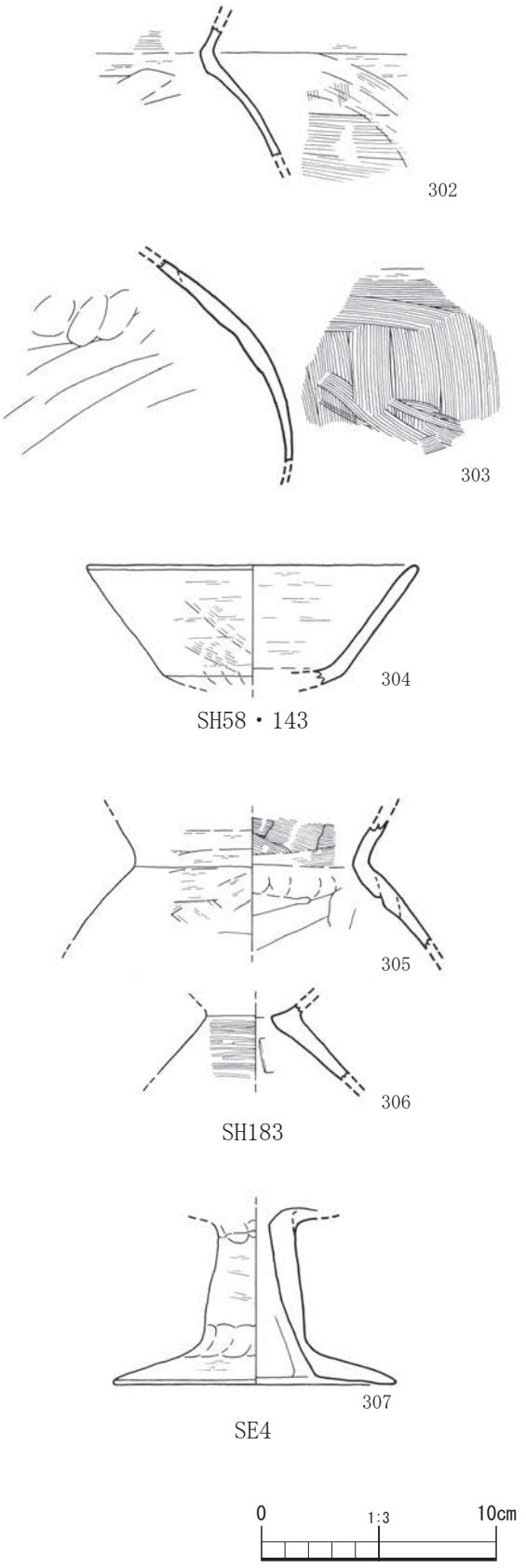


第 58 図　溝状遺構 14 出土遺物実測図㉒（S=1/3・S=1/2）

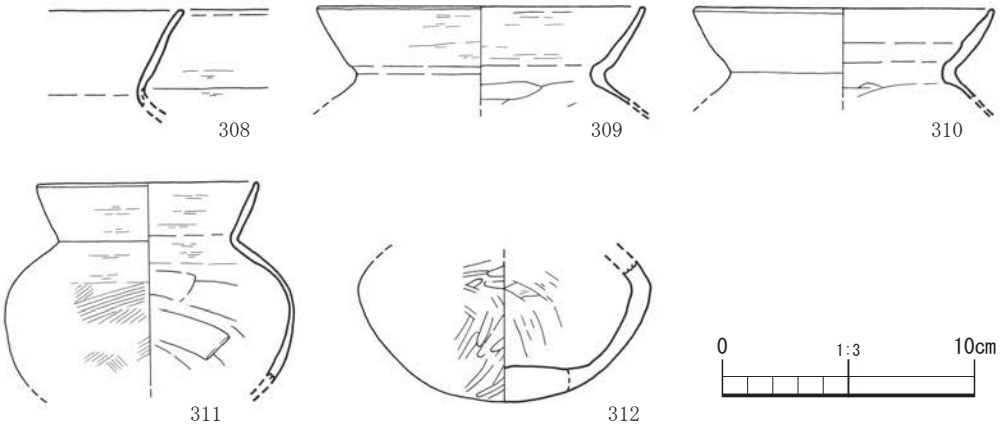


SC20土層
1　黒(10YR2/1)。粘性、しまりあり。シルト。θ1～3cmのK-Ah、褐色ロームブロックを含む。
2　黒褐(10YR2/3)。粘性あり、しまりやや弱い。シルト。θ1～4cmのK-Ahブロックを少量、褐色ロームブロックを多く含む。ぼそぼそとした質感。
3　SE14埋土。

第59図　土坑20実測図・土層断面図(S=1/30)



第 60 図　柱穴、溝状遺構出土遺物実測図 (S=1/3)



第 61 図　古墳時代包含層出土遺物実測図 (S=1/3)

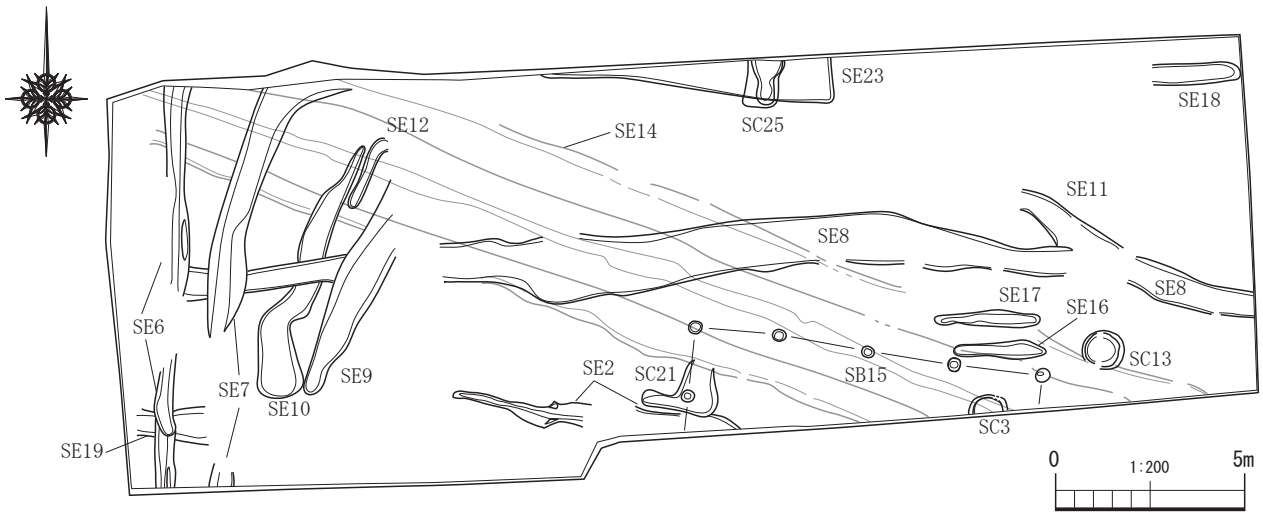
で出土した。

溝状遺構 22（第 32 図）　調査区南壁付近で検出された。柱穴や土坑に切られており、わずかしか残存していない。調査区の南壁面の土層観察から、溝状遺構 2 に切られていることがわかる。遺物は土師器片が少量出土しているが、図化に耐えうるものはない。

柱穴・溝状遺構出土遺物（第 60 図）　302 から 304 は柱穴 58、143 から出土した土師器である。調査段階では 2 基の柱穴が隣接していると判断したが、遺物が柱穴間で接合したため不整形な土坑の可能性もある。302 と 303 は布留式系甕である。302 には内面ヘラケズリがみられる。どちらも胎土に石英粒を含む異質なものであり、外来系の可能性がる。304 は布留式系高坏の坏部である。

305 から 306 は柱穴 183 出土土師器である。306 は布留式系甕である。内面ヘラケズリがみられ、胎土の特徴から外来系とみられる。306 は小型器台の脚部である。

古墳時代包含層出土遺物（第 61 図）　柱穴 58、143 付近の II 層中で、いくつかの土師器が集中して土器溜まり状に出土した。遺構のプランは確認できなかったが、浅い柱穴等の可能性もある。308 から 310 は布留式系甕である。309 と 310 は、胴部内面がヘラケズリで薄く成形されており、胎土の特徴からも外来系の可能性が高い。311 の小型壺も胴部内面ヘラケズリで胎土が異質なことから、外来系とみられる。312 の小型壺は厚みのある器壁で粗いミガキ調整を施す。



第62図　古墳時代後期以降の主要遺構配置図(S=1/200)

第5節　古墳時代後期以降の調査成果

古墳時代後期から近世の遺構として、掘立柱建物1基、溝状遺構13条、土坑4基が検出された。これらのうち、溝状遺構2と19、掘立柱建物15以外は近世の遺構である。

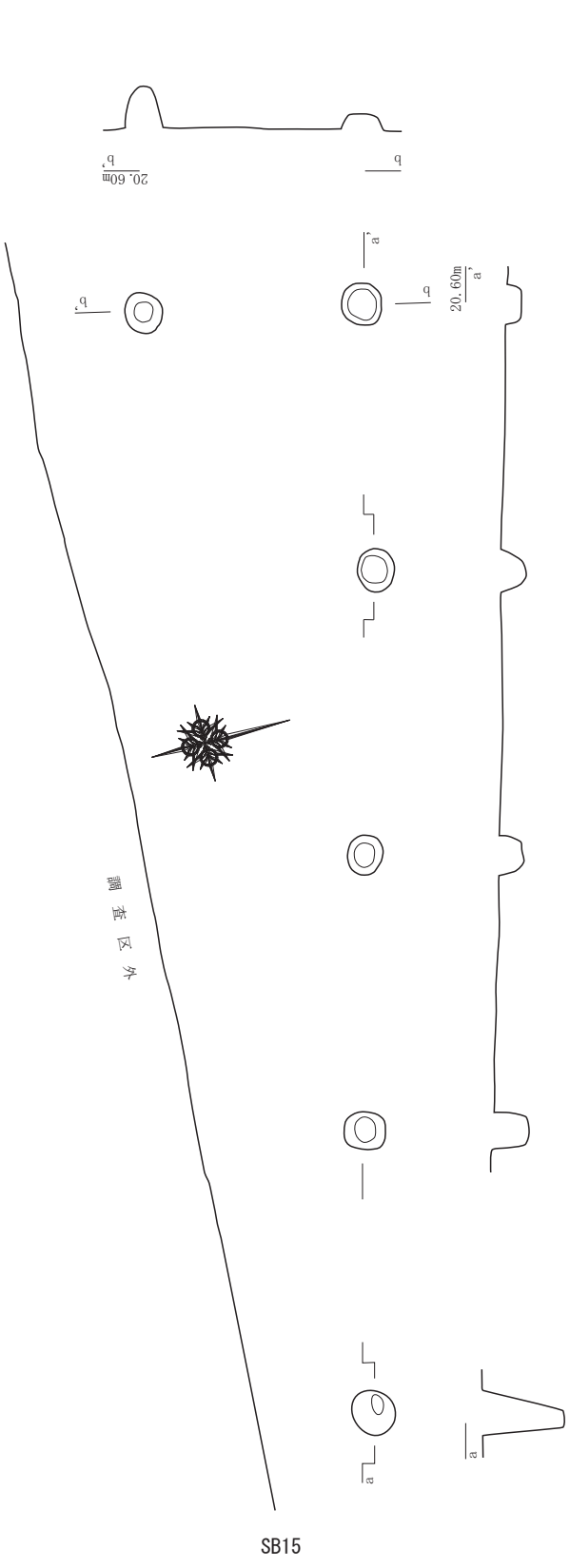
前節の冒頭でも述べたように、調査区内で多数の柱穴が検出されたが、掘立柱建物15以外はその所属時期が判断できないものが大半であった。一部は近世の溝状遺構と類似する埋土のものがあるが、掘立柱建物を構成するものはない。

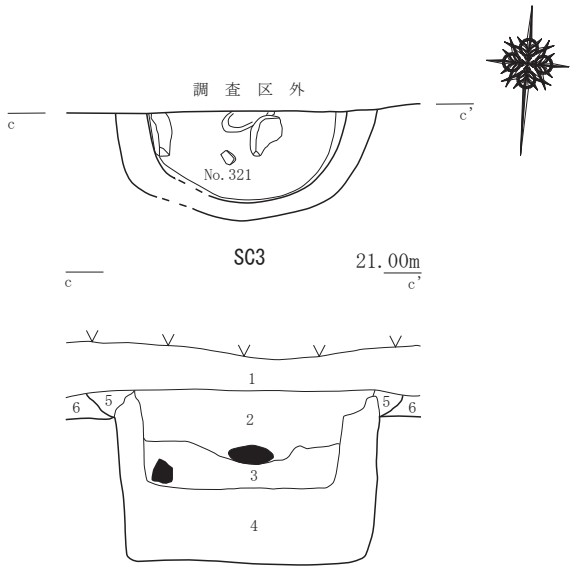
溝状遺構2(第63図)　調査区南側で検出された。撹乱により西側が残存していない他、東側は調査区外に延びている。竪穴建物1を切っている。西側は深さ0.3mの断面V字状を呈するが、東側はU字状の断面形となる。埋土中から土師器片と礫が出土した。

317は底部ヘラ切りの土師器坏である。器高が高く、底部と胴部の境に明瞭な屈曲を有する。318は高台付きの土師器坏である。317は8世紀末から9世紀前葉の形態を呈するが、318は9世紀後葉の丸底化しつつある坏である。

溝状遺構19(第63図)　調査区東端で検出された。最大幅1m、深さ約0.2mの断面U字状を呈する。撹乱と近世の溝状遺構19に切られており残存状況が悪いが、埋土中から土師器甕が一個体分まとまって出土している。313は土師器甕である。胴部と底部は接合しないが、近接して出土したことと胎土の特徴が酷似することから同一個体と判断した。下膨れ状の胴部に短く外反する口縁部を有し、底部は平底である。7世紀中葉に比定される。

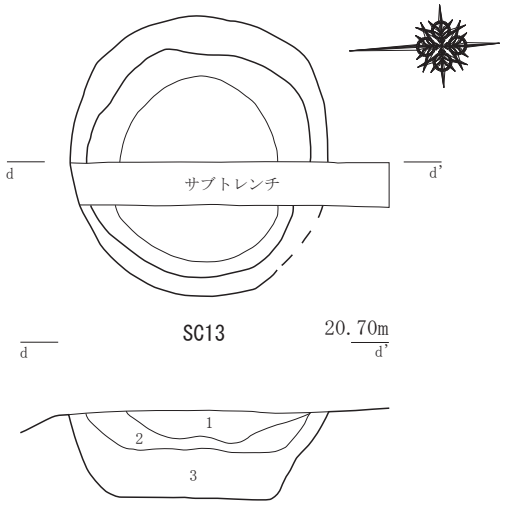
掘立柱建物15(第63図)　調査区内で多数検出された柱穴のうち、溝状遺構14を切る形で、黒色シルトを埋土とする柱穴のプランが検出できたため、これを掘立柱建物15とした。南側が調査区外に広がっているが、4間×2間以上の規模を有する。柱穴の径は0.35m前後、柱間隔は





SC3 土層

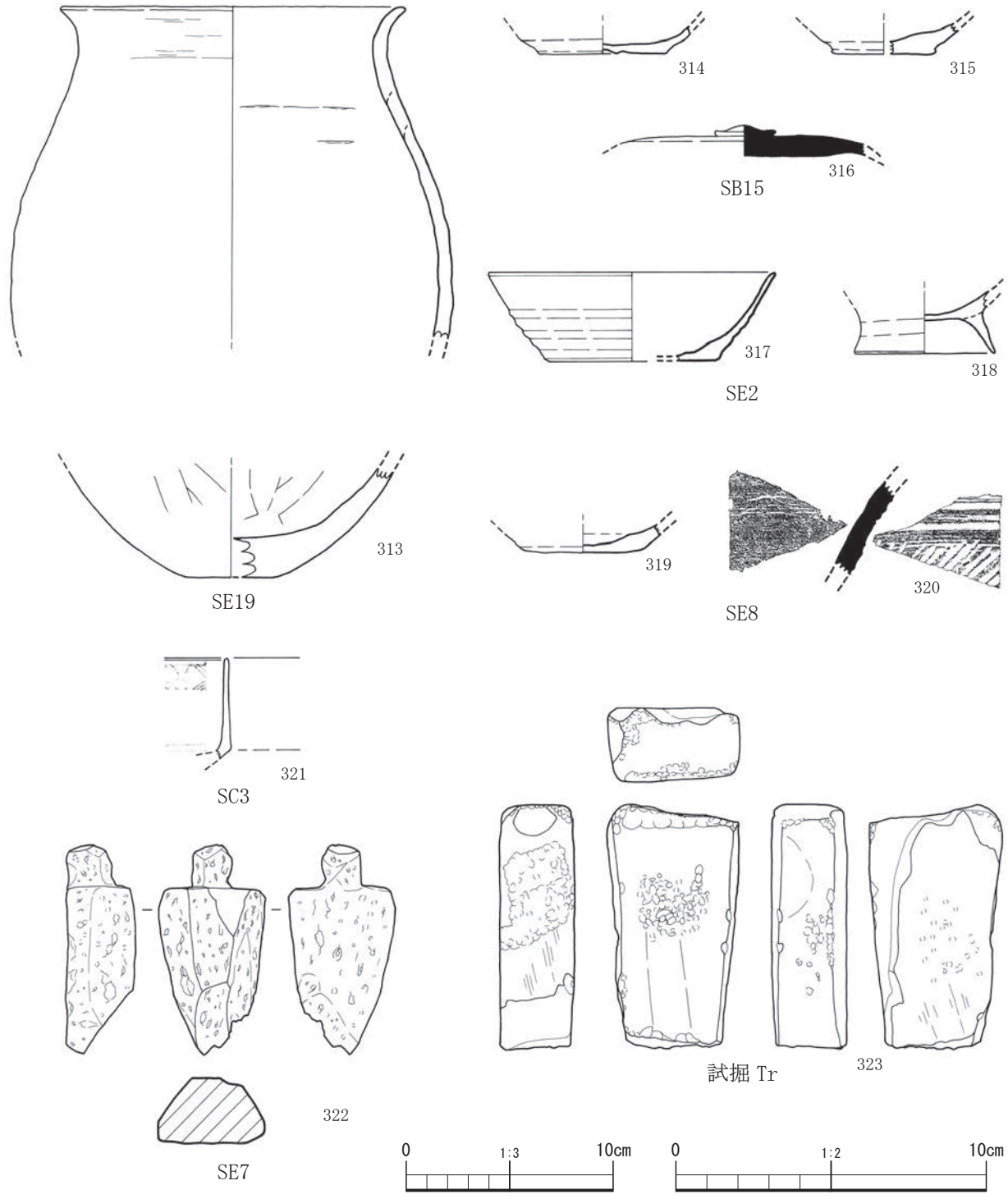
1　表土。
2　黒褐（10YR2/2）。粘性あり、しまり弱い。砂質シルト。θ1cm の明黄褐色粘土ブロックを少量含む。
3　2 に類似するが、明黄褐色粘土ブロックを多量含む。
4　明黄褐（10YR6/6）。粘土。小礫を含む。
5　2 に似るが、粘土ブロックを含まない。
6　SE14 埋土。



SC13 土層

1　黒褐（10YR2/2）。粘性あり、しまり弱い。砂質シルト。θ1cm のロームブロックを少量含む。
2　1 に類似するが、明黄褐色粘土ブロック、炭化物を多く含む。
3　明黄褐（10YR6/6）。粘土。小礫を含む。

第 63 図　掘立柱建物 15 実測図（S=1/60）、**土坑 3・13 実測図**（S=1/30）



第 64 図　古墳時代後期以降の遺構出土遺物、その他遺物実測図（S=1/3・S=1/2）

2m 前後で概ね揃っている。柱痕は検出されなかった。

314 から 316 は柱穴から出土した遺物である（第 64 図）。314 と 315 は底部ヘラ切りの土師器坏である。315 は円盤状の底部を有する。316 は須恵器坏蓋である。焼成不良で外側がにぶい褐色を呈する。これらの遺物は 8 世紀前半から 10 世紀後葉にかけてのものだが、溝状遺構 14 上層の遺物に 10 世紀中葉から後葉のものがあることから、これらの遺物自体は流れ込みの可能性が高い。柱穴の埋土中に霧島高原スコリアが含まなれないことから、10 世紀後葉から 13 世紀の間に

構築された遺構と推測される。

土坑3（第63図）　調査区東側で検出された。溝状遺構14を切っており、南側半分は調査区外に広がっている。最大径1.02mの平面円形を呈し、断面方形に掘り込んだ上で明黄褐色粘土を底面と壁面に充填する構造で、水溜め等の用途が推測される。特に底面は30cmと粘土を厚く充填している。埋土は大きく二層に分かれるが、レンズ状堆積を呈さないことから埋め戻された可能性が高い。また、調査区壁面の土層を見ると、上部は意図的に破壊されている可能性がある。埋土中から礫が出土した他、床面から321の染付片が出土した。外面に青磁、内面に染付けを有する小ぶりな肥前産筒形碗である。製作年代は18世紀後半に位置づけられる。

土坑13（第63図）　調査区東側で検出された。溝状遺構14を切る。最大計1.1mの平面円形を呈し、断面逆台形に掘り込んだ上で壁面と底面に明黄褐色粘土を充填する構造である。遺物は出土していないが、土坑3と同様の水溜め等の機能を有する土坑と推測される。

近世の溝状遺構群（第63図から第64図）　近世期の溝状遺構としては、溝状遺構6から12、16から18、23がある。いずれも小礫を多量に含む暗褐色シルトを埋土とし、混入した土師器小片や礫、旧石器時代の剥片石器や焼礫とともに、近世陶磁器片を埋土中に含む。いずれも断面U字状を呈し、深さは0.3m未満と浅い。

溝状遺構8は調査区を横断する形で延びており、東側で溝状遺構11と重複している。土層観察による切りあい関係は明らかにできなかったが、埋土が酷似していることから元々枝分かれしている可能性もある。また、調査区西側では南北方向に伸びる溝状遺構が多数検出されている。具体的な用途は不明だが、近世期に周辺の土地利用が活発に行なわれていることは確実である。

319と320は溝状遺構8の出土遺物である。319は底部ヘラ切りの土師器坏である。10世紀中葉から後葉に位置づけられる。320は須恵器甕の口縁部である。322は溝状遺構7出土の軽石加工品である。全体に研磨による加工を施し、横断面が台形で、平面形が突出部をもつ三角形を呈する。下部の縁辺は一部欠損している。所属時期や具体的な器種、用途は不明だが、人形等の祭祀道具の可能性もある。なお、溝状遺構7からはこの他に、銭種不明の古銭が2枚出土している。

その他の出土遺物（第64図）　323は確認調査トレンチから出土した敲石である。砂岩製で、砥石を転用している。縁辺や平坦面に敲打痕が認められる他、表面に鉄分の付着が認められる。時期は不明だが、鉄器製作にかかる遺物と考えられる。

第 4 表 出土土器観察表①

掲載頁 図番号	番号	遺構 等	種別 器種	法量cm（ ）:復元 口径	底径	器高	色調 外面	内面	焼成	調整 外面	内面	胎土(上:㎜ 下:量) A	B	C	D	E	備考	実測
p.42 第33図	126	SA1 No.5+SA1 焼土	土師器 甕	－	－	－	7.5YR6/4 にぶい橙	7.5YR6/4 にぶい橙	良好	ヨコナデ （口縁） ハケメ(胴部)	ヨコナデ ハケメ	1～6 多						6
	127	SA1 No.19＋SA1 ﾊﾘﾕｶ	土師器 壷or甕	－	4.5	－	7.5YR6/4 にぶい橙	7.5YR6/4 にぶい橙	良好	ハケメ	ハケメ?	1～4 多	1 少				外底面：暗文状ミガキ	2
	128	SA1 焼土＋SA1	土師器 壷	(11.2)	－	－	10YR6/3 にぶい黄橙	7.5YR5/2 灰褐	良好	ヨコナデ ナデ	ヨコナデ ナデ ユビオサエ	3 多	1 多					7
	129	SA1+SA1 焼土	土師器 高坏	15.2	10.2	12.7	7.5YR4/1 褐灰	7.5YR5/2 灰褐	良好	ナデ ヨコナデ	ナデ ヨコナデ	1～3 多	1 少				外底面：ナデ、ヨコナデ	35
	130	SA1 ﾊﾘﾕｶ＋SA1 焼土	土師器 高坏	－	(11.0)	－	5YR6/6 橙	5YR6/6 橙	良好	ミガキ	ハケメ ナデ		1 多					5
p.43 第34図	132	SA1	土師器 坏	(10.4)	－	4.5	10YR5/3 にぶい黄褐	10YR5/3 にぶい黄褐	良好	ヨコナデ ハケメ ナデ	ヨコナデ ハケメ後ナデ	2 少			1 少			8
	133	SA1	土師器 高坏	(13.6)	－	－	5YR6/6 橙	7.5YR6/6 橙	良好	ヨコナデ ハケメ	ヨコナデ ナデ	1 僅	1 多	0.5 僅				10
	134	SA1	土師器 高坏	(17.2)	－	－	2.5YR5/6 明赤褐	2.5YR5/6 明赤褐	良好	ヨコナデ ハケメ	ナデ ミガキ	2～5 多	1 少	1 微			被熱している	11
	135	SA1	土師器 高坏	－	－	－	5YR5/4 にぶい赤褐	5YR5/4 にぶい赤褐	良好	ミガキ ナデ	ミガキ		1 少				赤褐色の鉱物を含む	12
	136	SA1	土師器 高坏	－	(8.4)	－	7.5YR5/4 にぶい褐	7.5YR5/3 にぶい褐	良好	ナデ	ナデ	1～2 多	1 少	1 僅	1 僅			9
	137	SA1	土師器 壷or器台	－	－	－	10YR7/4 にぶい黄橙	10YR7/4 にぶい黄橙	良好	ナデ 沈線文	ナデ	0.5 僅	1 僅					13
	138	SA1	土師器 ﾐﾆﾁｭｱ	－	2.7	－	7.5YR5/4 にぶい褐	7.5YR6/6 橙	良好	ナデ ユビオサエ	ナデ ユビオサエ	1～4 多	1 少		微 僅		外底面：ナデ	14
p.46 第37図	139	SE14 床直上	土師器 壷	－	－	－	7.5YR6/4 にぶい橙	7.5YR6/4 にぶい橙	良好	ハケメ	ユビオサエ ナデ ハケメ	1 多	1 僅				外面スス付着	75
	140	SE14 中層	土師器 甕	－	(7.4)	－	5YR5/4 にぶい赤褐	10YR4/1 褐灰	良好	工具ナデ	ナデ	4 多	2 少	1 少			外底面：タタキ	256
	141	SE14 中層	土師器 甕	21.15	4.2	29.1	10YR6/3 にぶい黄橙	10YR5/3 にぶい黄褐	－	ヨコナデ タタキ	ヨコナデ ナデ	5 多	微 少	微 少			外面スス付着 ふきこぼれ痕 内面炭化物付着 外底面：タタキ	198
	142	SE14 中層	土師器 甕	21.3	3.9	27.5	7.5YR7/1 明褐灰	7.5YR6/6 橙	良好	ヨコナデ ナデ ケズリ	ヨコナデ ナデ ユビオサエ	2 多	1 多	1 少			外面スス付着 ふきこぼれ痕有り 外底面：ナデ	190
	143	SE14 中層	土師器 甕	－	6.1	－	7.5YR6/3 にぶい褐	7.5YR5/4 にぶい褐	良好	ナデ	ハケメ後ナデ	5 多	2 少	1 少			外面スス付着 外底面：ナデ	255
	144	SE14 中層	土師器 甕	(19.7)	3.1	(24.0)	7.5YR5/4 にぶい褐	7.5YR5/4 にぶい褐	良好	ヨコナデ ナデ ミガキ	ヨコナデ ケズリ調工具ナデ	3 多	1 多	1 多			外面スス付着 外底面：ナデ	169
	145	SE14 中層	土師器 甕	28.1	6.7	30.0	10YR7/4 にぶい黄橙	7.5YR8/2 灰白	良好	ヨコナデ ナデ	ヨコナデ ナデ	3 多	2 少				外面スス付着 ふきこぼれ痕有り 口縁部粘土貼付補修痕有り 外底面：ナデ	185
p.47 第38図	146	SE14 中層	土師器 甕	(24.8)	－	－	7.5YR5/4 にぶい褐	7.5YR6/4 にぶい橙	良好	ヨコナデ ナデ	ヨコナデ ナデ	4 多	2 少	1 僅			外面スス付着 ふきこぼれ痕有り	173
	147	SE14 中層	弥生 甕	(25.0)	－	－	7.5YR5/4 にぶい褐	7.5YR6/4 にぶい橙	良好	ヨコナデ ナデ	ヨコナデ ナデ ケズリ後ナデ	2 多	1 少	1 少	微 僅		外面タタキ後ナデか?	157
	148	SE14 中層	土師器 甕	25.5	－	－	7.5YR5/4 にぶい褐	2.5YR5/6 明赤褐	良好	ヨコナデ ハケメ ミガキ	ヨコナデ ハケメ ナデ	5 多	1 多	1 僅			外面スス付着	177
p.48 第39図	149	SE14 中層	土師器 甕	25.8	－	－	10YR6/4 にぶい黄橙	10YR6/4 にぶい黄橙	良好	ヨコナデ ナデ	ヨコナデ ナデ ユビオサエ	5 多	1 少	1 少			外面スス付着 ふきこぼれ痕有り	201-1
	150	SA1+SE14 中層	土師器 甕	(27.8)	－	－	7.5YR5/4 にぶい褐	10YR5/4 赤褐	良好	ナデ ハケメ	ハケメ ナデ	2 多	1 少	1 僅			外面スス付着	154
	151	SE14 中層	土師器 甕	(11.0)	－	－	7.5YR5/4 にぶい褐	5YR5/6 明赤褐	良好	ハケメ ナデ	ハケメ	4 多	1 少				外面スス付着	223
p.49 第40図	152	SE14 中層	土師器 甕	23.85	－	－	5YR5/4 にぶい赤褐	7.5YR5/4 にぶい褐	良好	ハケメ後 ヨコナデ ハケメ	ハケメ後 ヨコナデ ハケメ ユビオサエ ハケメ後ナデ	3 少	1 多	1 少			外面スス付着	188
	153	SE14 中層	土師器 甕	(21.1)	－	－	7.5YR6/4 にぶい橙	7.5YR5/4 にぶい褐	良好	ヨコナデ ナデ	ヨコナデ ユビオサエ ナデ	4 多	2 少	2 少				172

※胎土 A:宮崎小石 B:長石・石英 C:輝石・角閃石 D:雲母 E:黒染

第5表 出土土器観察表②

掲載頁 図番号	番号	遺構等	種別 器種	法量cm（ ）:復元 口径	底径	器高	色調 外面	色調 内面	焼成	調整 外面	調整 内面	胎土(上:㎜ 下:量) A	B	C	D	E	備考	実測
p.49 第40図	154	SE14 中層	土師器 甕	24.4	－	－	7.5YR5/4 にぶい褐	7.5YR5/4 にぶい褐	良好	ヨコナデ ハケメ ナデ	ヨコナデ ハケメ	5 多	3 多				外面スス付着 内面炭化物付着	189
	155	SE14 中層	土師器 甕	21.5	4.2	26.0	5YR5/4 にぶい赤褐	7.5YR5/4 にぶい褐	良好	ヨコナデ ハケメ ナデ	ヨコナデ ハケメ ナデ	3 多	1 多	微 少			外面スス付着 外底面：ナデ	176
p.50 第41図	156	SE14 中層	土師器 甕	(24.6)	－	(27.95)	5YR5/4 にぶい赤褐	5YR5/4 にぶい赤褐	良好	ナデ ハケメ	ナデ ハケメ	4 多	1 多		1 僅		外面スス付着、内面炭化物付着 被熱している、外底面：ナデ	165
	157	SE14 中層	土師器 甕	17.85	0.7	26.55	7.5YR6/4 にぶい橙	7.5YR6/4 にぶい橙	やや 良好	ヨコナデ ハケメ ナデ	ヨコナデ ハケメ ナデ	2 少	1 多				外面スス付着 内面炭化物付着 外底面：ナデ	184
	158	SE14 中層	土師器 甕	－	1.0	－	7.5YR6/4 にぶい橙	7.5YR6/4 にぶい橙	良好	ヨコナデ ハケメ	ヨコナデ ハケメ ナデ	3 多	1 多	1 少			外面スス付着 内面炭化物有り 外底面：ハケメ、ナデ	200
	159	SE14 中層	土師器 壷	－	3.3	－	5YR7/2 明褐灰	7.5YR6/4 にぶい橙	良好	ハケメ ナデ	ナデ	2 多	1 多	1 少			外面スス付着 外底面：ナデ	199
p.51 第42図	160	SE14 中層	土師器 甕	(23.4)	－	－	7.5YR6/4 にぶい橙	7.5YR6/4 にぶい橙	良好	ナデ	ハケメ後ナデ	5 多	1 少					155
	161	SE14 中層	土師器 甕	－	－	－	5YR6/6 橙	5YR7/2 明褐灰	良好	ヨコナデ ナデ	ナデ	5 多	微 僅	微 僅			外面スス付着 外底面：ナデ	180
	162	SE14 中層	土師器 甕	19.4	－	－	7.5YR6/4 にぶい橙	7.5YR5/4 にぶい褐	良好	ハケメ ヨコナデ タタキ	ハケメ ヨコナデ ナデ	2 多	1 少				外面スス付着	178
	163	SE14 中層	土師器 甕	16.5	－	－	7.5YR6/4 にぶい橙	10YR5/3 にぶい黄褐	良好	ナデ	ナデ		1 多	微 少	微 少		外面スス付着	196
	164	SE14 中層	土師器 甕	(18.8)	23.8	－	2.5YR7/3 淡赤橙	7.5YR5/4 にぶい褐	やや 良好	ヨコナデ ハケメ ナデ	ヨコナデ ナデ	7 多	4 多				外面スス付着	174
	165	SE14 中層	弥生 甕	(16.8)	－	－	10YR6/4 にぶい黄橙	10YR7/4 にぶい黄橙	良好	ヨコナデ ナデ	ヨコナデ ケズリ	2 多	1 多	1 少			外面スス付着	168
p.52 第43図	166	SE14 中層	土師器 甕	(15.3)	－	－	10YR6/4 にぶい黄橙	10YR5/3 にぶい黄褐	良好	ヨコナデ	ユビオサエ	1 多	1 少	微 僅			摩滅とスス付着で調整不明瞭	156
	167	SE14 中層	土師器 甕	17.7	－	－	7.5YR6/4 にぶい橙	7.5YR5/4 にぶい褐	良好	ナデ ハケメ後ナデ	ハケメ後ナデ ユビオサエ	2 多	1 少				成形、整形共に粗雑 被熱している	160
	168	SE14 中層	土師器 甕	－	8.2	－	7.5YR6/4 にぶい橙	10YR6/3 にぶい黄橙	良好	不明 ユビオサエ	ナデ	5 多	2 少	2 少				163
	169	SE14 中層	土師器 甕	－	6.7	－	5YR6/4 にぶい橙	7.5YR5/4 にぶい褐	良好	ナデ ユビオサエ	ナデ	3 多	1 少	2 少			外面スス付着 外底面：ナデ	162
	170	SE14 中層	土師器 甕	17.3	－	27.65	7.5YR5/4 にぶい褐	7.5YR5/4 にぶい褐	良好	ヨコナデ ナデ	ヨコナデ ユビオサエ ナデ	2 少	1 多	1 少			外面スス付着 ふきこぼれ痕有り 外底面：ナデ	187
	171	SE14 中層	土師器 甕	(18.7)	－	－	5YR7/2 明褐灰	10YR5/3 にぶい黄褐	良好	ヨコナデ タタキ後ナデ ハケメ	ヨコナデ ケズリ後ナデ	4 多	1 多	1 多			外面スス付着	186
p.53 第44図	172	SE14 中層	土師器 甕	17.85	－	24.35	7.5YR6/6 橙	7.5YR5/4 にぶい褐	良好	ヨコナデ ナデ	ヨコナデ ナデ	4 多	1 少	1 僅			外面スス付着 ふきこぼれ痕有り 外底面：ナデ	197
	173	SE14 中層	土師器 甕	－	－	－	10YR6/3 にぶい黄橙	10YR5/2 灰黄褐	良好	ヨコナデ	ヨコナデ	1 多	1 多				外面にモミ圧痕有り	218
	174	SE14 中層	土師器 甕	(18.5)	－	－	5YR6/6 橙	5YR6/6 橙	良好	ナデ	ナデ	5 多	1 少	1 少			外面スス付着	167
	175	SE14 中層	土師器 甕	－	－	－	10Y4/1 灰	7.5YR5/3 にぶい褐	良好	ヨコナデ	ヨコナデ		1 少				外面スス付着 千枚岩片？含む	231
	176	SE14中層 ＋SE14 上層	土師器 甕	(17.0)	－	－	10YR5/3 にぶい黄褐	7.5YR5/3 にぶい褐	良好	ヨコナデ	ハケメ後 ヨコナデ ケズリ		2 少		2 少		外面スス付着	214
	177	SE14 中層	土師器 甕	－	－	－	5YR5/4 にぶい赤褐	2.5YR4/4 にぶい赤褐	良好	ヨコナデ ハケメ	ヨコナデ ケズリ ハケメ		5 多	1 少				221
	178	SE14 中層	土師器 甕	－	－	－	10YR5/4 にぶい黄褐	10YR5/3 にぶい黄褐	良好	ナデ	ケズリ後ナデ		2 多	1 少	微 僅		外面スス付着	246
p.54 第45図	179	SE14 中層	土師器 壷	14.75	－	－	7.5YR6/4 にぶい橙	7.5YR6/4 にぶい橙	良好	ナデ タタキ	ヨコナデ ユビオサエ ナデ	4 多	1 少				外→内の穿孔有り	203
	180	SE14 中層	土師器 壷	15.6	－	－	7.5YR6/6 橙	7.5YR6/4 にぶい橙	良好	ハケメ後 ヨコナデ ナデ	ハケメ後ナデ ナデ	1 多	1 多	1 少				210

※胎土 A:宮崎小石 B:長石・石英 C:輝石・角閃石 D:雲母 E:黒染

第 6 表 出土土器観察表③

掲載頁 図番号	番号	遺構 等	種別 器種	法量cm（ ）:復元 口径	底径	器高	色調 外面	色調 内面	焼成	調整 外面	調整 内面	胎土(上:mm 下:量) A	B	C	D	E	備考	実測
p.54 第45図	181	SE14 中層	土師器 壷	(17.6)	−	−	7.5YR5/4 にぶい褐	2.5YR7/3 淡赤橙	良好	ヨコナデ	ヨコナデ ナデ	2 多	1 多	1 少				208
	182	SE14 中層	土師器 壷	−	5.5	−	7.5YR6/4 にぶい橙	7.5YR6/4 にぶい橙	良好	ナデ	ユビオサエ ハケメ	2 多	1 多	1 少			外底面：ナデ	194
	183	SE14 中層	土師器 壷	−	7.6	−	2.5Y6/3 にぶい黄	10YR6/3 にぶい黄橙	良好	ハケメ後ナデ	ナデ	1 少	2 多	1 少			外底面：ナデ	251
	184	SE14 中層	土師器 壷	−	8.6	−	7.5YR5/4 にぶい褐	10YR5/3 にぶい黄褐	良好	ナデ	不明	7 多	2 少				外底面：ナデ	243
p.55 第46図	185	SE14 中層	土師器 壷	15.4	−	−	7.5YR8/2 灰白	10YR6/4 にぶい黄橙	良好	ナデ	ナデ ユビオサエ	2 多	1 少	1 僅			タタキ成形かもしれない	166
	186	SE14 中層	土師器 壷	16.0	−	25.3	7.5YR6/4 にぶい橙	2.5YR7/2 明赤灰	良好	ヨコナデ ナデ	ナデ	1.5 多	1 少	微 少			外面スス付着 焼成時or土圧の歪み有り 外底面：ナデ	179
	187	SE14 中層	土師器 甕	−	−	−	7.5YR6/4 にぶい橙	10YR6/3 にぶい黄橙	良好	ハケメ ケズリ調ナデ ユビオサエ	不明	2 少	2 多	1 僅			外面スス付着 底面に被熱 外底面：ユビオサエ、ナデ	191
	188	SE14 中層	土師器 壷	−	−	−	7.5YR6/4 にぶい橙	5YR7/1 明褐灰	良好	ナデ	ハケメ	4 多	1 僅				外面スス付着 外底面：ナデ	183
p.56 第47図	189	SE14 中層	土師器 壷	−	−	35.0	10YR6/4 にぶい黄橙	10YR5/3 にぶい黄褐	良好	ヨコナデ ハケメ ナデ	ヨコナデ ハケメ ナデ		1 少	1 僅	微 多		外→内の穿孔有り 外底面：ナデ	202
	190	SE14 中層	土師器 壷	15.7	−	36.9	10YR6/4 にぶい黄橙	10YR6/4 にぶい黄橙	良好	ヨコナデ ナデ	ヨコナデ ナデ	3 多	1 多	1 少			外面スス付着 外底面：ナデ	204
	191	SE14 中層	土師器 壷	13.8	3.6	30.55	10YR6/4 にぶい黄橙	7.5YR5/4 にぶい褐	良好	ヨコナデ ミガキ ナデ	ヨコナデ ナデ	3 多	1 少	1 僅			外面スス付着 外底面：ナデ	175
p.57 第48図	192	SE14 中層	土師器 壷	(23.6)	−	−	5YR6/6 橙	7.5YR5/3 にぶい褐	良好	ヨコナデ ナデ	ヨコナデ	1 少	2 多	1 少			内面被熱痕	209
	193	SE14 中層	土師器 壷	20.95	2.5	34.4	7.5YR7/3 にぶい橙	7.5YR5/4 にぶい褐	良好	ヨコナデ ナデ	ヨコナデ	3 多	1 多	1 多			被熱 外底面：ナデ	193
	194	SE14 中層	土師器 壷	−	−	−	7.5YR5/4 にぶい褐	10YR6/3 にぶい黄橙	良好	ナデ 穿孔	ハケメ	3 多	1 多	1 多			外底面：ナデ	164
p.58 第49図	195	SE14 中層	土師器 壷	(18.4)	−	36.9	7.5YR6/4 にぶい橙	10YR5/2 灰黄褐	良好	ヨコナデ ナデ	ヨコナデ ナデ	3 多	1 多	1 僅			外底面：ナデ	192
	196	SE14 中層	土師器 壷	−	−	−	10YR6/4 にぶい黄橙	10YR5/3 にぶい黄褐	良好	ヨコナデ	ヨコナデ	2 少	1 僅	2 多				235
	197	SE14 中層	土師器 壷	−	−	−	10YR7/4 にぶい黄橙	10YR6/3 にぶい黄橙	良好	ナデ	ナデ	2 多	1 多	1 僅			複合口縁壷か？	226
	198	SE14 中層	土師器 壷	−	−	−	7.5YR6/4 にぶい橙	10YR6/3 にぶい黄橙	良好	ナデ ミガキ	ナデ	3 多	1 多	1 少			外面スス付着	181
	199	SE14 中層	土師器 壷	14.5	−	−	7.5YR5/4 にぶい褐	5YR7/1 明褐灰	良好	ヨコナデ ナデ	ナデ	4 多	1 僅		微 少		外面スス付着	182
p.59 第50図	200	SE14 中層	土師器 壷	(13.4)	−	29.75	2.5YR5/6 明赤褐	2.5YR4/4 にぶい赤褐	良好	ヨコナデ ハケメ	ハケメ ユビオサエ ケズリ	3 多	1 多	1 少			外底面：ナデ	195
	201	SE14 中層	土師器 壷	−	−	−	2.5Y6/3 にぶい黄	10YR6/4 にぶい黄橙	良好	ナデ	ナデ		3 多					229
	202	SE14 中層	土師器 不明	−	−	−	5YR5/3 にぶい赤褐	7.5YR5/4 にぶい褐	良好	ヨコナデ	ヨコナデ ナデ	2 多	1 少	1 僅				232
	203	SE14 中層	土師器 鉢	−	4.0	−	7.5YR5/4 にぶい褐	2.5YR7/2 明赤灰	良好	ナデ	ナデ		微 少	微 僅	微 多		外面スス付着 鉄分粒を多く含む 外底面：ナデ	248
	204	SE14 中層	土師器 甕	14.7	5.6	17.6	7.5YR6/6 橙	7.5YR7/6 橙	良好	ナデ ヨコナデ ハケメ	ナデ ヨコナデ	1～2 多	1 多				外面スス付着 外底面：ナデ	105
	205	SE14 中層	土師器 壷	−	(3.2)	−	2.5Y7/3 浅黄	10YR7/4 にぶい黄	やや 良好	ナデ	ナデ ユビオサエ	1 多	1 少				外面スス付着 外底面：ナデ	106
	206	SE14 中層	土師器 鉢	12.8	1.0	14.0	7.5YR5/4 にぶい褐	7.5YR4/3 褐	良好	ヨコナデ ナデ	ヨコナデ ナデ、工具ナデ ユビオサエ	1 僅	1 少				外面スス付着 外底面：ナデ	104
	207	SE14 中層	土師器 鉢	(15.9)	−	−	10YR6/4 にぶい橙	10YR6/4 にぶい橙	良好	ナデ	ナデ	4 多	1 少	微 僅			ゆがみ有り 外面スス付着	158
	208	SE14 中層	土師器 壷	10.8	2.7	10.4	7.5YR6/4 にぶい橙	7.5YR6/4 にぶい橙	良好	ナデ ハケメ	ナデ	4 多	1 少	2 僅			外面スス付着 外底面：ナデ、ハケメ	102

※胎土 A:宮崎小石 B:長石・石英 C:輝石・角閃石 D:雲母 E:黒染

第７表 出土土器観察表④

掲載頁 図番号	番号	遺構 等	種別 器種	法量cm（ ）:復元 口径	底径	器高	色調 外面	内面	焼成	調整 外面	内面	胎土(上:mm 下:量) A	B	C	D	E	備考	実測
p.59 第50図	209	SE14 中層	土師器 鉢	－	－	－	7.5YR6/4 にぶい橙	2.5YR6/6 橙	良好	ヨコナデ ナデ	ヨコナデ ユビオサエ	4 多	1 多					230
	210	SE14 中層	土師器 壷or鉢	9.8	－	6.8	10YR6/4 にぶい黄橙	10YR5/4 にぶい黄褐	良好	ヨコナデ ナデ	ヨコナデ ナデ ユビオサエ		1 少				外底面：ナデ	91
	211	SE14 中層	土師器 壷	9.8	－	－	7.5YR5/4 にぶい褐	7.5YR5/4 にぶい褐	良好	ヨコナデ ミガキ	ヨコナデ ナデ	2 多	1 多	2 僅				96
p.60 第51図	212	SE14 中層	土師器 壷	9.4	－	8.2	7.5YR6/4 にぶい橙	7.5YR5/3 にぶい褐	良好	ヨコナデ ナデ	ナデ ユビオサエ	3 多			微 僅		歪み大きい、粗製 外底面：ナデ	92
	213	SE14 中層	土師器 壷	(9.6)	－	－	7.5YR5/4 にぶい褐	7.5YR5/4 にぶい褐	良好	ヨコナデ ナデ	ヨコナデ ナデ	1 少	1 多		微 僅			90
	214	SE14 中層	土師器 壷	(8.9)	－	10.1	7.5YR5/4 にぶい褐	5YR6/1 褐灰	良好	ナデ	ナデ	0.5 多	1 多		微 少			99
	215	SE14 中層	土師器 壷	(9.0)	－	10.4	7.5YR7/2 明褐灰	7.5YR5/4 にぶい褐	良好	ナデ	ナデ	3 少	1 多	2 少				101
	216	SE14 中層	土師器 壷	9.9	－	10.9	10YR7/4 にぶい黄橙	10YR6/3 にぶい黄橙	良好	ナデ	ナデ	2.5 多	1 少	2 少			外底面：ナデ	94
	217	SE14 中層	土師器 壷	9.0	1.0	9.1	7.5YR6/4 にぶい橙	5YR4/3 にぶい赤褐	良好	ナデ	ナデ	1 多	1 多				外面スス付着 外底面：ナデ	95
	218	SE14 中層	土師器 壷	－	－	－	7.5YR6/4 にぶい橙	7.5YR5/4 にぶい褐	良好	ナデ	ナデ	1 多	1 少					98
	219	SE14 中層	土師器 壷	－	1.0	－	7.5YR5/4 にぶい褐	5YR7/1 明褐灰	良好	ナデ ミガキ	ナデ	1 多	1 少	1 少			外面スス付着 外底面：ナデ	97
	220	SE14 中層	土師器 壷	6.9	3.1	8.15	7.5YR6/4 にぶい橙	7.5YR7/1 明褐灰	良好	ヨコナデ	ナデ	3.5 多	2 僅	1 僅			外底面：ナデ	100
	221	SE14 中層	土師器 壷	5.2	2.4	7.6	7.5YR5/4 にぶい褐		良好	ヨコナデ ナデ	ナデ ユビオサエ		微 多		微 多		外底面：ナデ	93
	222	SE14 中層	土師器 壷	(12.6)	－	－	5YR6/6 橙	5YR5/6 明赤褐	良好	ヨコナデ	ヨコナデ ユビオサエ ハケメ		微 多		微 僅		器表面摩滅 外面スス付着	159
	223	SE14 中層	土師器 壷	－	－	－	7.5YR6/4 にぶい橙	10YR5/3 にぶい黄褐	良好	ナデ ハケメ後ナデ	ナデ	2 少	1 多	1 僅			外面スス付着	107
	224	SE14 中層	土師器 壷	12.8	－	13.2	10YR6/4 にぶい黄橙	7.5YR5/4 にぶい褐	良好	ヨコナデ ミガキ	ミガキ ナデ	1 僅	1 少	微 僅			外面スス付着 口縁部被熱 外底面：ナデ	103
	225	SE14 中層	土師器 壷	(12.6)	－	－	7.5YR6/6 橙	5YR7/2 明褐灰	良好	ハケメ後ミガキ	ミガキ	2 少	1 僅	1 僅				211
	226	SE14 中層	土師器 壷	－	5.7	－	7.5YR6/4 にぶい橙	－ －	良好	ナデ ユビオサエ	ユビオサエ ナデ	2 多	2 多	1 僅			外底面：ナデ	89
	227	SE14 中層	土師器 鉢	－	(6.7)	－	10YR6/3 にぶい黄橙	7.5YR5/2 灰褐	良好	ヨコナデ	ナデ	4 多	1 少	1 僅			外底面：ヨコナデ	259
	228	SE14 中層	土師器 高坏	18.3	12.8	12.2	2.5YR5/6 明赤褐	2.5YR5/6 明赤褐	良好	ナデ	ナデ	1 僅	1 多				外底面：ナデ	108
	229	SE14 中層	土師器 高坏	16.4	12.3	11.6	5YR6/6 橙	5YR6/6 橙	良好	ヨコナデ ハケメ	ヨコナデ ナデ	1 少	1 多	1 僅				111
p.61 第52図	230	SE14 中層	土師器 高坏	16.5	12.4	13.7	7.5YR6/6 橙	7.5YR6/8 橙	良好	ヨコナデ ハケメ後ナデ ナデ	ナデ	1～2 多	1 多				外底面：ヨコナデ	76
	231	SE14 中層	土師器 高坏	16.2	12.2	14.9	7.5YR6/4 にぶい橙	5YR5/3 にぶい赤褐	良好	ハケメ ヨコナデ ミガキ	ハケメ ヨコナデ ミガキ	1 少	1 多				脚部接合面に刻み目なし	109
	232	SE14 中層	土師器 高坏	17.9	13.2	15.5	7.5YR6/6 橙	5YR7/3 にぶい橙	良好	ミガキ ハケメ後ミガキ	ミガキ	2 僅	1 少		微 多		坏部の歪みは意図した成形か	112
	233	SE14 中層	土師器 高坏	17.3	(12.9)	13.7	5YR6/6 橙	7.5YR6/4 にぶい橙	良好	ハケメ ヨコナデ	ナデ ヨコナデ	1 多	1 少	1 僅				110
	234	SE14 中層	土師器 高坏	(14.0)	－	－	10YR5/4 にぶい黄褐	5YR5/4 にぶい赤褐	良好	ハケメ ミガキ	ハケメ ミガキ		1 多	微 僅			126-2と同一個体か	126-1
	235	SE14 中層	土師器 高坏	－	－	－	10YR5/4 にぶい黄褐	5YR5/4 にぶい赤褐	良好	ミガキ ススハケメ	ナデ		0.5 多		微 少		126-1と同一個体か	126-2
	236	SE14 中層	土師器 高坏	(17.6)	－	－	7.5YR6/6 橙	7.5YR6/4 にぶい橙	良好	ハケメ ナデ	ハケメ ナデ	1 少	1 多	1 僅				116
	237	SE14 中層	土師器 高坏	(19.2)	－	－	10YR6/4 にぶい黄橙	7.5YR7/4 にぶい橙	良好	不明	不明	1 少	1 少				外面スス付着	117

※胎土 A:宮崎小石 B:長石・石英 C:輝石・角閃石 D:雲母 E:黒染

第 8 表 出土土器観察表⑤

掲載頁 図番号	番号	遺構等	種別 器種	法量cm（ ）:復元 口径	底径	器高	色調 外面	内面	焼成	調整 外面	内面	胎土(上:㎜ 下:量) A	B	C	D	E	備考	実測
p.61 第52図	238	SE14 中層	土師器 高坏	(15.0)	－	－	10YR6/4 にぶい黄褐	10YR6/4 にぶい黄褐	良好	ナデ ミガキ	ハケメ ナデ ミガキ		1 少	1 少				124
	239	SE14 中層	土師器 高坏	－	－	－	10YR7/4 にぶい黄橙	7.5YR6/4 にぶい橙	良好	ミガキ？	ナデ ミガキ		1 多	1 僅				125
	240	SE14 中層	土師器 高坏	－	－	－	10YR6/4 にぶい黄橙	10YR6/4 にぶい黄橙	良好	ミガキ	ミガキ？		1 少		微 多			113
	241	SE14 中層	土師器 高坏	－	－	－	7.5YR5/3 明褐	7.5YR5/2 灰褐	良好	ミガキ	ナデ ミガキ	1 僅	1 多		微 多			118
	242	SE14 中層	土師器 高坏	－	－	－	7.5YR5/4 にぶい褐	10YR5/3 にぶい黄褐	良好	ヨコナデ ケズリ調ナデ	ミガキ		1 多				外面スス付着	122
	243	SE14 中層	土師器 高坏	－	－	－	2.5YR5/6 明赤褐	7.5YR5/4 にぶい褐	やや 良好	ナデ	ナデ	2 少	1 多	1 僅			外面スス付着	121
	244	SE14 中層	土師器 高坏	－	－	－	7.5YR6/4 にぶい橙	10YR4/1 褐灰	良好	ミガキ	ミガキ？	2 少	1 多	微 少				120
	245	SE14 中層	土師器 高坏	－	－	－	7.5YR5/4 にぶい褐	5YR4/2 灰褐	良好	ナデ ミガキ	ミガキ	1 多	1 多				坏部接合面キザミ	127
	246	SE14 中層	土師器 高坏	－	－	－	7.5YR5/4 にぶい褐	5YR5/4 にぶい赤褐	良好	ナデ ケズリ	ミガキ	1 僅	微 多					131
	247	SE14 中層	土師器 高坏	－	－	－	10YR8/6 黄橙	2.5YR5/2 暗黄灰	良好	ミガキ	工具ナデ	1 多			微 少			139
	248	SE14 中層	土師器 高坏	－	－	－	10YR7/4 にぶい黄橙	10YR6/4 にぶい黄橙	良好	ミガキ	ナデ ケズリ	1 多	1 多		0.5 僅		外面スス付着 外底面：ナデ	138
	249	SE14 中層	土師器 高坏	－	13.6	－	7.5YR5/4 にぶい褐	5YR6/6 橙	良好	ナデ	ケズリ ナデ		1 多	微 少	微 少		転用羽口の可能性あり	130
	250	SE14 中層	土師器 高坏	－	－	－	7.5YR6/4 にぶい橙	10YR5/4 にぶい黄褐	良好	ミガキ	ケズリ ハケメ	0.5 少	1 多		微 多			135
	251	SE14 中層	土師器 高坏	－	－	－	7.5YR5/3 にぶい褐	7.5YR4/2 灰褐	良好	ヨコナデ	ケズリ		微 少		微 多		脚台天井部に粘土紐を巻いて充填	150
	252	SE14 中層	弥生 高坏	－	－	－	7.5YR6/4 にぶい橙	5YR5/4 にぶい赤褐	良好	ハケメ	ミガキ	1 多	1 少	1 少	微 僅			152
	253	SE14 中層	土師器 高坏	－	－	－	5YR5/6 明赤褐	7.5YR5/4 にぶい褐	良好	ミガキ	ユビオサエ ナデ		1 少		微 僅		赤色塗彩	151
	254	SE14 中層	土師器 高坏	－	－	－	7.5YR6/4 にぶい橙	7.5YR3/1 暗赤灰	良好	ナデ	ケズリ ナデ	1 僅	1 多		微 多			132
	255	SE14 中層	土師器 高坏	－	－	－	10YR7/6 明黄褐	10YR7/6 明黄褐	良好	ヨコナデ ハケメ後ナデ	ナデ ハケメ後ナデ	1 微			微 僅			141
p.62 第53図	256	SE14 中層	土師器 高坏	－	－	－	7.5YR6/6 橙	5YR6/6 橙	良好	ナデ	ケズリ ナデ		1 少		1 少		外底面：ナデ	144
	257	SE14 中層	土師器 高坏	－	－	－	2.5YR5/6 明赤褐	2.5YR4/1 赤灰	良好	ミガキ 赤色顔料	ナデ		1 少		微 多			147
	258	SE14 中層	土師器 高坏	－	－	－	7.5YR6/6 橙	10YR6/6 明黄褐	良好	ナデ ミガキ	ケズリ				1 少		鉄分粒を含む	140
	259	SE14 中層	土師器 高坏	－	－	－	5YR5/4 にぶい赤褐	2.5YR3/1 暗赤灰	良好	ミガキ	シボリ痕 ユビオサエ		微 少		微 僅		断面にモミ圧痕 脚台接合面に工具ナデ	148
	260	SE14 中層	土師器 高坏	－	－	－	7.5YR6/4 にぶい橙	10YR6/4 にぶい黄橙	良好	ミガキ	ナデ		微 僅		微 僅			146
	261	SE14 中層	土師器 高坏	－	－	－	5YR5/4 にぶい赤褐	5YR4/3 にぶい赤褐	良好	ナデ ハケメ ミガキ	ナデ ハケメ		0.5 少				搬入品か。鉄分粒(赤褐2mm)を多く含む	136
	262	SE14 中層	土師器 高坏	－	－	－	5YR6/8 橙	5YR7/8 橙	良好	ミガキ	ケズリ ユビオサエ	1 多			微 多			143
	263	SE14 中層	土師器 高坏	－	－	－	5YR5/6 明赤褐	7.5YR5/4 にぶい褐	良好	ミガキ ハケメ	ナデ ハケメ	0.5 多	1 少				赤色塗彩か	133
	264	SE14 中層	土師器 高坏	－	(13.0)	－	7.5YR6/6 橙	7.5YR5/4 にぶい褐	良好	ナデ	ケズリ ナデ ミガキ		1 多					129
	265	SE14 中層	土師器 高坏	－	(12.2)	－	10YR6/4 にぶい黄橙	10YR5/3 にぶい黄褐	良好	ミガキ ハケメ ナデ	ケズリ ナデ	1 多	1 少	1 微				134
	266	SE14 中層	土師器 器台	－	－	－	10YR6/4 にぶい黄橙	10YR6/4 にぶい黄橙	良好	波状文 刻目	ナデ		1 多		微 多		器表面摩滅	233
	267	SE14 中層	土師器 高坏or 器台	－	(10.8)	－	5YR6/6 橙	10YR7/4 にぶい橙	良好	ナデ	ナデ	1 少	微 僅				円形の穿孔	115

※胎土 A:宮崎小石 B:長石・石英 C:輝石・角閃石 D:雲母 E:黒染

第 9 表 出土土器観察表⑥

掲載頁 図番号	番号	遺構 等	種別 器種	法量cm（ ）:復元 口径	底径	器高	色調 外面	内面	焼成	調整 外面	内面	胎土(上:mm 下:量) A	B	C	D	E	備考	実測
p.62 第53図	268	SE14 中層	土師器 壷	3.4	2.8	5.35	7.5YR6/4 にぶい橙	－ －	不良	ユビオサエ ナデ	ユビオサエ ナデ	2.5 多	1.5 少				外底面：ナデ、ユビオサエ	87
	269	SE14 中層	土師器 壷	5.0	1.0	5.5	7.5YR6/6 橙	7.5YR4/3 褐	良好	ナデ	ナデ ユビオサエ	1 多	1 少				外底面：ナデ	86
	270	SE14 中層	土師器 鉢	－	3.3	－	7.5YR6/4 にぶい橙	10YR4/2 灰黄褐	良好	ナデ	不明	3 少	微 僅				外底面：ナデ	263
	271	SE14 中層	土師器 鉢	－	2.2	－	5YR7/2 明褐灰	10YR5/2 灰黄褐	良好	ナデ	ナデ	2 少					蓋かもしれない	264
p.63 第54図	272	SE14 中層	土師器 ミニチュア	(7.9)	－	3.4	10YR6/4 にぶい黄橙	10YR5/3 にぶい黄褐	良好	ユビオサエ ナデ	ユビオサエ ナデ	1 少	1 少				外底面：ユビオサエ、ナデ	258
	273	SE14 中層	土師器 ミニチュア	－	－	－	10YR7/1 灰白	N7/0 灰白	やや 良好	ユビオサエ ナデ	ナデ	4 多	0.5 少					88
	274	SE14 中層	土師器 ミニチュア	5.2	－	2.4	7.5YR6/6 橙	7.5YR5/4 にぶい褐	良好	ユビオサエ ナデ	ユビオサエ ナデ	4 多	1 僅				外底面：ナデ	83
	275	SE14 中層	土師器 ミニチュア	5.0	－	2.7	7.5YR6/6 橙	7.5YR7/1 明褐灰	良好	ナデ	ユビオサエ	3 少	1 多	1 僅				84
	276	SE14 中層	土師器 ミニチュア	4.5	－	2.3	7.5YR6/6 橙	7.5YR4/3 褐	良好	ナデ ユビオサエ	ナデ ユビオサエ	1 少	1 少				外底面：ナデ	81
	277	SE14 中層	土師器 ミニチュア	3.8	－	3.5	5YR5/6 明赤褐	5YR3/1 黒褐	良好	ユビオサエ ナデ	ナデ	1 少	微 僅				外底面：ナデ	82
	278	SE14 中層	土師器 ミニチュア	3.4	1.0	1.3	2.5Y4/2 暗灰黄	10YR4/1 褐灰	良好	ナデ	ナデ	1 僅	2 少				外底面：ナデ	85
	279	SE14 中層	土師器 高坏	－	－	－	7.5YR8/6 浅黄橙	10YR7/6 明黄褐	良好	ナデ ユビオサエ	ナデ	1～2 少	1 少					145
	280	SE14 中層	土師器 羽口	－	－	－	2.5Y5/1 黄灰	10YR5/2 7.5YR6/4 灰黄褐 にぶい橙	良好	ナデ ユビオサエ	不明						植物繊維を多く含む、強く熱を受ける	266
	281	SE14 中層	土製品 不明	－	－	－	2.5YR5/6 7.5YR5/3 明赤褐 にぶい褐		良好	ナデ ユビオサエ		微 少	1 多		微 多			153
p.67 第58図	292	SE14 上層	土師器 甕	－	－	－	7.5YR6/4 にぶい橙	7.5YR6/4 にぶい橙	良好	ヨコナデ	ヨコナデ		1 多		1 僅			64
	293	SE14 上層	土師器 鉢	－	－	－	7.5YR6/4 にぶい橙	7.5YR6/4 にぶい橙	良好	波状文 ミガキ	ナデ ハケメ		1 多		微 多			59
	294	SE14 上層	土師器 器台	－	－	－	5YR7/6 橙	7.5YR6/4 にぶい橙	やや 良好	竹管文 刻み目	ハケメ		1 多	微 僅			胎土中に軽石粒を含む	66
	295	SE14 上層	土師器 壷	(8.0)	－	－	7.5YR6/4 にぶい橙	10YR7/4 にぶい黄橙	良好	ヨコナデ ハケメ	ヨコナデ ユビオサエ		1 多					60
	296	SE14 上層	土師器 高坏	－	－	－	10YR6/3 にぶい黄橙	10YR6/3 にぶい黄橙	良好	ハケメ	摩滅により不明		1～3 多				脚台天井部に成形時の刺突具痕有り	67
	297	SE14 上層	土師器 坏	(10.7)	4.4	2.9	7.5YR6/4 にぶい橙	7.5YR5/4 にぶい褐	良好	回転ナデ	回転ナデ		1 僅				外底面：ヘラ切り	68
	298	SE14 上層	須恵器 坏蓋	(17.0)	－	2.5	10YR7/2 にぶい黄橙	2.5YR7/2 明赤灰	不良	回転ヘラケズリ 回転ナデ	回転ナデ						微細砂礫僅かに含む	70
	299	SE14 上層	須恵器 甕	－	－	－	10Y5/1 灰	10Y5/1 灰	堅緻	回転ナデ タタキ	回転ナデ 当て具痕後 ナデ		微 少				71と接合	79-1
	300	SE14 上層	須恵器 壷	－	－	－	5Y6/2 灰オリーブ	2.5Y6/1 黄灰	堅緻	平行タタキ	回転ナデ ナデ		1～2 少					80
p.68 第60図	302	SH58	土師器 甕	－	－	－	10YR7/6 明黄褐	10YR6/4 にぶい黄褐	良好	ヨコナデ ハケメ後ナデ	ハケメ ヨコナデ ケズリ		1 多					25
	303	SH143	土師器 甕	－	－	－	7.5YR5/3 にぶい褐	5YR5/4 にぶい赤褐	良好	ヨコナデ ハケメ	ナデ ユビオサエ ケズリ		3 多		1 僅		外面に吹きこぼれ・外面スス付着	26
	304	SH58 +SH143	土師器 高坏	(14.0)		－	7.5YR6/4 にぶい橙	7.5YR6/4 にぶい橙	良好	ハケメ後 ヨコナデ ケズリ	ヨコハケ後 ヨコナデ		微 多		微 多			20
	305	SH183	土師器 甕	－	－	－	7.5YR5/3 にぶい褐	5YR5/4 にぶい赤褐	良好	ヨコナデ ナデ	ハケメ ユビオサエ ケズリ		1 多		微 僅			28
	306	SH183	土師器 器台	－	－	－	10YR6/3 にぶい黄橙	7.5YR5/4 にぶい褐	良好	ミガキ	ハケメ後ナデ		1 多				鉄分粒を含む	29

※胎土 A:宮崎小石 B:長石・石英 C:輝石・角閃石 D:雲母 E:黒染

第 10 表 出土土器観察表⑦

掲載頁 図番号	番号	遺構等	種別 器種	法量cm ( ):復元 口径	底径	器高	色調 外面	内面	焼成	調整 外面	内面	胎土(上:mm 下:量) A	B	C	D	E	備考	実測
p.68 第60図	307	SE4	土師器 高坏	-	12.1	-	7.5YR6/4 にぶい橙	7.5YR6/4 にぶい橙	良好	ユビオサエ ナデ ヨコナデ	ヨコナデ ケズリ		1 少		1 多		脚台付け根強く被熱 外底面:ヨコナデ	40
p.69 第61図	308	Ⅲ層	土師器 甕or壷	-	-	-	7.5YR6/4 にぶい橙	7.5YR5/4 にぶい褐	良好	ヨコナデ	ヨコナデ		1 多		1 少		内面にモミ圧痕	30
	309	Ⅲ層	土師器 壷	(13.0)	-	-	7.5YR5/4 にぶい褐	5YR5/4 にぶい赤褐	良好	ヨコナデ	ヨコナデ ケズリ		1 多		1 僅			56
	310	Ⅲ層	土師器 壷	(11.9)	-	-	10YR3/1 黒褐	7.5YR5/4 にぶい褐	良好	ヨコナデ	ヨコナデ ケズリ		1 多		1 微		外面黒塗りか?	32
	311	Ⅲ層	土師器 壷	(8.8)	-	-	7.5YR5/3 にぶい褐	10YR4/1 褐灰	良好	ヨコナデ ハケメ	ヨコナデ ナデ ケズリ	2 多			1 僅			33
	312	Ⅲ層	土師器 壷	-	-	-	10YR6/4 にぶい黄橙	10YR4/1 褐灰	良好	ミガキ	ナデ	1 多	1 多				外底面:ミガキ	34
p.72 第64図	313	SE19	土師器 甕	(16.6)	(4.2)	-	5YR5/4 にぶい赤褐	10YR5/2 灰黄褐	やや 良好	ヨコナデ ハケメ後ナデ	ナデ ハケメ後ナデ ユビオサエ	2～5 多	1 僅				外底面:ハケメ後ナデ	58
	314	SB15	土師器 坏	-	(6.0)	-	5YR6/6 橙	5YR6/6 橙	良好	回転ナデ	回転ナデ	0.5 僅	1～2 僅	1 僅			外底面:ヘラ切り、ナデ	15
	315	SB15	土師器 坏	-	(4.8)	-	7.5YR6/4 にぶい橙	7.5YR6/4 にぶい橙	良好	回転ナデ	回転ナデ 後ナデ	微 僅	1～2 僅				外底面:ヘラ切り	17
	316	SH36	須恵器 坏蓋	-	-	-	7.5YR5/4 にぶい褐	7.5YR5/4 にぶい褐	不良	回転ケズリ 回転ナデ	ナデ	1～2 多	1 僅				生焼け須恵器	23
	317	SE2	土師器 坏	(13.8)	(8.0)	4.3	5YR6/6 橙	7.5YR6/4 にぶい橙	良好	回転ナデ	回転ナデ ナデ		微 僅		微 多		外底面:ヘラ切り	38
	318	SE2	土師器 坏	-	6.7	-	7.5YR6/6 橙	5YR5/6 明褐	良好	回転ナデ	回転ナデ	1 僅					外底面:回転ナデ	36
	319	SE8	土師器 坏	-	(6.0)	-	5YR6/6 橙	5YR6/6 橙	良好	回転ナデ	回転ナデ		1 僅				外底面:ヘラ切り	46
	320	SE8	須恵器 甕	-	-	-	10YR4/1 褐灰	10YR4/1 褐灰	堅緻	タタキ ナデ	ナデ		1 僅					47
	321	SC3	磁器 碗	-	-	-	7.5GY7/1 明緑灰	5G7/1 明緑灰	良好	-	-						内面に染付	19

※胎土 A:宮崎小石 B:長石・石英 C:輝石・角閃石 D:雲母 E:黒染

第 11 表 古墳時代以降出土石器計測分類表

掲載 頁	図 番号	掲載 番号	遺構等	器種	石材	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重量 (g)	備考	実測 No.
p.43	第34図	131	SA1No.6	敲石	砂岩	8.7	6.0	4.3	305.6		272
p.64	第55図	282	SE14 中層	敲石	砂岩	16.6	8.3	3.8	700.0		283
		283	SE14 中層	砥石	珪化木	8.5	3.7	1.6	76.2		270
		284	SE14 中層	敲石	砂岩	8.9	7.9	3.7	345.7		278
		285	SE14 中層	敲石	砂岩	11.9	9.2	6.9	986.2		282
p.65	第56図	286	SE14 中層	敲石	砂岩	10.6	5.9	5.2	492.0		279
		287	SE14 中層	敲石	砂岩	10.4	8.1	3.1	320.4		277
		288	SE14 中層	敲石	凝灰岩	14.0	10.8	4.8	660.0		276
p.66	第57図	289	SE14 中層	軽石加工品	軽石	18.3	9.5	4.3	190.0		285
		290	SE14 中層	軽石加工品	軽石	11.9	11.4	4.8	117.6		286
		291	SE14 中層	石包丁	頁岩	4.0	3.8	0.5	11.4		269
p.67	第58図	301	SE14 上層	敲石	砂岩	20.0	16.0	5.6	1990.0		275
p.72	第64図	322	SE7	軽石加工品	軽石	6.8	3.5	2.2	10.8	人形に加工か	267
		323	試掘Tr1	敲石	砂岩	7.9	4.3	2.5	150.4	砥石を転用 鉄分付着	271

( )の値は残存値を示す

第Ⅳ章　調査成果のまとめ

第１節　旧石器時代について

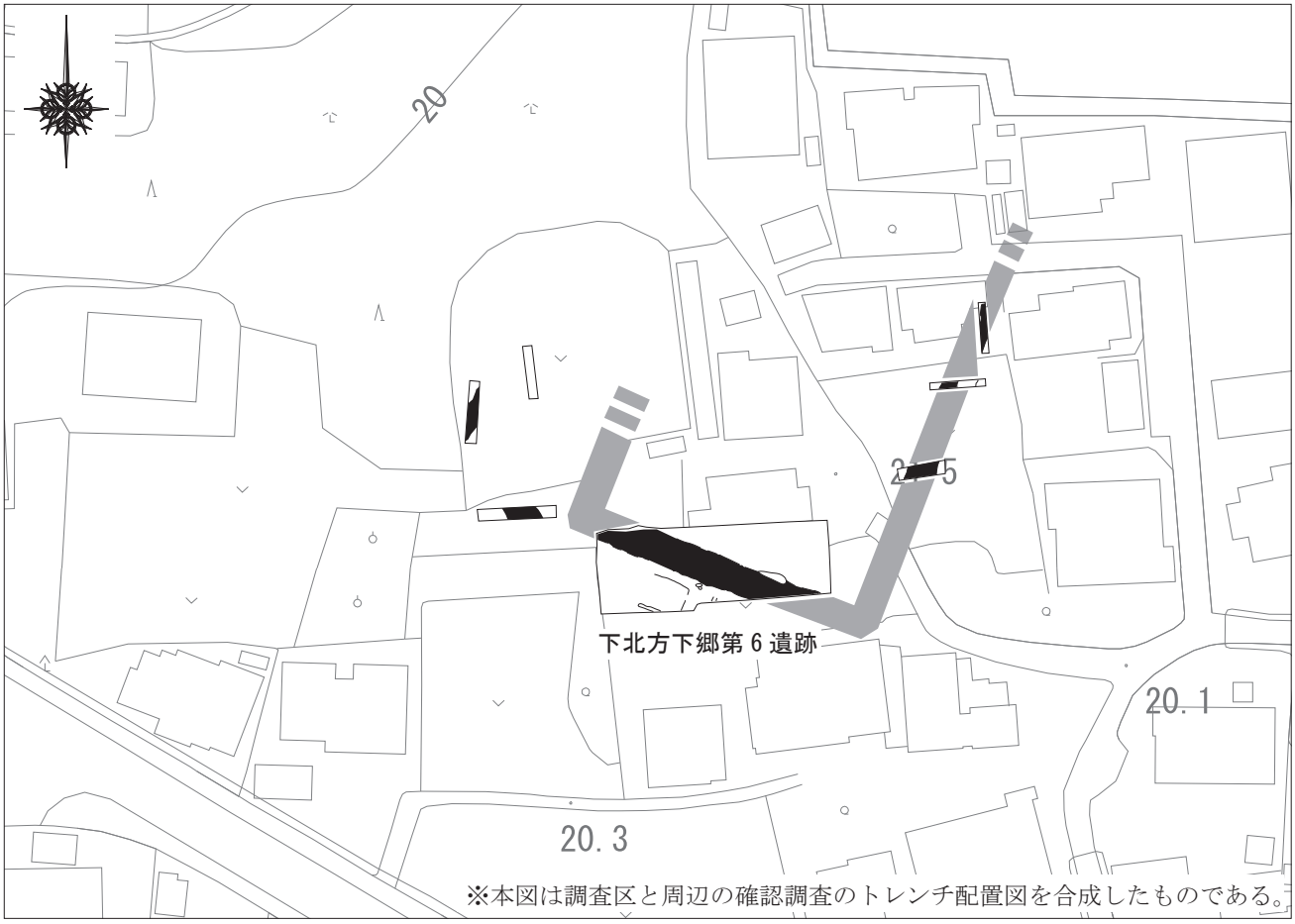
トレンチ１で検出された石器集中部では、角錐状石器、国府型ナイフ形石器を含む多数の接合資料が確認された。石材の分布は西側と東側のブロックで分かれるものの、垂直分布に差がみられないこと、ブロック間で相互に接合すること、石器の種類が類似すること等から、ほぼ同時期に形成された石器製作址と推測される。角錐状石器が小型であることや国府型ナイフ形石器を伴うといった特徴から、これらの石器群は宮崎平野部の第６段階に位置づけられる。接合資料には角錐状石器を作出するものと瀬戸内技法第２工程にかかるものがある。接合資料⑦は、同一の素材剥片から角錐状石器と瀬戸内技法第２工程による翼状剥片を作出しており、両者の同時性と近縁性が確認できる。また、山形打面の一辺に自然面のカーブを利用するものがあることや、打面調整の粗さが目立つといった、宮崎平野部の瀬戸内技法にみられる特徴を顕著に有した石器群といえる。

第２節　古墳時代前期について

溝状遺構14の掘削時期については、床面出土の土師器片の年代から古墳時代前期以降と推測される。ただし、小片であり流れ込みの可能性が否定できないため、詳細な時期については今後の検証を要する。中層に多量に廃棄された土師器群は、わずかに混入する弥生時代中期から終末期の土器小片を除けば概ね古墳時代前期末（Ⅷｂ期：河野2017）に位置づけられ、在来系とともに精製器種Ｂ群を含む布留式系、伝統的近畿第Ⅴ様式系が混在する。また、中層からは土製の専用羽口280や被熱した敲石285と286が出土しており、鉄製品自体は出土していないものの、同時期に周辺で鉄器製作が行なわれていたことが確認できる。完全に埋没したのは、上層出土の土師器坏297が10世紀中葉から後葉に位置づけられることから、10世紀後葉から高原スコリア降灰前（13世紀）には完全に埋没したことがわかる。これらを総合すると、詳細な時期は不明だが古墳時代前期前半から後葉頃には溝が掘削され、その後0.5mほど埋まった古墳時代前期末に多量の土師器が廃棄された後放置され、自然堆積により埋没していったものと考えられる。

この溝状遺構14は直線的に延びており、その規模からも一定の空間を区画する意図をもった溝であると推測される。周辺の確認調査の状況をみると、溝状遺構14の北東付近に直線的に延びる規模の大きな溝状遺構が検出されており、溝状遺構14とほぼ直行する角度に延びている。トレンチ調査でありこれらが接続する確証はないが、今回の調査区が地形的に周辺で最も標高が高い位置にあることからも、方形区画を呈する可能性は十分に考えられる。

その他の遺構では、竪穴建物１の床面出土土器が溝状遺構14の中層出土土器とほぼ同時期に位置づけられる。今回調査地の西側に隣接する調査区（下北方下郷第５遺跡）でも、古墳前期後葉から末の土器が一定量出土していることから、溝状遺構14の南側を中心として、同時期の竪穴建物群が広がるものとみられる。



第 65 図　溝状遺構 14 の推定模式図 (S=1/1000)

【引用文献】

秋成雅博　2013「宮崎県における瀬戸内技法の様相」『九州旧石器』第 17 号　九州旧石器文化研究会

今塩屋毅行　2016「日向国における奈良時代の土器相～宮崎県宮ノ東遺跡の調査事例から～」『宮崎県央地域の考古資料に関する編年的研究』Ⅱ　宮崎考古学会

河野裕次　2017「宮崎県の様相－宮崎平野南部を中心に－」『九州島における古式土師器』第 19 回九州前方後円墳研究会長崎大会　発表要旨集・基本資料集　同研究会

河野裕次・加覧純一　2018「宮崎県の様相－集落と古墳の動態について－」『集落と古墳の動態Ⅰ－弥生時代終末期～古墳時代前期－』第 21 回九州前方後円墳研究会鹿児島大会発表資料集　同研究会

久住猛雄　1999「北部九州における庄内式併行期の土器様相」『庄内式土器研究』19　庄内式土器研究会

竹中克繁　2010「日向国における古代土器の変遷－宮崎平野部の須恵器・土師器椀編年－」『先史学・考古学論究Ⅴ』下巻　龍田考古学会

堀田孝博　2012「宮崎平野部における平安時代の土器について－土師器供膳具を中心に－」『宮崎考古』第 23 号　日高正晴先生追悼記念号（上巻）　宮崎考古学会

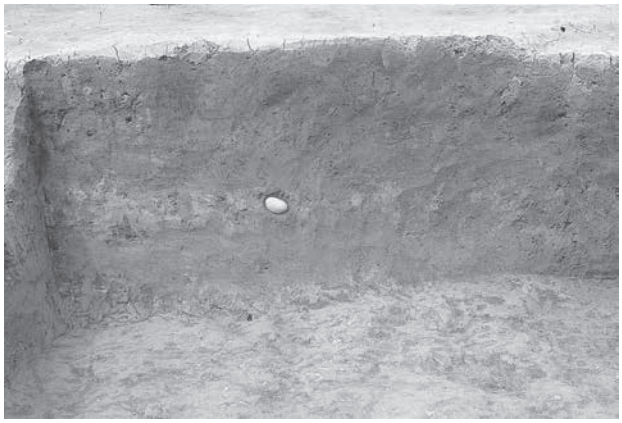
宮崎市教育委員会　2016『下北方下郷第 5 遺跡』宮崎市文化財調査報告書第 112 集

図版1

下北方遺跡群空中写真（東より大淀川を望む）

調査区空中写真

図版 2

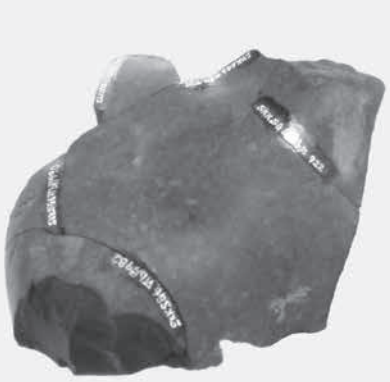


１段目左：基本土層下部 b-b’

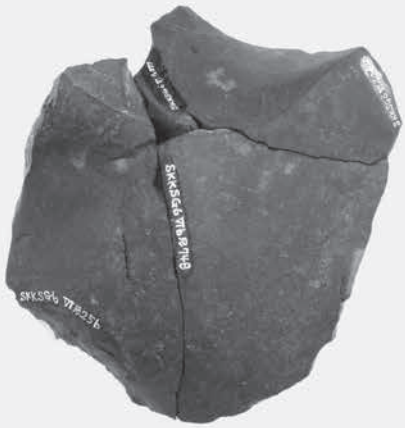
１段目右：トレンチ 1 旧石器礫群 24（南東から）

２段目左：トレンチ 2 旧石器礫群 26（南西から）

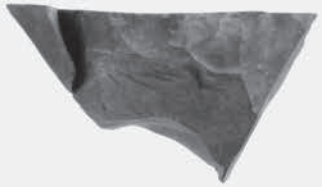
３段目　：旧石器遺物包含層出土石器①



接合資料①

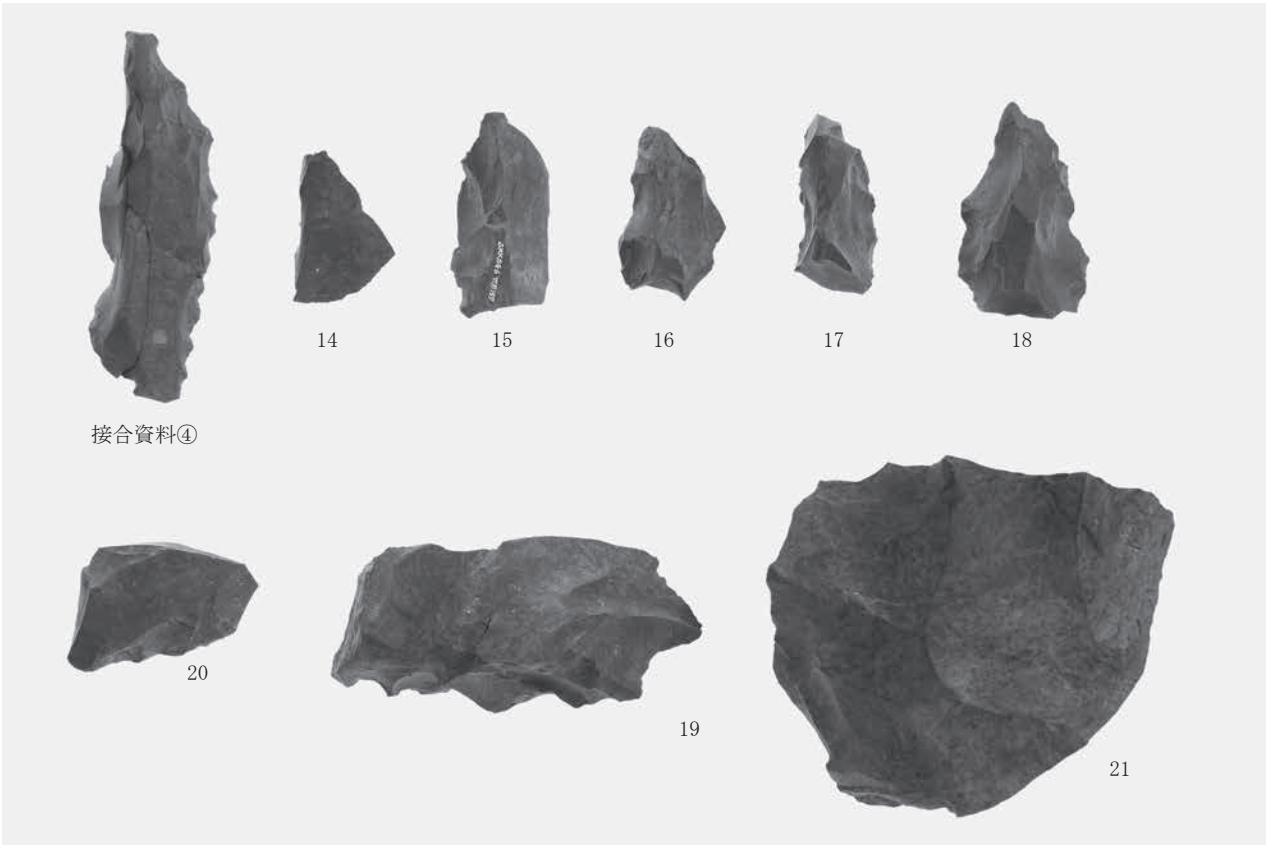


接合資料②

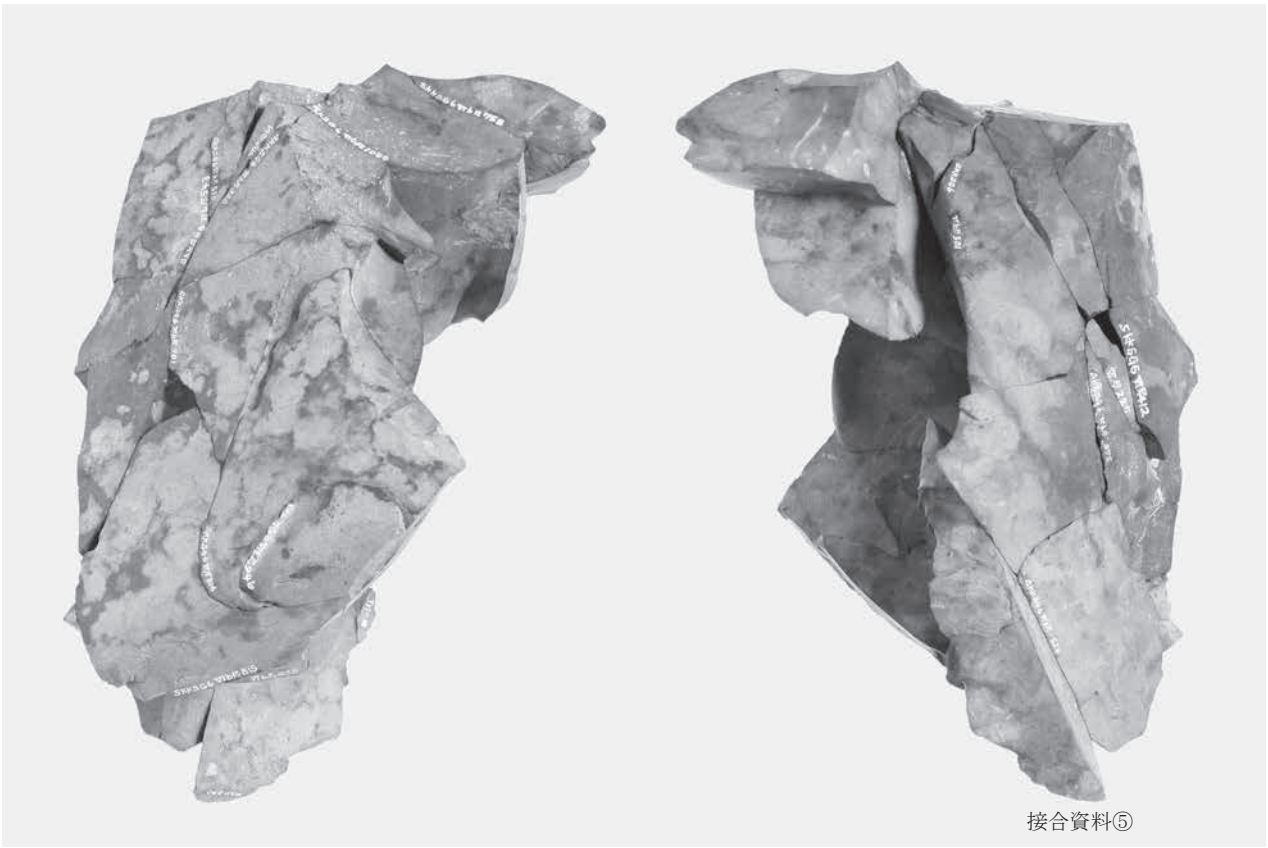


接合資料③

図版3

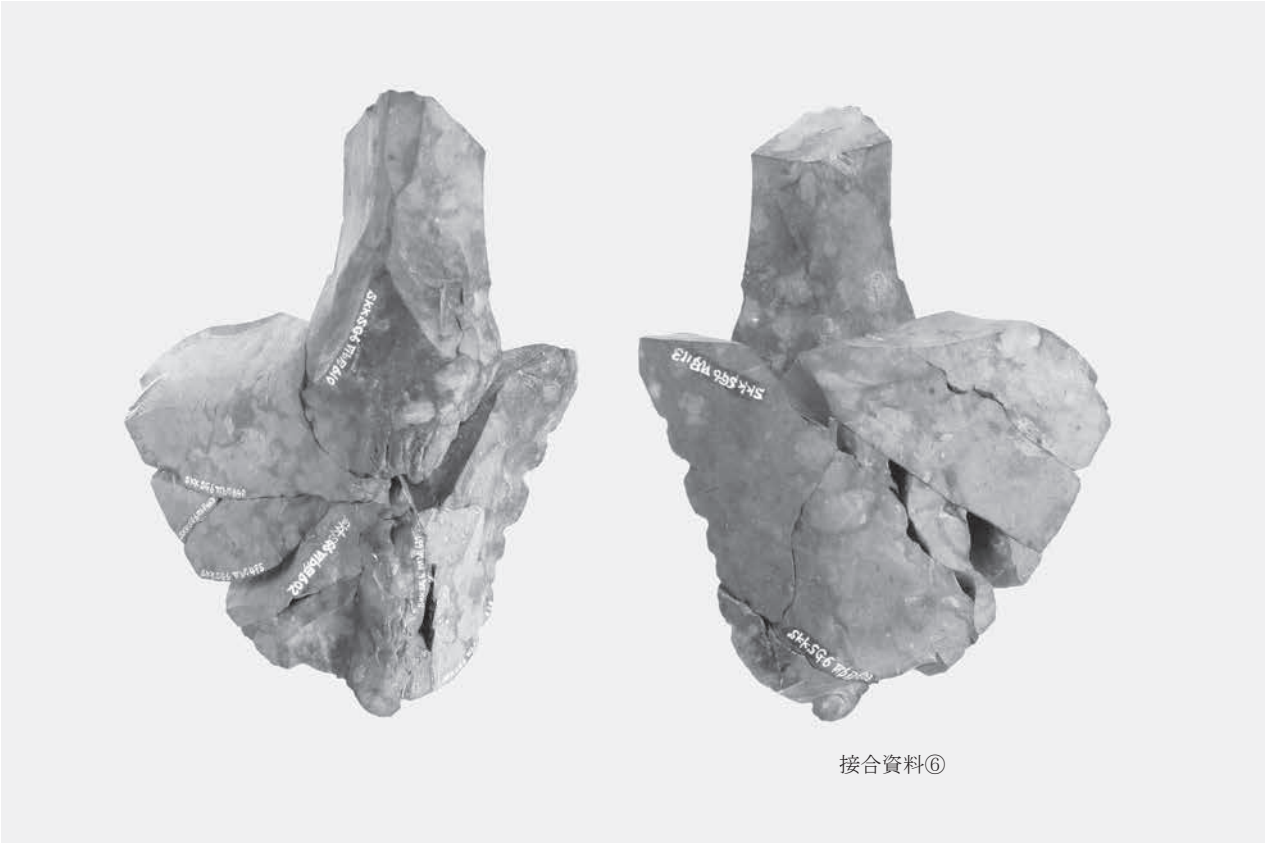


旧石器遺物包含層出土石器②



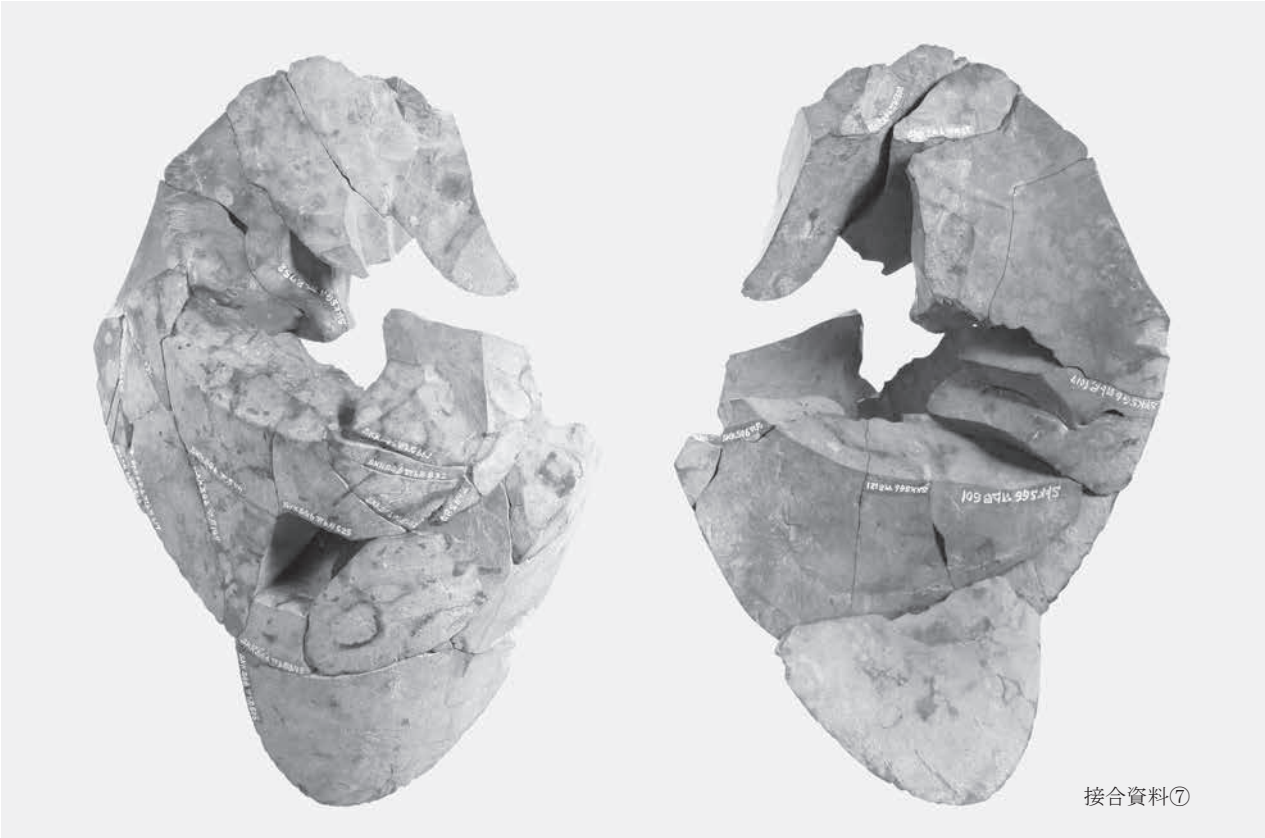
旧石器遺物包含層出土石器③

図版4



接合資料⑥

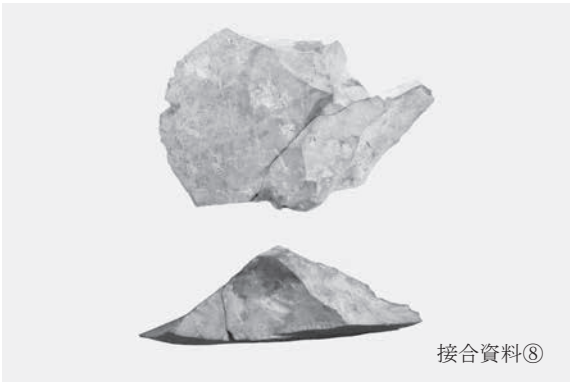
旧石器遺物包含層出土石器④



接合資料⑦

旧石器遺物包含層出土石器⑤

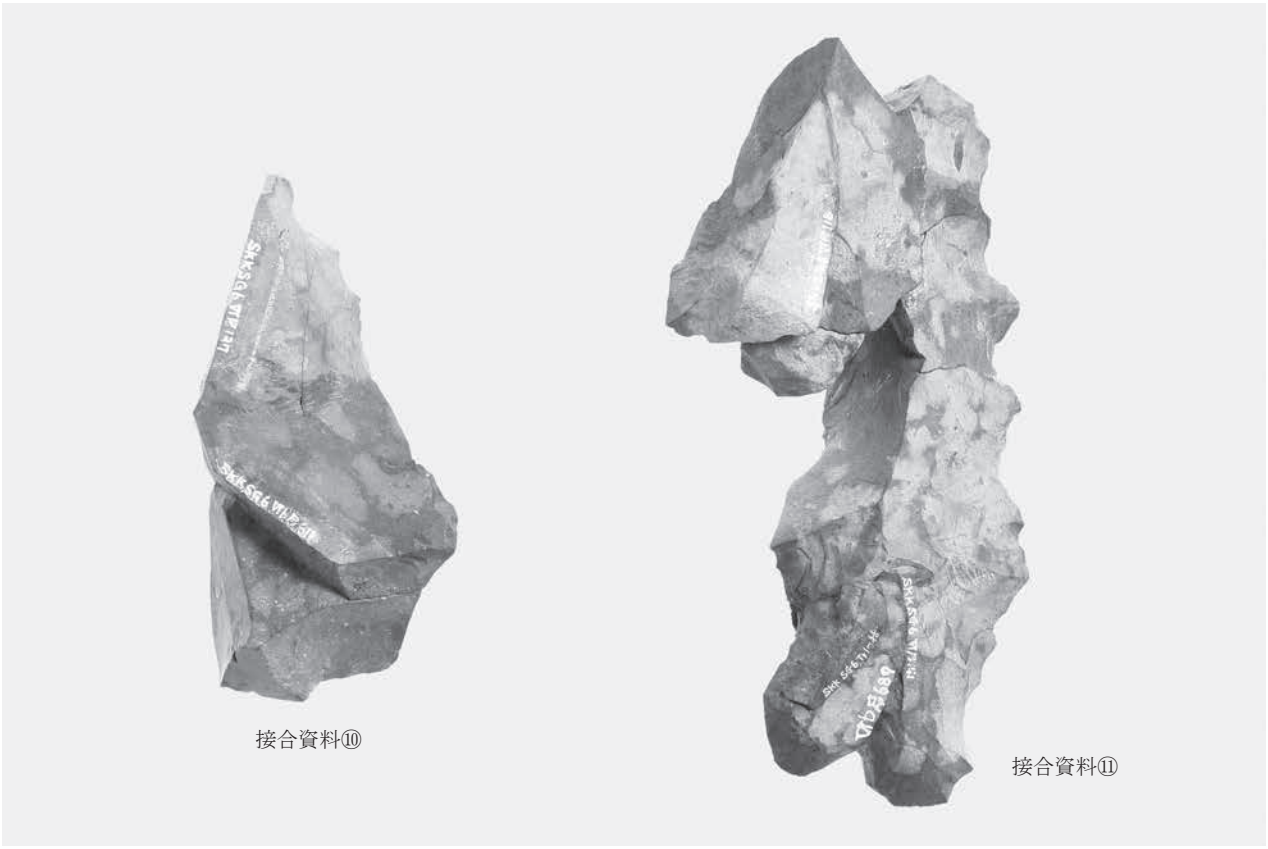
図版5



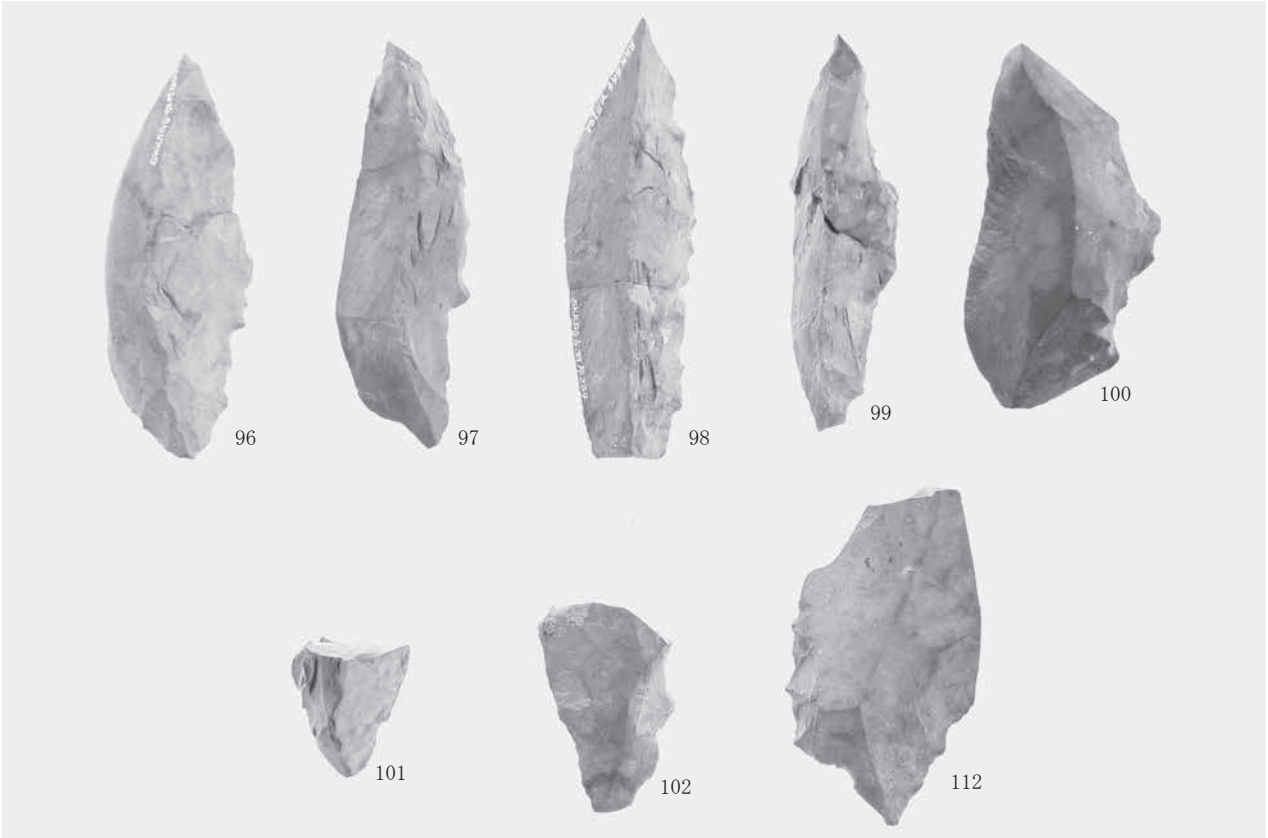
旧石器遺物包含層出土石器⑥

旧石器遺物包含層出土石器⑦

図版6

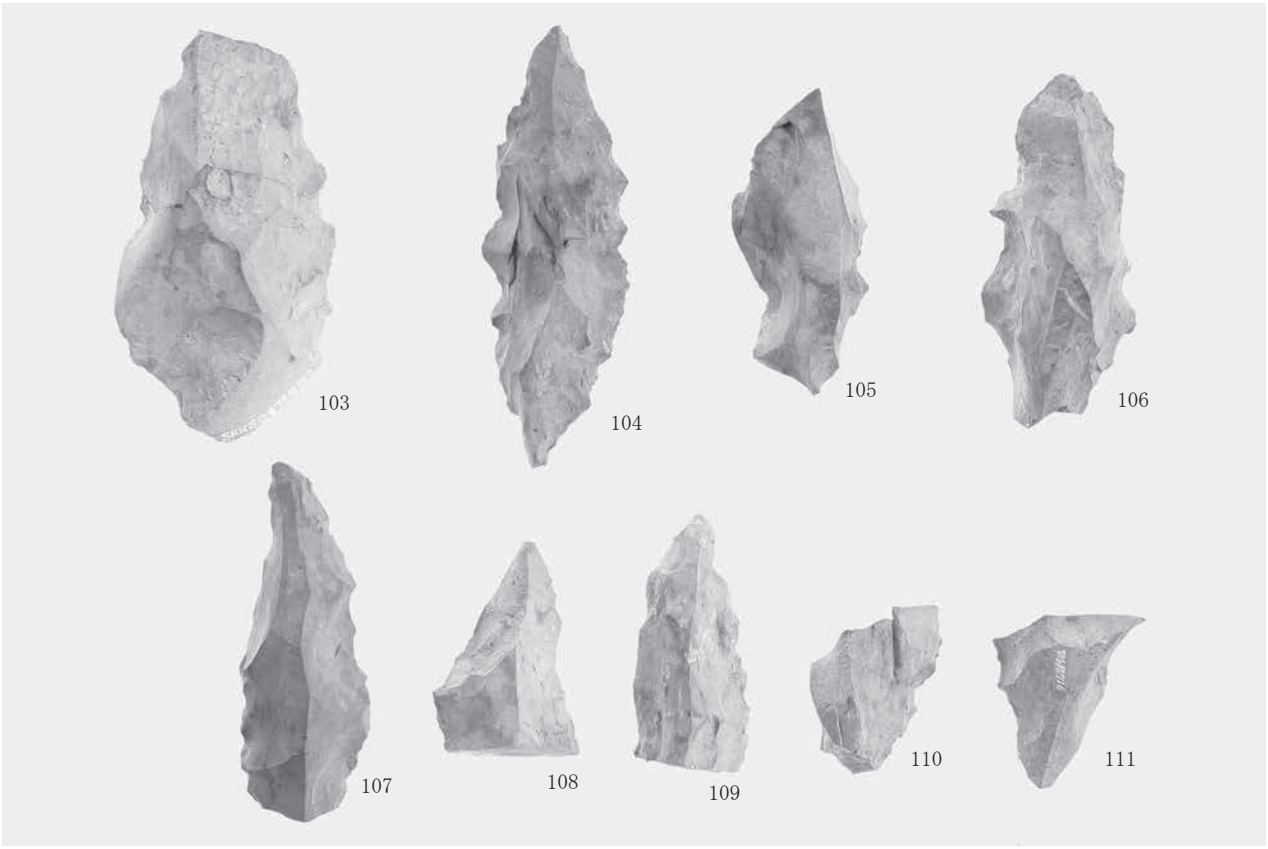


旧石器遺物包含層出土石器⑧

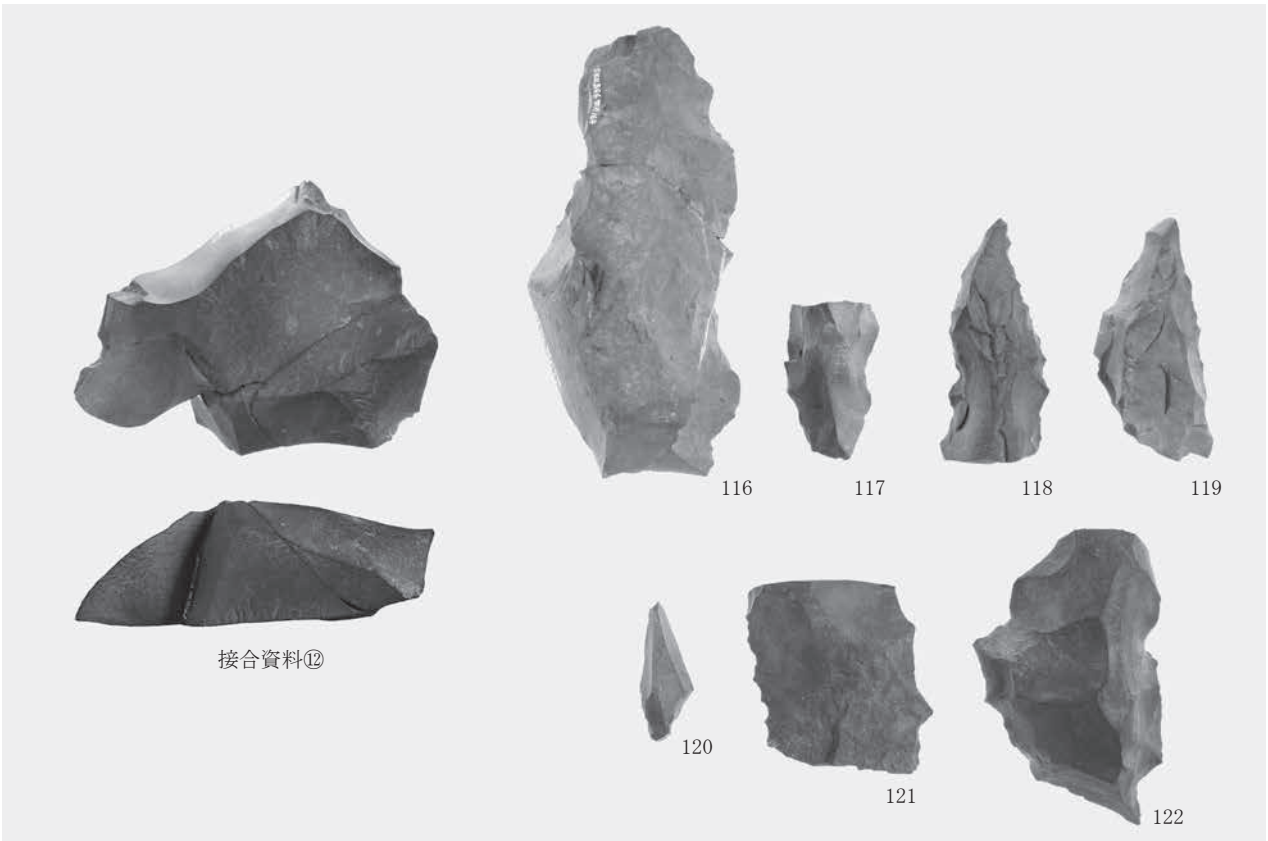


旧石器遺物包含層出土石器⑨

図版7



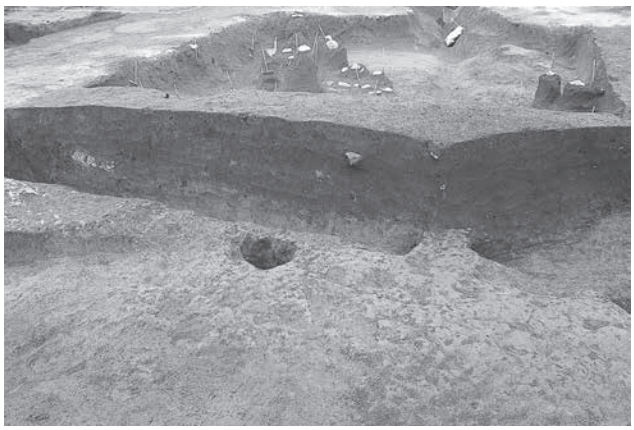
旧石器遺物包含層出土石器⑩



旧石器遺物包含層出土石器⑪

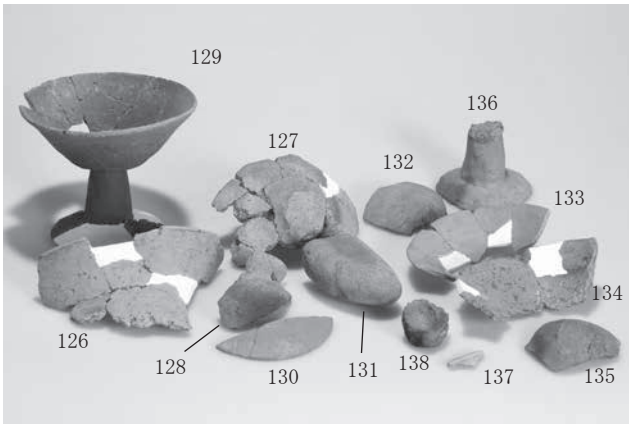
図版8

竪穴建物１全景（南から）

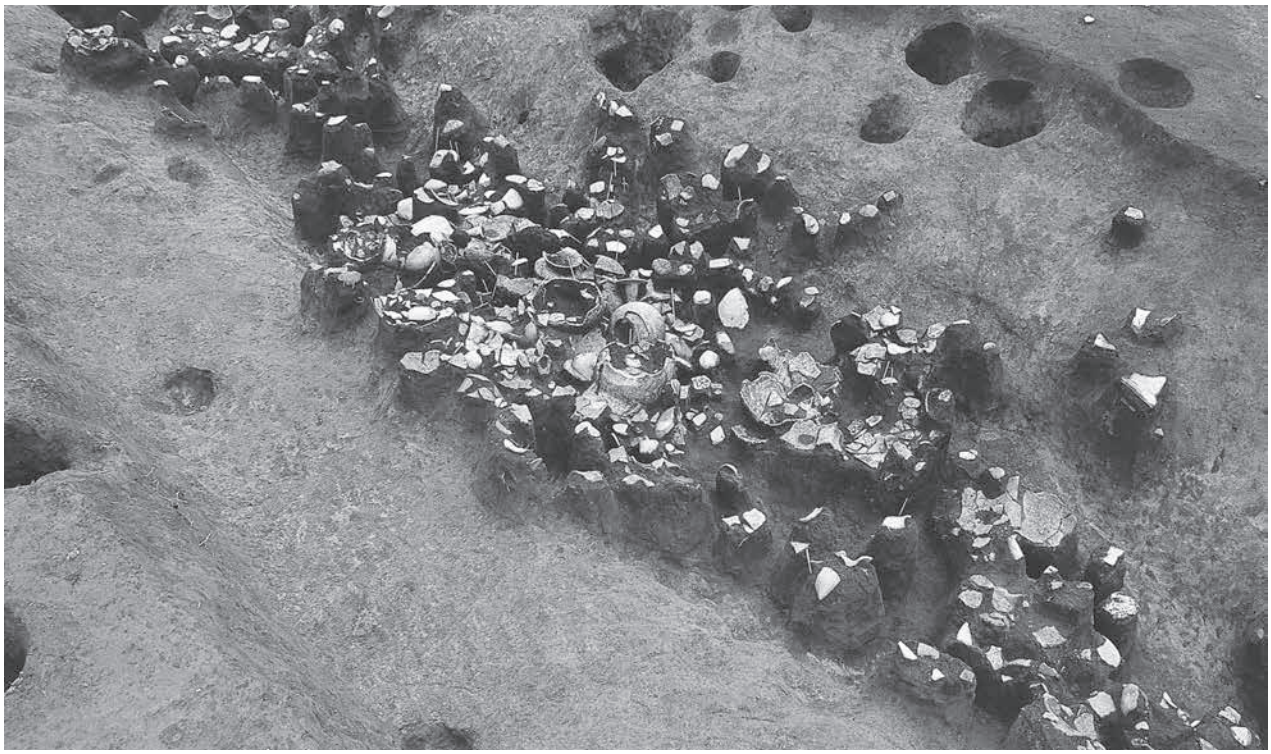


竪穴建物１土層（西から）

竪穴建物１焼土下遺物検出状況（西から）



竪穴建物１出土遺物



溝状遺構14（中層）遺物出土状況

図版9

溝状遺構 14（中層）遺物出土状況（北西から）

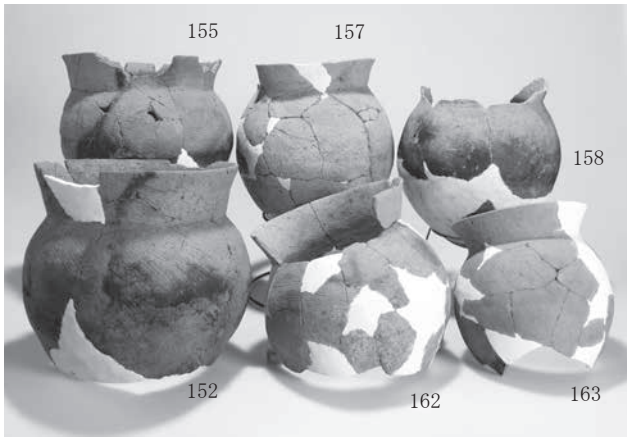
溝状遺構 14 土層（北西から）

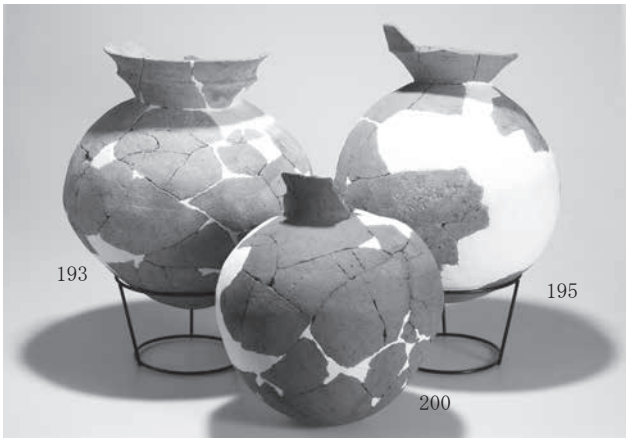
溝状遺構 14 完掘状況①（北西から）

溝状遺構 14 完掘出土状況②（北西から）

溝状遺構 14 中層出土遺物①

図版10





1段目左：溝状遺構 14 中層出土遺物②

1段目右：溝状遺構 14 中層出土遺物③

2段目左：溝状遺構 14 中層出土遺物④

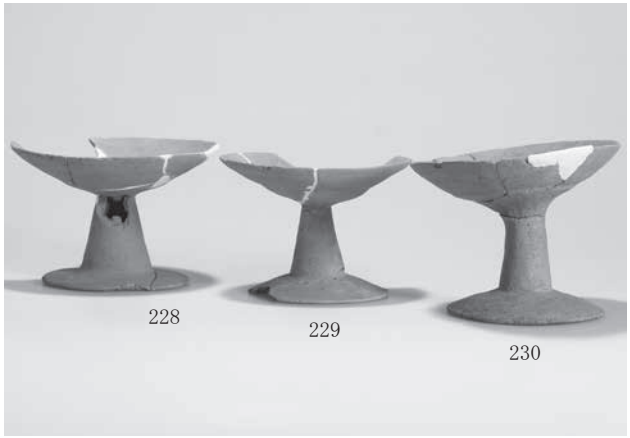
2段目右：溝状遺構 14 中層出土遺物⑤

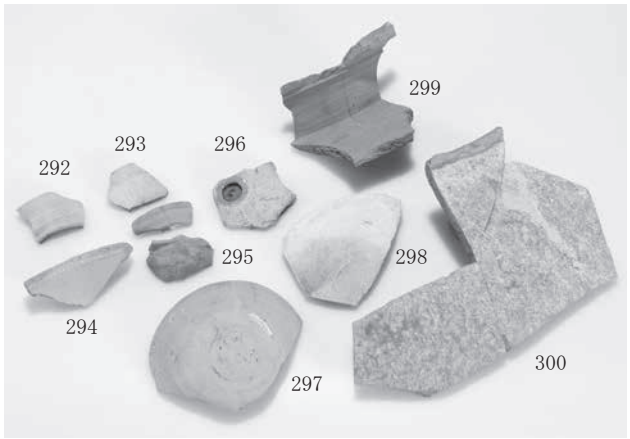
3段目左：溝状遺構 14 中層出土遺物⑥

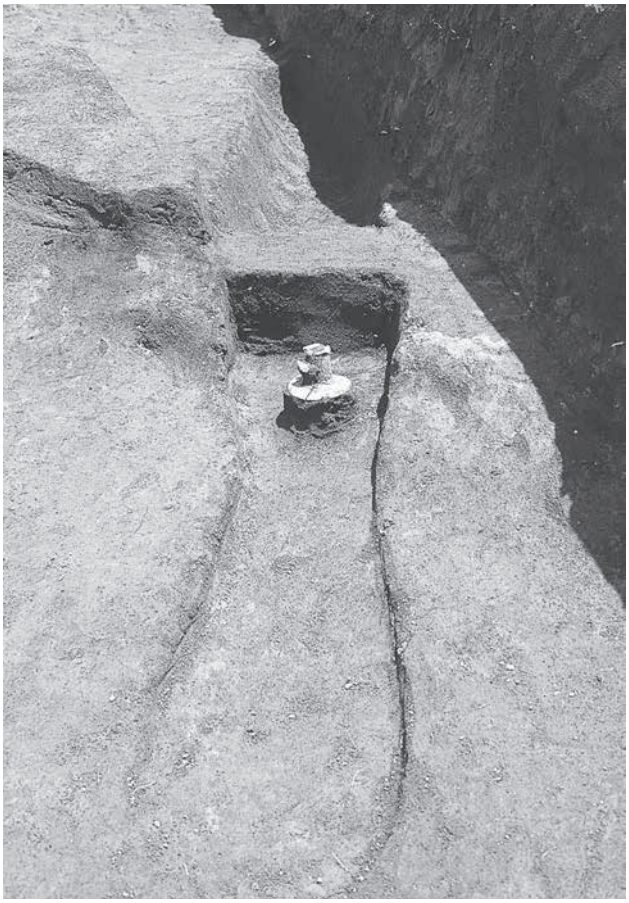
3段目右：溝状遺構 14 中層出土遺物⑦

4段目左：溝状遺構 14 中層出土遺物⑧

図版 11







1 段目左：溝状遺構 14 中層出土遺物⑨

1 段目右：溝状遺構 14 中層出土遺物⑩

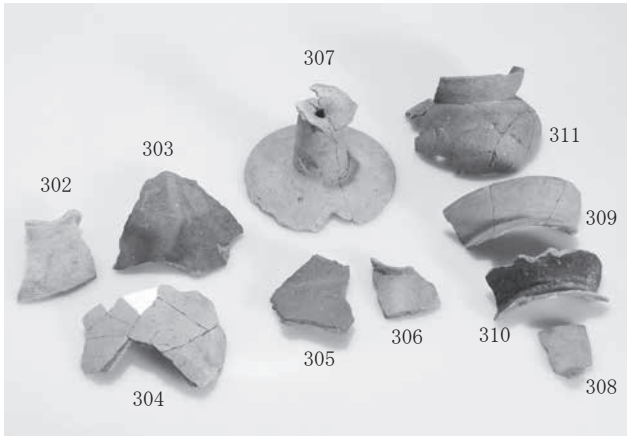
2 段目左：溝状遺構 14 中層出土遺物⑪

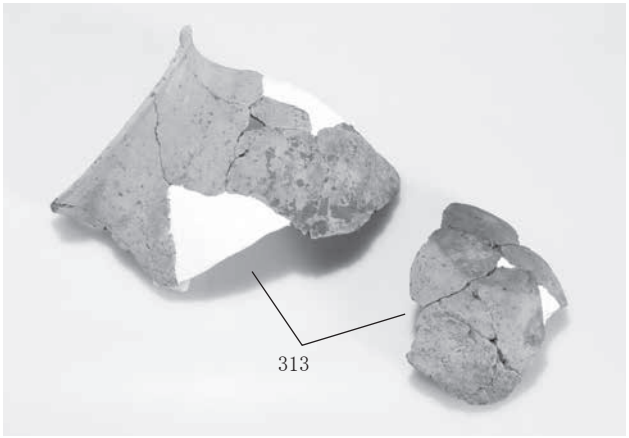
2 段目右：溝状遺構 14 中層出土遺物⑫

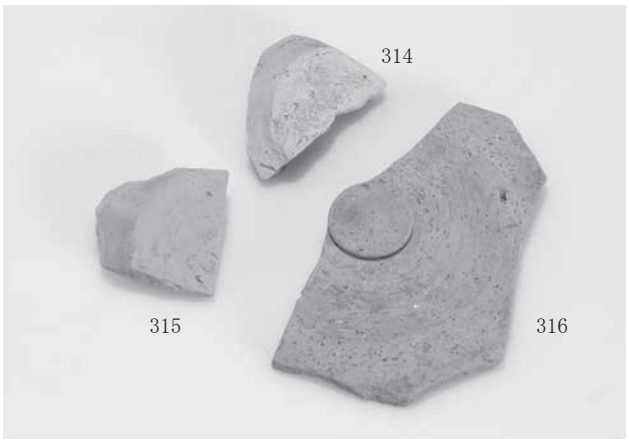
3 段目左：溝状遺構 14 上層出土遺物

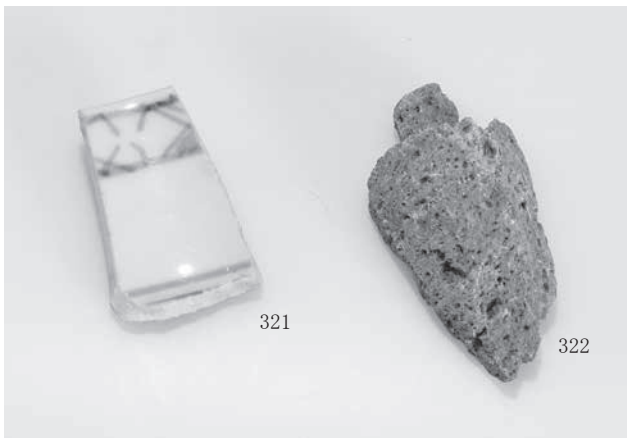
3 段目右：溝状遺構 4 遺物出土状況

図版12









1段目左：古墳時代その他出土遺物

1段目右：溝状遺構 19 出土遺物

2段目左：掘立柱建物 15 完掘状況（東から）

2段目右：掘立柱建物 15 出土遺物

3段目左：土坑 3 遺物出土状況（北から）

3段目右：土坑 13 半裁状況（西から）

4段目左：近世遺構出土遺物

報 告 書 抄 録

ふりがな	しもきたかたしもごうだいろくいせき
書名	下北方下郷第 6 遺跡
副書名	平成 26 年度国宝重要文化財等保存整備費補助金対象事業発掘調査報告書
巻次	
シリーズ名	宮崎市文化財調査報告書
シリーズ番号	第 123 集
編集者名	河野　裕次
発行機関	宮崎市教育委員会
所在地	〒 880-2101　宮崎市大字跡江 4200 番地 3　宮崎市生目の杜遊古館 TEL 0985-47-8012
発行年月日	2019 年 3 月 27 日

ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード 市町村	コード 遺跡番号	北緯	東経	調査期間	調査面積
下北方遺跡群（しもきたかたいせきぐん）	宮崎市（みやざきし） 下北方町下郷（しもきたかたまちしもごう） 6087 － 2 外（ほか）	45201	21- 079	31° 56’ 38” 付近	131° 25’ 00” 付近	20140430 ～ 20140725	308㎡

調査原因	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物
個人住宅建築	散布地 集落跡 社寺 古墳	旧石器	礫群	ナイフ形石器、国府型ナイフ形石器、角錐状石器、スクレイパー、二次加工剥片、石核、剥片、敲石
		古墳前期～中期	竪穴建物 溝 土坑 柱穴	土師器、土製品、石包丁、敲石、砥石、羽口、軽石加工品
		古墳後期～近世	掘立柱建物 溝 柱穴 土坑	土師器、須恵器、軽石加工品

特記事項	古墳時代前期末の竪穴建物 1 棟と、検出幅 4.3m、深さ 1.2m の大溝が 1 条検出された。大溝は直線的に掘られており、周辺の確認調査の結果からは方形に廻る可能性が推測される。

宮崎市文化財調査報告書第123集

下北方下郷第6遺跡

平成26年度国宝重要文化財等保存整備費補助金対象事業

発掘調査報告書

2019年3月

発行　宮崎市教育委員会